

外国語学部 国際関係学科 (2006年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	日本文学 (読替科目：文学を読む) 岩本 真理子 他	1学期	1	2	288
		1年			
	中国の漢字と文学 未定	2学期	1	2	
		1年			
	中国の人と文学 未定	1学期	1	2	
		1年			
	西洋史 (読替科目：西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	304
		1年			
	地中海世界の歴史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	1
		1年			
	東洋史 (読替科目：東洋史) 内田 直文	2学期	1	2	305
		1年			
	日本史 (読替科目：日本史) 内山 一幸	2学期	1	2	303
		1年			
	女性史 富安 兆子	2学期	1	2	2
		1年			
	女性と社会 (読替科目：ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	292
		1年			
	哲学入門 (読替科目：倫理学) 伊原木 大祐	2学期	1	2	308
		1年			
哲学の諸問題 堺 正憲	2学期	1	2	3	
	1年				
倫理学原論 (読替科目：現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	297	
	1年				
応用倫理学 (読替科目：現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	289	
	1年				
文化と社会 (読替科目：人間と文化) 重信 幸彦	1学期	1	2	250	
	1年				
人権の歴史 (読替科目：民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	290	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	人権と社会 (読替科目:人権論) 柳井 美枝	1学期	1	2	291
		1年			
	現代と思想 (読替科目:思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	287
		1年			
	経済と社会 (読替科目:グローバル化する経済) 前田 淳 他	1学期	1	2	301
		1年			
	現代社会と経営 (読替科目:企業と社会) 山岡 敏秀	1学期	1	2	296
		1年			
	社会学の考え方 (読替科目:社会学) 稲月 正	1学期	1	2	306
		1年			
	現代社会の解説 (読替科目:現代社会の諸問題) 山本 光英 他	2学期	1	2	298
		1年			
	社会生活と法 柴田 滋	2学期	1	2	4
		1年			
	市民と法 (読替科目:法律の読み方) 小野 憲昭 他	2学期	1	2	263
		1年			
	現代日本の政治 松田 憲忠	2学期	1	2	5
		1年			
	大衆化と政治 (読替科目:市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	295
		1年			
日本国憲法概論 (読替科目:日本国憲法) 植木 淳	2学期	1	2	307	
	1年				
国際学入門 (読替科目:国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	251	
	1年				
現代の国際関係 (読替科目:国際紛争と国連) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	300	
	1年				
政策の構想 中道 壽一	2学期	1	2	6	
	1年				
まちづくり論 古賀 哲矢	2学期	1	2	7	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	地域開発 三宅 博之	1学期	1	2	8
	1年				
	くらしの中の化学物質 (読替科目：くらしと化学) 竹之下 芳也	2学期	1	2	285
	1年				
	地球...その生いたち (読替科目：地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	283
	1年				
	地球と生命 (読替科目：自然史へのいざない) 重信 幸彦 他	2学期	1	2	284
	1年				
	現代人のこころ (読替科目：現代人のこころ) 小松 佐穂子	1学期	1	2	286
	1年				
	遺伝と生命 山根 明弘	2学期	1	2	9
	1年				
	薬とくらし 森 正明	2学期	1	2	10
	1年				
	栄養とくらし (読替科目：自己管理論)	2学期	1	2	258
	1年				
	自然と社会の共生論 (読替科目：自然学のまなざし) 竹川 大介 他	1学期	1	2	282
	1年				
	国際社会と日本 (読替科目：国際社会と日本) 中野 博文	1学期	1	2	302
	1年				
現代世界の展望 (読替科目：現代の国際情勢) 金 鳳珍	1学期	1	2	299	
1年					
支えあう世の中 (読替科目：共生の作法) 山本 光英 他	2学期	1	2	293	
1年					
北九州を知る (読替科目：北九州学) 小野 憲昭	2学期	1	2	294	
1年					
キャリアデザイン(将来設計と学生生活) (読替科目：キャリア・デザイン) 眞鍋 和博	1学期	1	2	259	
1年					
キャリアデザイン(将来設計と学生生活) (読替科目：キャリア・デザイン) 見館 好隆	1学期	1	2	260	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	キャリアデザイン (将来設計と学生生活) (読替科目: キャリア・デザイン) 真鍋 和博	1学期	1	2	261
		1年			
	キャリアデザイン (将来設計と学生生活) (読替科目: キャリア・デザイン) 見館 好隆	1学期	1	2	262
		1年			
■情報処理教育科目	情報処理基礎 中尾 泰士	2学期	1	2	11
		1年			
	ネットワーク通信 廣渡 栄寿	1学期	1	2	12
		1年			
■健康管理教育科目	スポーツ科学 (読替科目: フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	1	252
		1年			
	スポーツ科学 (読替科目: フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	1	253
		1年			
	スポーツ科学 (読替科目: フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	1	254
		1年			
	スポーツ科学 (読替科目: フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	1	255
		1年			
	スポーツ科学 (読替科目: フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	1	256
		1年			
	スポーツ科学 (読替科目: フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	1	257
		1年			
	生涯スポーツI (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (サッカー)) 磯貝 浩久	1学期	1	1	264
		1年			
生涯スポーツI (テニス) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (テニス)) 原田 守治	1学期	1	1	265	
	1年				
生涯スポーツI (バスケットボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バスケットボール)) 原田 守治	1学期	1	1	266	
	1年				
生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 美山 泰教	1学期	1	1	267	
	1年				
生涯スポーツI (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 美山 泰教	1学期	1	1	268	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■健康管理教育科目	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	269
		1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	270
		1年			
	生涯スポーツI (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 高西 敏正	1学期	1	1	271
		1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 徳永 政夫	1学期	1	1	272
		1年			
	生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 磯貝 浩久	2学期	1	1	273
		1年			
	生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 原田 守治	2学期	1	1	274
		1年			
	生涯スポーツII (バスケットボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)) 原田 守治	2学期	1	1	275
		1年			
	生涯スポーツII (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	276
		1年			
	生涯スポーツII (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	277
		1年			
	生涯スポーツII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	278
		1年			
生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	279	
	1年				
生涯スポーツII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 磯貝 浩久	2学期	1	1	280	
	1年				
生涯スポーツII (女性のスポーツ) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ)) 加倉井 美智子	2学期	1	1	281	
	1年				
生涯スポーツIII 徳永 政夫	1学期	2	1	13	
	2年				
生涯スポーツIV 加倉井 美智子	2学期	2	1	14	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■留学生特別科目	日本語 A (読替科目：日本語 A) 小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	393
		留学生 1年			
	日本語 A (読替科目：日本語 A) 小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	394
		留学生 1年			
	日本語 B (読替科目：日本語 B) 則松 智子 他	1学期 (ペア)	1	2	395
		留学生 1年			
	日本語 C (読替科目：日本語 C) 小林 浩明 他	2学期 (ペア)	1	2	396
		留学生 1年			
	日本語 D (読替科目：日本語 D) 清水 順子 他	2学期 (ペア)	1	2	397
		留学生 1年			
	日本事情 (社会) A (読替科目：日本事情 (社会) A) 山崎 勇治	1学期	1	2	398
		留学生 1年			
日本事情 (社会) B (読替科目：日本事情 (社会) B) 山崎 勇治	2学期	1	2	399	
	留学生 1年				
■専門基礎教育科目 ■必修科目	国際関係論I (読替科目：国際関係論I) 小尾 美千代	1学期	1	2	194
		1年			
	国際関係論II (読替科目：国際関係論II) 藤井 大輔	2学期	1	2	195
		1年			
	国際関係史I (読替科目：国際関係史I) 田宮 晴彦	1学期	1	2	196
		1年			
	国際関係史II (読替科目：国際関係史II) 金 鳳珍	2学期	1	2	197
		1年			
■選択科目	地域研究入門 (アメリカ) (読替科目：地域研究入門 (アメリカ)) 北 美幸	1・2学期 (ペア)	1	4	198
		1年			
	地域研究入門 (アメリカ) 不足分 北 美幸	1・2学期 (ペア)	1	0	15
		1年			
	地域研究入門 (中国) (読替科目：地域研究入門 (中国)) 下野 寿子	1学期	1	2	199
		1年			
	地域研究入門 (朝鮮半島) (読替科目：地域研究入門 (朝鮮半島)) 綴田 芳憲	2学期	1	2	200
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■外国語教育科目 ■必修外国語科目	現代英語講読 1A (読替科目: 英語I) 葛西 宏信	1学期	1	1	309
		国 1 - A			
	現代英語講読 1A (読替科目: 英語I) 永末 康介	1学期	1	1	310
		国 1 - B			
	現代英語講読 1A (読替科目: 英語I) 十時 康	1学期	1	1	311
		国 1 - C			
	現代英語講読 1B (読替科目: 英語II) 永末 康介	2学期	1	1	312
		国 1 - A			
	現代英語講読 1B (読替科目: 英語II) 葛西 宏信	2学期	1	1	313
		国 1 - B			
	現代英語講読 1B (読替科目: 英語II) 十時 康	2学期	1	1	314
		国 1 - C			
	英文法・英作文A (読替科目: 英文法・英作文A) 齊藤 園子	1学期	1	1	160
		1 - A			
	英文法・英作文A (読替科目: 英文法・英作文A) 三宅 啓子	1学期	1	1	161
		1 - B			
	英文法・英作文A (読替科目: 英文法・英作文A) 吉田 禎子	1学期	1	1	162
		1 - C			
	英文法・英作文B (読替科目: 英文法・英作文B) 齊藤 園子	2学期	1	1	163
		1 - A			
英文法・英作文B (読替科目: 英文法・英作文B) 三宅 啓子	2学期	1	1	164	
	1 - B				
英文法・英作文B (読替科目: 英文法・英作文B) 吉田 禎子	2学期	1	1	165	
	1 - C				
English Practicum 1A (読替科目: 英語III) ロバート・マーフィ	1学期	1	1	315	
	国 1 - A				
English Practicum 1A (読替科目: 英語III) ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	316	
	国 1 - B				
English Practicum 1A (読替科目: 英語III) ホセ・クルーズ	1学期	1	1	317	
	国 1 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■外国語教育科目 ■必修外国語科目	English Practicum 1B (読替科目：英語Ⅳ) ロバート・マーフィ	2学期	1	1	318
		国 1 - A			
	English Practicum 1B (読替科目：英語Ⅳ) ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	319
		国 1 - B			
	English Practicum 1B (読替科目：英語Ⅳ) ホセ・クルーズ	2学期	1	1	320
		国 1 - C			
	English Practicum1C (読替科目：English Practicum1A) アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	166
		1 - A			
	English Practicum1C (読替科目：English Practicum1A) アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	167
		1 - B			
	English Practicum1C (読替科目：English Practicum1A) アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	168
		1 - C			
	English Practicum1D (読替科目：English Practicum1B) アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	169
		1 - A			
	English Practicum1D (読替科目：English Practicum1B) アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	170
		1 - B			
	English Practicum1D (読替科目：English Practicum1B) アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	171
		1 - C			
現代英語講読 2 A (読替科目：英語Ⅴ) 杉山 智子	1学期	2	1	321	
	国 2 - A				
現代英語講読 2 A (読替科目：英語Ⅴ) 伊藤 晃	1学期	2	1	322	
	国 2 - B				
現代英語講読 2 A (読替科目：英語Ⅴ) 石田 由希	1学期	2	1	323	
	国 2 - C				
現代英語講読 2 B (読替科目：英語Ⅵ) 伊藤 晃	2学期	2	1	324	
	国 2 - A				
現代英語講読 2 B (読替科目：英語Ⅵ) 杉山 智子	2学期	2	1	325	
	国 2 - B				
現代英語講読 2 B (読替科目：英語Ⅵ) 石田 由希	2学期	2	1	326	
	国 2 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■外国語教育科目 ■必修外国語科目	英語表現法A (読替科目 : 英語表現法A) 村田 希巳子	1学期	2	1	172
		2 - A			
	英語表現法A (読替科目 : 英語表現法A) 齊藤 園子	1学期	2	1	173
		2 - B			
	英語表現法A (読替科目 : 英語表現法A) 薬師寺 元子	1学期	2	1	174
		2 - C			
	英語表現法B (読替科目 : 英語表現法B) 村田 希巳子	2学期	2	1	175
		2 - A			
	英語表現法B (読替科目 : 英語表現法B) 齊藤 園子	2学期	2	1	176
		2 - B			
	英語表現法B (読替科目 : 英語表現法B) 薬師寺 元子	2学期	2	1	177
		2 - C			
	English Practicum 2A (読替科目 : 英語VII) ホセ・クルーズ	1学期	2	1	327
		国 2 - A			
	English Practicum 2A (読替科目 : 英語VII) デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	328
		国 2 - B			
	English Practicum 2A (読替科目 : 英語VII) ロバート・マーフィ	1学期	2	1	329
		国 2 - C			
	English Practicum 2B (読替科目 : 英語VIII) ホセ・クルーズ	2学期	2	1	330
		国 2 - A			
English Practicum 2B (読替科目 : 英語VIII) デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	1	331	
	国 2 - B				
English Practicum 2B (読替科目 : 英語VIII) ロバート・マーフィ	2学期	2	1	332	
	国 2 - C				
English Practicum2C (読替科目 : English Practicum2A) クリストファー・カーマン	1学期	2	1	178	
	2 - A				
English Practicum2C (読替科目 : English Practicum2A) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	179	
	2 - B				
English Practicum2C (読替科目 : English Practicum2A) アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	180	
	2 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■外国語教育科目 ■必修外国語科目	English Practicum2D (読替科目: English Practicum2B) クリストファー・カーマン	2学期	2	1	181
		2 - A			
	English Practicum2D (読替科目: English Practicum2B) クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	182
		2 - B			
	English Practicum2D (読替科目: English Practicum2B) アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	183
		2 - C			
	English Practicum3A (読替科目: English Practicum3A) ジェイムズ・ヒックス	1学期	3	1	188
		3 - A			
	English Practicum3A (読替科目: English Practicum3A) クリストファー・カーマン	1学期	3	1	189
		3 - B			
	English Practicum3A (読替科目: English Practicum3A) クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	190
		3 - C			
	English Practicum3B (読替科目: English Practicum3B) ジェイムズ・ヒックス	2学期	3	1	191
		3 - A			
	English Practicum3B (読替科目: English Practicum3B) クリストファー・カーマン	2学期	3	1	192
	3 - B				
English Practicum3B (読替科目: English Practicum3B) クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	193	
	3 - C				
英語論文作成法 (読替科目: 英語論文作成法I) デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1・2学期(ペア)	3	4	184	
	3 - A				
英語論文作成法 (読替科目: 英語論文作成法I) アルバート・オスカー・モウ	1・2学期(ペア)	3	4	185	
	3 - B				
英語論文作成法 (読替科目: 英語論文作成法II) デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1・2学期(ペア)	3	4	186	
	3 - A				
英語論文作成法 (読替科目: 英語論文作成法II) アルバート・オスカー・モウ	1・2学期(ペア)	3	4	187	
	3 - B				
■選択外国語科目	朝鮮語基礎I (読替科目: 朝鮮語I) 金 貞愛	1学期	1	1	353
		国 1 年			
	朝鮮語基礎II (読替科目: 朝鮮語II) 金 貞愛	2学期	1	1	354
		国 1 年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■外国語教育科目 ■選択外国語科目	朝鮮語基礎III (読替科目: 朝鮮語III) チャン ユンヒャン	1学期	1	1	355
		国1年			
	朝鮮語基礎IV (読替科目: 朝鮮語IV) チャン ユンヒャン	2学期	1	1	356
		国1年			
	朝鮮語中級I (読替科目: 朝鮮語V) 金 貞愛	1学期	2	1	357
		国2年			
	朝鮮語中級II (読替科目: 朝鮮語VI) 金 貞愛	2学期	2	1	358
		国2年			
	朝鮮語中級III (読替科目: 朝鮮語VII) 金 貞愛	1学期	2	1	359
		国2年			
	朝鮮語中級IV (読替科目: 朝鮮語VIII) 金 貞愛	2学期	2	1	360
		国2年			
	中国語基礎I (読替科目: 中国語I) 板谷 秀子	1学期	1	1	333
		国1年			
	中国語基礎I (読替科目: 中国語I) 野村 和代	1学期	1	1	334
		国1年			
	中国語基礎I (読替科目: 中国語I) 正野 留加	1学期	1	1	335
		国1年			
	中国語基礎II (読替科目: 中国語II) 板谷 秀子	2学期	1	1	336
		国1年			
中国語基礎II (読替科目: 中国語II) 野村 和代	2学期	1	1	337	
	国1年				
中国語基礎II (読替科目: 中国語II) 正野 留加	2学期	1	1	338	
	国1年				
中国語基礎III (読替科目: 中国語III) 王 曉芳	1学期	1	1	339	
	国1年				
中国語基礎III (読替科目: 中国語III) 馮 雅蓮	1学期	1	1	340	
	国1年				
中国語基礎III (読替科目: 中国語III) 馬 叢慧	1学期	1	1	341	
	国1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■外国語教育科目 ■選択外国語科目	中国語基礎Ⅳ (読替科目：中国語Ⅳ) 王 暁芳	2学期	1	1	342
		国 1 年			
	中国語基礎Ⅳ (読替科目：中国語Ⅳ) 馮 雅蓮	2学期	1	1	343
		国 1 年			
	中国語基礎Ⅳ (読替科目：中国語Ⅳ) 馬 叢慧	2学期	1	1	344
		国 1 年			
	中国語中級Ⅰ (読替科目：中国語Ⅴ) 野村 和代	1学期	2	1	345
		国 2 - 1			
	中国語中級Ⅰ (読替科目：中国語Ⅴ) 正野 留加	1学期	2	1	346
		国 2 - 2			
	中国語中級Ⅱ (読替科目：中国語Ⅵ) 野村 和代	2学期	2	1	347
		国 2 - 1			
	中国語中級Ⅱ (読替科目：中国語Ⅵ) 正野 留加	2学期	2	1	348
		国 2 - 2			
中国語中級Ⅲ (読替科目：中国語Ⅶ) 王 雲燕	1学期	2	1	349	
	国 2 - 1				
中国語中級Ⅲ (読替科目：中国語Ⅶ) 葉 言材	1学期	2	1	350	
	国 2 - 2				
中国語中級Ⅳ (読替科目：中国語Ⅷ) 王 雲燕	2学期	2	1	351	
	国 2 - 1				
中国語中級Ⅳ (読替科目：中国語Ⅷ) 葉 言材	2学期	2	1	352	
	国 2 - 2				
■専門教育科目 ■演習 ■必修科目	卒業研究演習 金 鳳珍	1・2学期 (ペア)	4	2	16
		4 年			
	卒業研究演習 久木 尚志	1・2学期 (ペア)	4	2	17
		4 年			
	卒業研究演習 小尾 美千代	1・2学期 (ペア)	4	2	18
		4 年			
	卒業研究演習 大平 剛	1学期 (ペア)	4	2	19
		4 年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■演習 ■必修科目	卒業研究演習	1・2学期(ペア)	4	2	20
	綴田 芳憲	4年			
	卒業研究演習	1・2学期(ペア)	4	2	21
	北 美幸	4年			
	卒業研究演習	1・2学期(ペア)	4	2	22
	下野 寿子	4年			
	卒業研究演習	2学期(ペア)	4	2	23
	尹 明憲	4年			
	卒業研究演習	1・2学期(ペア)	4	2	24
	山本 直	4年			
	卒業研究演習	1・2学期(ペア)	4	2	25
	中野 博文	4年			
	卒業研究演習	1・2学期(ペア)	4	2	26
	篠崎 香織	4年			
	演習	1・2学期(ペア)	3	4	27
	下野 寿子	3年			
	演習	1・2学期(ペア)	3	4	28
	金 鳳珍	3年			
	演習	1・2学期(ペア)	3	4	29
	久木 尚志	3年			
演習	1・2学期(ペア)	3	4	30	
小尾 美千代	3年				
演習	1・2学期(ペア)	3	4		
未定	3年				
演習	1・2学期(ペア)	3	4	31	
北 美幸	3年				
演習	1・2学期(ペア)	3	4	32	
綴田 芳憲	3年				
演習	2学期(ペア)	3	4	33	
尹 明憲	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習 ■必修科目	演習 中野 博文	1・2学期 (ペア)	3	4	34
		3年			
	演習A (演習) (読替科目: 専門演習I) 下野 寿子	1学期	3	2	201
		3年			
	演習A (演習) (読替科目: 専門演習I) 金 鳳珍	1学期	3	2	202
		3年			
	演習A (演習) (読替科目: 専門演習I) 久木 尚志	1学期	3	2	203
		3年			
	演習A (演習) (読替科目: 専門演習I) 小尾 美千代	1学期	3	2	204
		3年			
	演習A (演習) 未定	1学期	3	2	
		3年			
	演習A (演習) (読替科目: 専門演習I) 北 美幸	1学期	3	2	205
		3年			
	演習A (演習) (読替科目: 専門演習I) 総田 芳憲	1学期	3	2	206
		3年			
	演習A (演習) (読替科目: 専門演習I) 稲月 正	1学期	3	2	207
		3年			
	演習A (演習) (読替科目: 専門演習I) 尹 明憲	2学期	3	2	208
		3年			
演習A (演習) (読替科目: 専門演習I) 中野 博文	1学期	3	2	209	
	3年				
演習B (演習) (読替科目: 専門演習II) 下野 寿子	2学期	3	2	210	
	3年				
演習B (演習) (読替科目: 専門演習II) 金 鳳珍	2学期	3	2	211	
	3年				
演習B (演習) (読替科目: 専門演習II) 久木 尚志	2学期	3	2	212	
	3年				
演習B (演習) (読替科目: 専門演習II) 小尾 美千代	2学期	3	2	213	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■演習 ■必修科目	演習B (演習)	2学期	3	2	
	未定	3年			
	演習B (演習) (読替科目: 専門演習II)	2学期	3	2	214
	北 美幸	3年			
	演習B (演習) (読替科目: 専門演習II)	2学期	3	2	215
	総田 芳憲	3年			
	演習B (演習) (読替科目: 専門演習II)	2学期	3	2	216
	稲月 正	3年			
	演習B (演習) (読替科目: 専門演習II)	2学期	3	2	217
	尹 明憲	3年			
	演習B (演習) (読替科目: 専門演習II)	2学期	3	2	218
	中野 博文	3年			
	卒業研究演習A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	219
	金 鳳珍	4年			
	卒業研究演習A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	220
	久木 尚志	4年			
	卒業研究演習A	1学期	4	2	
	田村 慶子	4年			
	卒業研究演習A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	221
	小尾 美千代	4年			
卒業研究演習A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	222	
大平 剛	4年				
卒業研究演習A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	223	
総田 芳憲	4年				
卒業研究演習A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	224	
北 美幸	4年				
卒業研究演習A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	225	
下野 寿子	4年				
卒業研究演習A (読替科目: 卒業研究演習I)	2学期	4	2	226	
尹 明憲	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習 ■必修科目	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I) 山本 直	1学期	4	2	227
		4年			
	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I) 中野 博文	1学期	4	2	228
		4年			
	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I) 篠崎 香織	1学期	4	2	229
		4年			
	卒業研究演習 A 稲月 正	1学期	4	2	35
		4年			
	卒業研究演習 B 田村 慶子	2学期	3	2	
		3年			
	卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II) 金 鳳珍	2学期	4	2	230
		4年			
	卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II) 久木 尚志	2学期	4	2	231
		4年			
	卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II) 小尾 美千代	2学期	4	2	232
		4年			
	卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II) 大平 剛	1学期	4	2	233
		4年			
	卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II) 総田 芳憲	2学期	4	2	234
		4年			
卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II) 北 美幸	2学期	4	2	235	
	4年				
卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II) 下野 寿子	2学期	4	2	236	
	4年				
卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II) 尹 明憲	2学期	4	2	237	
	4年				
卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II) 山本 直	2学期	4	2	238	
	4年				
卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II) 中野 博文	2学期	4	2	239	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習 ■必修科目	卒業研究演習 B (読替科目：卒業研究演習II) 篠崎 香織	2学期	4	2	240
		4年			
	卒業研究演習 B 稲月 正	2学期	4	2	36
		4年			
■選択科目	卒業研究演習 金 鳳珍	1・2学期 (ペア)	4	2	37
		4年			
	卒業研究演習 久木 尚志	1・2学期 (ペア)	4	2	38
		4年			
	卒業研究演習 小尾 美千代	1・2学期 (ペア)	4	2	39
		4年			
	卒業研究演習 大平 剛	1学期 (ペア)	4	2	40
		4年			
	卒業研究演習 総田 芳憲	1・2学期 (ペア)	4	2	41
		4年			
	卒業研究演習 北 美幸	1・2学期 (ペア)	4	2	42
		4年			
	卒業研究演習 下野 寿子	1・2学期 (ペア)	4	2	43
		4年			
	卒業研究演習 尹 明憲	2学期 (ペア)	4	2	44
		4年			
	卒業研究演習 山本 直	1・2学期 (ペア)	4	2	45
		4年			
	卒業研究演習 中野 博文	1・2学期 (ペア)	4	2	46
		4年			
卒業研究演習 篠崎 香織	1・2学期 (ペア)	4	2	47	
	4年				
卒業研究演習 A (読替科目：卒業研究演習I) 金 鳳珍	1学期	4	2	219	
	4年				
卒業研究演習 A (読替科目：卒業研究演習I) 久木 尚志	1学期	4	2	220	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習 ■選択科目	卒業研究演習 A	1学期	4	2	221
	田村 慶子	4年			
	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	222
	小尾 美千代	4年			
	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	223
	大平 剛	4年			
	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	224
	綴田 芳憲	4年			
	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	225
	北 美幸	4年			
	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	226
	下野 寿子	4年			
	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I)	2学期	4	2	227
	尹 明憲	4年			
	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	228
	山本 直	4年			
	卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	229
	中野 博文	4年			
卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	48	
篠崎 香織	4年				
卒業研究演習 A (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	230	
稲月 正	4年				
卒業研究演習 B	2学期	3	2	231	
田村 慶子	3年				
卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	232	
金 鳳珍	4年				
卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	233	
久木 尚志	4年				
卒業研究演習 B (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	234	
小尾 美千代	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■演習 ■選択科目	卒業研究演習B (読替科目:卒業研究演習II) 大平 剛	1学期	4	2	233
		4年			
	卒業研究演習B (読替科目:卒業研究演習II) 総田 芳憲	2学期	4	2	234
		4年			
	卒業研究演習B (読替科目:卒業研究演習II) 北 美幸	2学期	4	2	235
		4年			
	卒業研究演習B (読替科目:卒業研究演習II) 下野 寿子	2学期	4	2	236
		4年			
	卒業研究演習B (読替科目:卒業研究演習II) 尹 明憲	2学期	4	2	237
	4年				
卒業研究演習B (読替科目:卒業研究演習II) 山本 直	2学期	4	2	238	
	4年				
卒業研究演習B (読替科目:卒業研究演習II) 中野 博文	2学期	4	2	239	
	4年				
卒業研究演習B (読替科目:卒業研究演習II) 篠崎 香織	2学期	4	2	240	
	4年				
卒業研究演習B 稲月 正	2学期	4	2	49	
	4年				
■専門科目 ■専門科目I	アメリカの政治外交II (読替科目:アメリカの政治III) 田宮 晴彦	1・2学期(ペア)	2	4	137
		2年			
	アメリカの政治外交II (読替科目:アメリカの政治IV) 田宮 晴彦	1・2学期(ペア)		4	138
		2年			
	中国の政治外交 (読替科目:中国の政治外交I) 下野 寿子	1・2学期(ペア)	2	4	142
		2年			
	中国の政治外交 (読替科目:中国の政治外交II) 下野 寿子	1・2学期(ペア)	2	4	143
	2年				
東アジア地域秩序論 (読替科目:東アジア地域秩序論I) 金 鳳珍	1・2学期(ペア)	2	4	146	
	2年				
東アジア地域秩序論 (読替科目:東アジア地域秩序論II) 金 鳳珍	1・2学期(ペア)	2	4	147	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■専門科目 ■専門科目I	韓国の政治外交 (読替科目: 韓国・北朝鮮の政治外交I) 総田 芳憲	1・2学期(ペア)	2	4	144
		2年			
	韓国の政治外交 (読替科目: 韓国・北朝鮮の政治外交II) 総田 芳憲	1・2学期(ペア)	2	4	145
		2年			
	ヨーロッパ地域研究 (読替科目: イギリス研究I) 久木 尚志	1・2学期(ペア)	2	4	140
		2年			
	ヨーロッパ地域研究 (読替科目: イギリス研究II) 久木 尚志	1・2学期(ペア)	2	4	141
		2年			
	現代ロシア論 (読替科目: ロシアの歴史と社会) 芳之内 雄二	1・2学期(ペア)	2	4	245
		2年			
	現代ロシア論 (読替科目: 北ユーラシアの民族と社会) 芳之内 雄二	1・2学期(ペア)	2	4	243
		2年			
	国際機構論 (読替科目: 国際機構論I) 山本 直	1・2学期(ペア)	2	4	152
		2年			
	国際機構論 (読替科目: 国際機構論II) 山本 直	1・2学期(ペア)	2	4	153
		2年			
	国際政治経済論 (読替科目: 国際政治経済論II) 小尾 美千代	1・2学期(ペア)	2	4	151
		2年			
	国際政治経済論 (読替科目: 国際政治経済論I) 小尾 美千代	1・2学期(ペア)	2	4	150
		2年			
国際協力論 (読替科目: 国際協力論I) 大平 剛	1・2学期(ペア)	2	4	154	
	2年				
国際協力論 (読替科目: 国際協力論II) 千知岩 正継	1・2学期(ペア)	2	4	155	
	2年				
地球環境論 (読替科目: 地球環境論) 松本 治彦	2学期(ペア)	2	4	158	
	2年				
地球環境論(不足分) 松本 治彦	2学期(ペア)		0	50	
	2年				
国際紛争論 (読替科目: 国際紛争論) 菅 英輝	1学期(ペア)	2	4	159	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■専門科目 ■専門科目I	国際紛争論 (不足分) 菅 英輝	1学期 (ペア)	2	4	51
		2年			
	民族と国家 (読替科目: 民族と国家) 篠崎 香織	1・2学期 (ペア)	2	4	157
		2年			
	民族と国家 (読替科目: アジア地域統合論) 篠崎 香織	1・2学期 (ペア)	2	4	149
		2年			
	国際社会論 (読替科目: 国際社会論) 稲月 正	1学期 (ペア)	2	4	476
	2年				
国際社会論 (読替科目: 民族・エスニシティ問題) 久木 尚志	1学期 (ペア)	2	4	477	
	2年				
国際社会論 (読替科目: 民族・エスニシティ問題) 篠崎 香織	1学期 (ペア)	2	4	477	
	2年				
■専門科目II	比較文化概論 (読替科目: 英米文化概論II) 中野 博文	2学期	3	2	134
		3年			
	アメリカ経済 (読替科目: アメリカ経済) 山崎 好裕	2学期	3	2	249
		3年			
	アメリカの社会 (読替科目: アメリカの社会I) 藤永 康政	1学期	3	2	139
		3年			
	中国の社会 堀地 明	1学期	3	2	52
		3年			
	国際経済論 魏 芳	1・2学期 (ペア)	3	4	53
		3年			
国際法学 (読替科目: 国際法I) 二宮 正人	1学期	3	2	248	
	3年				
平和と人権 (読替科目: 国際人権論) 山本 直	1学期	3	2	156	
	3年				
韓国経済 (読替科目: 東アジア経済論) 尹 明憲	2学期	3	2	148	
	3年				
途上国の開発政策 (読替科目: 途上国開発論) 三宅 博之	1学期	3	2	244	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目 ■専門科目II	外国文献講読 (読替科目：外国文献講読) 藤井 大輔	2学期	3	2	136
	3年				
	地域研究特講 (読替科目：地域研究特講) ODU教員	集中	3	2	135
	3年				
■自由選択科目	英語学概論I (読替科目：英語学概論) 三宅 啓子	1学期	1	2	241
	1年				
	英語学概論II 松崎 徹	2学期	1	2	54
		1年			
	ドイツ語I (読替科目：ドイツ語I) 山下 哲雄	1学期	1	1	369
		中国1年			
	ドイツ語II (読替科目：ドイツ語II) 山下 哲雄	2学期	1	1	370
		中国1年			
	ドイツ語III (読替科目：ドイツ語III) 山下 哲雄	1学期	1	1	371
		中国1年			
	ドイツ語IV (読替科目：ドイツ語IV) 山下 哲雄	2学期	1	1	372
		中国1年			
	ドイツ語V (読替科目：ドイツ語V) 山下 哲雄	1学期	2	1	373
		中国2年			
	ドイツ語VI (読替科目：ドイツ語VI) 山下 哲雄	2学期	2	1	374
		中国2年			
	ドイツ語VII (読替科目：ドイツ語VII) 山下 哲雄	1学期	2	1	375
		中国2年			
	ドイツ語VIII (読替科目：ドイツ語VIII) 山下 哲雄	2学期	2	1	376
		中国2年			
フランス語I (読替科目：フランス語I) 坂田 由紀	1学期	1	1	377	
	中国1年				
フランス語II (読替科目：フランス語II) 坂田 由紀	2学期	1	1	378	
	中国1年				
フランス語III (読替科目：フランス語III) 山下 広一	1学期	1	1	379	
	中国1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■自由選択科目	フランス語Ⅳ (読替科目：フランス語Ⅳ) 山下 広一	2学期	1	1	380
		中国 1年			
	フランス語Ⅴ (読替科目：フランス語Ⅴ) 中川 裕二	1学期	2	1	381
		中国 2年			
	フランス語Ⅵ (読替科目：フランス語Ⅵ) 中川 裕二	2学期	2	1	382
		中国 2年			
	フランス語Ⅶ (読替科目：フランス語Ⅶ) 山下 高之	1学期	2	1	383
		中国 2年			
	フランス語Ⅷ (読替科目：フランス語Ⅷ) 山下 高之	2学期	2	1	384
		中国 2年			
	スペイン語Ⅰ (読替科目：スペイン語Ⅰ) 青木 文夫	1学期	1	1	385
		中国 1年			
	スペイン語Ⅱ (読替科目：スペイン語Ⅱ) 青木 文夫	2学期	1	1	386
		中国 1年			
	スペイン語Ⅲ (読替科目：スペイン語Ⅲ) 辻 博子	1学期	1	1	387
		中国 1年			
	スペイン語Ⅳ (読替科目：スペイン語Ⅳ) 辻 博子	2学期	1	1	388
		中国 1年			
	スペイン語Ⅴ (読替科目：スペイン語Ⅴ) 辻 光博	1学期	2	1	389
		中国 2年			
スペイン語Ⅵ (読替科目：スペイン語Ⅵ) 辻 光博	2学期	2	1	390	
	中国 2年				
スペイン語Ⅶ (読替科目：スペイン語Ⅶ) 辻 博子	1学期	2	1	391	
	中国 2年				
スペイン語Ⅷ (読替科目：スペイン語Ⅷ) 辻 博子	2学期	2	1	392	
	中国 2年				
ロシア語Ⅰ (読替科目：ロシア語Ⅰ) 芳之内 雄二	1学期	1	1	361	
	中国 1年				
ロシア語Ⅱ (読替科目：ロシア語Ⅱ) 芳之内 雄二	2学期	1	1	362	
	中国 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由選択科目	ロシア語Ⅲ (読替科目：ロシア語Ⅲ) ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	363
		中国 1年			
	ロシア語Ⅳ (読替科目：ロシア語Ⅳ) ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	364
		中国 1年			
	ロシア語Ⅴ (読替科目：ロシア語Ⅴ) 芳之内 雄二	1学期	2	1	365
		中国 2年			
	ロシア語Ⅵ (読替科目：ロシア語Ⅵ) 芳之内 雄二	2学期	2	1	366
		中国 2年			
	ロシア語Ⅶ (読替科目：ロシア語Ⅶ) ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	367
		中国 2年			
ロシア語Ⅷ (読替科目：ロシア語Ⅷ) ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	368	
	中国 2年				
■教職に関する科目 ■必修科目	上級英語A (読替科目：上級英語A) 齊藤 園子	1学期	3	2	246
		3年			
	上級英語B (読替科目：上級英語B) 齊藤 園子	2学期	3	2	247
		3年			
	英語音声学 (読替科目：英語学研究(音声学・音韻論)) 山内 ひさ子	1学期	2	2	242
		2年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	55
	1年				
教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	56	
	1年				
教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	57	
	1年				
教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	58	
	3年				
教育制度 見玉 弥生	1学期	2	2	59	
	2年				
英語科教育法A 山崎 和夫	1学期	3	2	60	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法 A 山崎 和夫	1学期	2	2	61
		2年			
	英語科教育法 A 山崎 和夫	1学期	3	2	62
		3年			
	英語科教育法 B 山崎 和夫	2学期	3	2	63
		3年			
	英語科教育法 B 山崎 和夫	2学期	2	2	64
		2年			
	英語科教育法 B 山崎 和夫	2学期	3	2	65
		3年			
	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	66
		2年			
	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	67
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	68
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	69
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	70
		2年			
教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	71	
	2年				
教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	72	
	2年				
教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	73	
	2年				
生徒指導論 楠 凡之	2学期	2	2	74	
	2年				
教職総合演習 楠 凡之 他	2学期	3	2	75	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 1	2学期	3	2	76
	黒田 耕司 他	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	77
	児玉 弥生 他	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	78
	児玉 弥生 他	4年			
	教育相談	1学期	2	2	79
	楠 凡之	2年			
■選択科目	発達心理学	1学期	2	2	80
	税田 慶昭	2年			
	発達心理学	1学期	1	2	81
	税田 慶昭	1年			
	教育心理学	2学期	2	2	82
	柴村 馨	2年			
	教育心理学	2学期	1	2	83
	柴村 馨	1年			
	教育法規	2学期	3	2	84
	児玉 弥生	3年			
	教育法規	2学期	2	2	85
	児玉 弥生	2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	86
	弓野 勝族	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	87
	弓野 勝族	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	西洋文学 杉本 美穂	1学期	1	2	88
		1年			
	中国の漢字と文学 未定	1学期	1	2	
		1年			
	中国の人と文学 未定	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 (読替科目：西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	440
		1年			
	東洋史 (読替科目：東洋史) 内田 直文	2学期	1	2	441
		1年			
	日本史 (読替科目：日本史) 内山 一幸	2学期	1	2	439
		1年			
	哲学入門 (読替科目：倫理学) 伊原木 大祐	2学期	1	2	443
		1年			
	応用倫理学 (読替科目：現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	434
		1年			
	論理学入門 堺 正憲	2学期	1	2	89
		1年			
	論理学の展開 堺 正憲	2学期	1	2	90
	1年				
文化と社会 (読替科目：人間と文化) 重信 幸彦	1学期	1	2	428	
	1年				
経済学概論 田村 大樹	2学期	1	2	91	
	1年				
経済と社会 (読替科目：グローバル化する経済) 前田 淳 他	1学期	1	2	437	
	1年				
社会学の考え方 (読替科目：社会学) 稲月 正	1学期	1	2	442	
	1年				
現代社会の解読 (読替科目：現代社会の諸問題) 山本 光英 他	2学期	1	2	436	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	大衆化と政治 (読替科目：市民活動論)	2学期	1	2	435
	西田 心平	1年			
	国家と法	1学期	1	2	92
	植木 淳	1年			
	国際社会と法	2学期	1	2	93
	二宮 正人	1年			
	国際学入門 (読替科目：国際学入門)	1学期	1	2	429
	伊野 憲治	1年			
	企業活動と法	1学期	1	2	94
	今泉 恵子	1年			
	くらしの中の化学物質 (読替科目：くらしと化学)	2学期	1	2	432
	竹之下 芳也	1年			
	現代人のこころ (読替科目：現代人のこころ)	1学期	1	2	433
	税田 慶昭	1年			
人間と宇宙観	2学期	1	2	95	
岡本 良治	1年				
自然と人間のエコロジー	2学期	1	2	96	
真鍋 徹	1年				
自然と社会の共生論 (読替科目：自然学のまなざし)	1学期	1	2	431	
日高 京子	1年				
国際社会と日本 (読替科目：国際社会と日本)	1学期	1	2	438	
中野 博文	1年				
■情報処理教育科目	情報処理基礎	2学期	1	2	97
中尾 泰士	1年				
■健康管理教育科目	生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン))	2学期	1	1	430
徳永 政夫	1年				
■専門基礎教育科目 ■必修科目	国際関係史II (読替科目：国際関係史II)	2学期	1	2	419
金 鳳珍	1年				
■外国語教育科目 ■必修外国語科目	現代英語講読 1A (読替科目：英語I)	1学期	1	1	444
伊藤 晃	国夜 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■外国語教育科目 ■必修外国語科目	現代英語講読 1B (読替科目: 英語II) 杉山 智子	2学期	1	1	445
		国夜 1年			
	English Practicum 1A (読替科目: 英語III) アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	446
		国夜 1年			
	English Practicum 1B (読替科目: 英語IV) アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	447
		国夜 1年			
	現代英語講読 2A (読替科目: 英語V) 漆原 朗子	1学期	2	1	448
		国夜 2年			
	現代英語講読 2B (読替科目: 英語VI) 漆原 朗子	2学期	2	1	449
		国夜 2年			
	英語表現法A (読替科目: 英語表現法A) 齊藤 園子	1学期	2	1	411
		2 - D			
	英語表現法B (読替科目: 英語表現法B) 齊藤 園子	2学期	2	1	412
		2 - D			
	English Practicum 2A (読替科目: 英語VII) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	450
		国夜 2年			
	English Practicum 2B (読替科目: 英語VIII) クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	451
		国夜 2年			
	English Practicum2C (読替科目: English Practicum2A) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	413
		2 - D			
English Practicum2D (読替科目: English Practicum2B) クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	414	
	2 - D				
English Practicum3A (読替科目: English Practicum3A) ジェイムズ・ヒックス	1学期	3	1	417	
	3 - D				
English Practicum3B (読替科目: English Practicum3B) ジェイムズ・ヒックス	2学期	3	1	418	
	3 - D				
英語論文作成法 (読替科目: 英語論文作成法I) アルバート・オスカー・モウ	1・2学期 (ペア)	3	4	415	
	3 - 3				
英語論文作成法 (読替科目: 英語論文作成法II) アルバート・オスカー・モウ	1・2学期 (ペア)	3	4	416	
	3 - 3				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■外国語教育科目 ■選択外国語科目	朝鮮語基礎I (読替科目: 朝鮮語I) チャン ユンヒャン	1学期	1	1	456
		国夜1年			
	朝鮮語基礎II (読替科目: 朝鮮語II) チャン ユンヒャン	2学期	1	1	457
		国夜1年			
	朝鮮語基礎III (読替科目: 朝鮮語III) 金 光子	1学期	1	1	458
		国夜1年			
	朝鮮語基礎IV (読替科目: 朝鮮語IV) 金 光子	2学期	1	1	459
		国夜1年			
中国語基礎I (読替科目: 中国語I) 有働 彰子	1学期	1	1	452	
	国夜1年				
中国語基礎II (読替科目: 中国語II) 有働 彰子	2学期	1	1	453	
	国夜1年				
中国語基礎III (読替科目: 中国語III) 王 占華	1学期	1	1	454	
	国夜1年				
中国語基礎IV (読替科目: 中国語IV) 王 占華	2学期	1	1	455	
	国夜1年				
■専門教育科目 ■演習 ■必修科目	演習 篠崎 香織	1・2学期(ペア)	3	4	98
		3年			
	演習 山本 直	1・2学期(ペア)	3	4	99
		3年			
	演習A(演習) (読替科目: 専門演習I) 篠崎 香織	1学期	3	2	420
		3年			
	演習A(演習) (読替科目: 専門演習I) 山本 直	1学期	3	2	421
	3年				
演習B(演習) (読替科目: 専門演習II) 篠崎 香織	2学期	3	2	422	
	3年				
演習B(演習) (読替科目: 専門演習II) 山本 直	2学期	3	2	423	
	3年				
■専門科目 ■専門科目I	中国の政治外交 (読替科目: 中国の政治外交I) 下野 寿子	1・2学期(ペア)	2	4	402
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■専門科目 ■専門科目I	中国の政治外交 (読替科目:中国の政治外交II) 下野 寿子	1・2学期(ペア)	2	4	403
		2年			
	韓国の政治外交 (読替科目:韓国・北朝鮮の政治外交I) 総田 芳憲	1・2学期(ペア)	2	4	404
		2年			
	韓国の政治外交 (読替科目:韓国・北朝鮮の政治外交II) 総田 芳憲	1・2学期(ペア)	2	4	405
		2年			
	ヨーロッパ地域研究 (読替科目:イギリス研究I) 久木 尚志	1・2学期(ペア)	2	4	400
		2年			
	ヨーロッパ地域研究 (読替科目:イギリス研究II) 久木 尚志	1・2学期(ペア)	2	4	401
		2年			
国際政治経済論 (読替科目:国際政治経済論I) 小尾 美千代	1・2学期(ペア)	2	4	406	
	2年				
国際政治経済論 (読替科目:国際政治経済論II) 小尾 美千代	1・2学期(ペア)	2	4	407	
	2年				
国際協力論 (読替科目:国際協力論I) 大平 剛	1・2学期(ペア)	2	4	408	
	2年				
国際協力論 (読替科目:国際協力論II) 千知岩 正継	1・2学期(ペア)	2	4	409	
	2年				
■専門科目II	英米思想研究 八尋 春海	1・2学期(ペア)	3	4	100
		3年			
	国際経済論 魏 芳	1・2学期(ペア)	3	4	101
		3年			
	中国経済 園 康寿	1学期	3	2	102
		3年			
国際法学 (読替科目:国際法I) 中川 智治	1学期	3	2	427	
	3年				
平和と人権 (読替科目:国際人権論) 山本 直	1学期	3	2	410	
	3年				
■自由選択科目	英語学概論II 松崎 徹	2学期	1	2	103
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■自由選択科目	ドイツ語I (読替科目:ドイツ語I) 山下 哲雄	1学期	1	1	464
		中国夜1年			
	ドイツ語II (読替科目:ドイツ語II) 山下 哲雄	2学期	1	1	465
		中国夜1年			
	ドイツ語III (読替科目:ドイツ語III) 山下 哲雄	1学期	1	1	466
		中国夜1年			
	ドイツ語IV (読替科目:ドイツ語IV) 山下 哲雄	2学期	1	1	467
		中国夜1年			
	フランス語I (読替科目:フランス語I) 山下 高之	1学期	1	1	468
		中国夜1年			
	フランス語II (読替科目:フランス語II) 山下 高之	2学期	1	1	469
		中国夜1年			
	フランス語III (読替科目:フランス語III) 水本 弘文	1学期	1	1	470
		中国夜1年			
	フランス語IV (読替科目:フランス語IV) 水本 弘文	2学期	1	1	471
		中国夜1年			
	スペイン語I (読替科目:スペイン語I) 岡住 正秀	1学期	1	1	472
		中国夜1年			
	スペイン語II (読替科目:スペイン語II) 岡住 正秀	2学期	1	1	473
		中国夜1年			
	スペイン語III (読替科目:スペイン語III) 岡住 正秀	1学期	1	1	474
		中国夜1年			
	スペイン語IV (読替科目:スペイン語IV) 岡住 正秀	2学期	1	1	475
		中国夜1年			
ロシア語I (読替科目:ロシア語I) 芳之内 雄二	1学期	1	1	460	
	中国夜1年				
ロシア語II (読替科目:ロシア語II) 芳之内 雄二	2学期	1	1	461	
	中国夜1年				
ロシア語III (読替科目:ロシア語III) 芳之内 雄二	1学期	1	1	462	
	中国夜1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■自由選択科目	ロシア語Ⅳ (読替科目：ロシア語Ⅳ) 芳之内 雄二	2学期	1	1	463
		中国夜 1年			
	アメリカの文学 (読替科目：英米文学概論Ⅰ) 齊藤 園子	1学期	2	2	424
		2年			
イギリスの文学 (読替科目：英米文学概論Ⅱ) 高本 孝子	2学期	2	2	425	
	2年				
英語音声学 (読替科目：英語学研究 (音声学・音韻論)) 山内 ひさ子	1学期	2	2	426	
	2年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	104
		1年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	105
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	106
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	107
		1年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	108
		3年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	2	2	109
		2年			
	道德教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	110
		2年			
道德教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	111	
	2年				
特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	112	
	2年				
特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	113	
	2年				
教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	114	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育方法学	2学期	2	2	115
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	116
	大塚 一徳	2年			
	教育工学	2学期	2	2	117
	大塚 一徳	2年			
	生徒指導論	2学期	2	2	118
	楠 凡之	2年			
	教職総合演習	2学期	3	2	119
	楠 凡之 他	3年			
	教育実習 1	2学期	3	2	120
	黒田 耕司	3年			
	教育実習 1	2学期	3	2	121
	黒田 耕司	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	122
	見玉 弥生	4年			
	教育実習 2	1学期	4	2	123
	見玉 弥生	4年			
教育実習 3	1学期	4	2	124	
見玉 弥生	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	125	
見玉 弥生	4年				
教育相談	1学期	2	2	126	
楠 凡之	2年				
教育相談	1学期	2	2	127	
楠 凡之	2年				
■選択科目	発達心理学	1学期	2	2	128
	税田 慶昭	2年			
	発達心理学	1学期	1	2	129
税田 慶昭	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■教科または教職に関する科目	障害児の心理と指導	2学期	2	2	130
	税田 慶昭	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	131
	税田 慶昭	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	132
	弓野 勝族	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	133
	弓野 勝族	2年			

地中海世界の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description
 地中海世界の形成と展開をみながら、自然環境と歴史、文明・文化の交流と衝突の諸相を理解し、現代の世界をその基層から問い直すことを目的とします。

教科書 /Textbooks
 適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】 はキーワード
 1回～2回 地中海世界の風土【地中海性気候】【都市】
 3回～4回 都市と帝国①：都市国家の形成と展開【エーゲ文明】【ポリス】
 5回 都市と帝国②：ヘレニズムの展開【アレクサンドロス】【ギリシャ語】
 6回～8回 都市と帝国③：ローマ帝国の形成と展開【パックス・ロマーナ】【街道】
 9回 三つの地中海①：一神教と「三つの地中海」【キリスト教】【イスラム教】
 10回～11回 三つの地中海②：ビザンツ帝国【コンスタンティノポリス/イスタンブル】
 12回 三つの地中海③：中世シチリア王国【ノルマン人】
 13回～14回 三つの地中海④：マグリブとアンダルス【コルドバ】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
 (小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

女性史【昼】

担当者名 /Instructor 富安 兆子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本における女性通史を概観、時に諸外国の女性の状況と対比させながら、日本の女性の現況とその問題点をさぐります。このような作業を通して、女性・男性を問わず、地球規模の変化に対応できる生き方を選択し、人類の未来にとっての望ましい社会創造に貢献し得る行動を生み出す指針となれば、と思います。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、毎回、レジュメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

L.S.スタヴリアーノス著、猿谷 要訳『新・世界の歴史、環境・男女関係・社会・戦争から見た世界史』桐原書店。F.エンゲルス著、村井ほか訳『家族・私有財産および国家の起源』大月書店。
 高群逸枝著『女性の歴史 上・下』講談社学芸文庫。辻村みよ子・金城清子著『女性の権利の歴史』岩波書店。水田珠枝著『女性解放思想の歩み』岩波新書。V.クライン著、水田珠枝訳『女とは何か・イデオロギーの歴史』新泉社。M.ウルストンクラフト著、白井亮子訳『女性の権利の擁護』未来社。
 シモーヌ・D・ポーヴォワール著、生島 遼訳『第二の性』岩波文庫。古庄ゆき子編『資料・女性史論争』ドメス出版。石月ほか編『女性史を学ぶ人へ』世界思想社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①女性史を学ぶことの意味
- ②原始共同体における女性
- ③「イ工」無き時代の婚姻・出産・育児・母系社会
- ④文明の開幕と私有財産制
- ⑤国家の成立と「女性の世界史的敗北」
- ⑥古代ギリシャの女性とアジア的社会的な女性
- ⑦市民社会の出現-都市の発生と女性の性的商品化
- ⑧封建制と女性の従属
- ⑨近代社会の成立と女性のめざめ
- ⑩女性論の展開と黎明期の女性たち
- ⑪明治政権と女性政策
- ⑫家父長制の再編と明治民法
- ⑬青鞜・新しい女・婦選運動
- ⑭第二次世界大戦前後の女性
- ⑮女性問題の世界的動向

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点(毎回のミニレポートで、内容把握のレベルと出席を確認)、および、レポート(期末提出)による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

哲学の諸問題 【昼】

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

西田幾多郎著『哲学概論』を参考にしながら、「愛知」としての哲学が探求する「知」について理解するとともに、「認識論」と「存在論」の諸問題を考える。講義全体のキーワードは、愛知、認識論、存在論である。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じて参考文献を紹介し、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 哲学とは何か【philosophia】【愛知】
 - 2回 西田幾多郎の哲学の定義(1)
 - 3回 西田幾多郎の哲学の定義(2)
 - 4回 認識論の問題【認識論】
 - 5回 真理の概念(1)
 - 6回 真理の概念(2)
 - 7回 真理の概念(3)
 - 8回 認識の起源(1)
 - 9回 認識の起源(2)
 - 10回 認識の妥当(1)
 - 11回 認識の妥当(2)
 - 12回 存在論【存在論】【形而上学】
 - 13回 存在の量
 - 14回 存在の質
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の授業で出てきた用語や事柄で理解できない点があれば、質問をしたり、自分で調べたりしてその都度問題を解決しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会生活と法 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。現代社会における広範な人々の生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法を理解することを目的とするとともに、それぞれの法分野の役割と方法の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会法とは
- 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
- 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
- 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
- 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
- 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
- 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
- 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
- 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
- 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
- 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
- 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
- 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
- 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライバティゼーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に参考文献の関係箇所を一読しておくこと、講義内容が解りやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本の政治【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の政治に関する基礎的な知識と、今日一般に指摘されている問題点や改革論議に対する社会科学的視点を、受講生の皆さんが習得することです。まず日本の政策決定過程についての全般的な説明を行います。つぎに具体的事例として租税政策の決定過程に着目します。さらに政策決定過程の中心的アクターである議員の選出方法を取り上げ、日本の選挙制度の特徴や問題点等を考察します。講義全体のキーワードは「これまでの政治とこれからの政治」です。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
 その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 政策決定過程-基礎①：政治制度とアクター
- 3回 政策決定過程-基礎①：政治制度とアクター
- 4回 政策決定過程-基礎②：政治制度とインターアクション
- 5回 政策決定過程-基礎②：政治制度とインターアクション
- 6回 政策決定過程-応用①：税制の政治（理論）
- 7回 政策決定過程-応用①：税制の政治（理論）
- 8回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 9回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 10回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 11回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 12回 選挙制度①：今日の選挙制度
- 13回 選挙制度①：今日の選挙制度
- 14回 選挙制度②：首相公選制
- 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
 日本の政治機構については「憲法機構論」、日本の行政については「日本行政論」、政治過程全般については「政治過程論」、政治制度全般については「政治学」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策の構想 【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

様々な政策を立案する際に前提とすべき価値や思想について検討しながら、近・未来の政治社会のありうべき姿について考察する。そのために、まず、政治と政策にかかわる基礎知識について論述し、次に、政策構想の具体例の分析を行う。

教科書 /Textbooks

中道『政治のデザイン-政策構想論序説』（南窓社）。レジュメを配布し、理解の深化を目指す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、毎回、講義中に示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 政治と政治状況について【権力】【正当性】【組織化】【諸価値の配分】
- 第 2回 政治と政策について【方針】【政策の諸定義】【政策科学】
- 第 3回 政治と政策研究について【政策分析】【政策過程】【政策構想の必要性】
- 第 4回 新しい政策研究と政策の諸局面【政策マインド】【政策価値】
- 第 5回-6回 政策価値の変化【夜警国家の政策価値】【福祉国家の政策価値】
- 第 7回-8回 政策型思考について【目的・手段的認識】【循環的発想】【システムの発想】
- 第 9回-10回 市民の政策構想について【参加革命】【参加民主主義】
- 第 11回-13回 政治のデザインについて【古典モデル】【社会デザイン】
- 第 14回 市民による政策構想について【トレードオフ】【諸価値の共生】【熟議民主主義】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出：有（任意）出席点加味：有 平常授業中の小テスト：有（添削および問題解説）
 期末試験：有。評価は総合して行う。
 出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート：十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

まちづくり論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。併せて、企業活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
 (大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域開発【昼】

基礎教育科目
 共通基礎教育科目
 教養教育科目
 社会科目

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるの？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちえてません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。環境教育アクティビティを多用します。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成19年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明：：簡単な環境意識度チェック 【環境意識】
- 第2回 環境教育とESD 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 - 7回 環境政策（北九州市を含む）と廃棄物管理 【北九州市】【廃棄物管理】
- 第8回 - 10回 下水処理・上水道：：（アクティビティ=きき水比べ） 【水質汚濁】
- 第11回 - 12回 大気汚染：： 樹木の蒸散と二酸化炭素吸収度の算定 【大気汚染】
- 第13回 - 14回 環境保全・環境教育に取り組む人々 = エコツーリズムに関わろう！
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 20 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

遺伝と生命【昼】

担当者名 /Instructor 山根 明弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「遺伝子」と「生命」のかかわりについて、基礎的なものから最先端の話題まで、わかりやすく解説します。生命科学の技術が飛躍的に進み、遺伝子に関する話題や情報がメディア等に氾濫するなか、遺伝子DNAとはなにか？生命とは？倫理的問題点も含めて理解してもらうことを目的としています。文系の受講者を対象としていますので、専門的な知識をより深くというよりも、人間社会との関わりになるべく重点を置いて進めてゆくつもりです。また「自然史」に関する話題も毎回講義に組入れて、身の回りの生き物の世界とDNAとの深いつながりを意識してもらうつもりです。

教科書 /Textbooks

増補新訂版「サイエンスビュー生物総合資料」実教出版株式会社（このテキストは、絶対に必要というわけではありませんが、持っているが大変便利です。値段も安く、たくさんの写真や資料が載っています。生物学に興味がある方には特におすすめです）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最近のTVニュースや新聞を見ていると「遺伝子」や「DNA」に関する話題が頻繁に取り上げられるようになってきています。この科目の前半では、「遺伝子DNA」「遺伝のメカニズム」「生命の進化」の基礎的な知識やメカニズムをわかりやすく解説し、後半では遺伝子技術と人間社会との接点やその成果について、同時に生じる社会的・倫理的問題点をも含めて紹介していききたいと思います。

(【】内はキーワード)

第1回～第8回：遺伝子DNA、遺伝の法則、生命についての基礎知識

【DNAって何?】【DNA情報からタンパク質の合成】【生物学のセントラルドグマ】【早すぎた発見、メンデルの遺伝の法則】【遺伝子突然変異】【遺伝病】【三毛猫はメス】【BSE問題】

第9回～第15回：遺伝子技術とわたしたち

【バイオテクノロジー】【遺伝子組み換え作物】【食の安全】【DNA鑑定法】【遺伝子診断】【遺伝子治療】【オーダーメイド医療】【クローン技術と倫理】【個人の遺伝子情報の保護】【iPS細胞】【再生医療】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の修学態度(出席を含む) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学期末試験(論述方式)の結果で成績評価を行います。どれだけ全体像が理解できているかが評価のポイントです。出題内容の一部は、講義の早い段階から教えますので、各自アンテナをたてて情報を収集してください。また、受講者の努力量をより公平に評価するために、出席も重視したいと思います。従って、毎回出席をとるようにしています。遅刻してきた人は講義を受けることができない場合もあります。総合評価は、出席点40点、筆記試験点60点の100点満点で行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

薬とくらし【昼】

担当者名 /Instructor 森 正明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

- ①医薬品と生命体との関わりが理解できるように平易に説明する。
- ②遺伝子検査に基づくオーダーメイドの薬物療法の現状について概説する。
- ③医薬品の虚偽・誇大な情報の流布；サプリメントの氾濫；薬害多発の背景と課題についても考察する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。配布レジュメに基づいて授業する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①知っておきたいくすりのQ&A (全日本民医連・編：新日本出版社：2005年)
- ②くすりの効き方は人によって違うの？ (鎌滝 哲也・監：丸善：平成15年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 薬の歴史
- 3回 薬はどのようにして創られるのか
- 4回 薬害と副作用の違い
- 5回 遺伝子とは何か
- 6回 医薬品の創製におけるDNA技術の応用
- 7回 薬の吸収・代謝・分布・排泄について
- 8回 薬物代謝酵素とその遺伝子について
- 9回 薬の効き方の個人差と遺伝子検査
- 10回 生体の恒常性と疾病について；免疫とは何か
- 11回 薬はどのようにして効果を発揮するのか
- 12回 健康食品・サプリメントの功罪
- 13回 麻薬・覚せい剤・大麻等の危険性について
- 14回 オーダーメイドの薬物療法とは
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む)・・・30% 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメをよく読んでおくこと。また、授業中に指示したことを自己学習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報処理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。初心者をも対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、コンピュータを道具として使いこなす訓練を行いつつ、自分自身の思考を的確に表現する能力を習得することです。
 講義全体のキーワードは、Word、インターネット、学内グループウェアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パソコンの基礎操作1【書式設定】、【印刷】、【保存】
- 2回 パソコンの基礎操作2【ヘルプ】、【ハンガアップ】
- 3回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 4回 情報倫理1【ネチケット】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 情報倫理2【セキュリティ対策】、【SSL】
- 6回 パソコンの基礎知識1【ID】、【パスワード】
- 7回 パソコンの基礎知識2【拡張子】、【書式設定】
- 8回 文書作成1【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 9回 文書作成2【表の作成】
- 10回 文書作成3【図形処理】
- 11回 文書作成実習
- 12回 文書作成・まとめ
- 13回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 14回 インターネット演習【情報検索】、【WWW】、【URL】、【ドメイン名】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% (Wordの活用 ... 25%、インターネット演習 ... 25%)、積極的な授業参加 (タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で、学内グループウェアを利用しながら、その利用方法やネチケットに対する実践的な学習を行います。グループウェアの利用方法、特に、電子メールの利用方法について確認しておくこと、受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ネットワーク通信【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、特別なソフトウェアを用いずに、HTMLによるWebサイト作成演習を行います。また、WWWを利用して、情報検索演習も行います。Webページ作成未経験者や情報検索初心者を対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、ネットワーク通信技術とネットワーク社会の現状を理解し、国際社会・情報社会に適応した、インターネットによる情報収集能力、情報発信能力を習得することです。講義全体のキーワードは、WWW、URL、HTML、情報検索、情報探索、情報発信です。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ネットワーク【インターネット】、【電子メール】、【WWW】
- 2回 ネットワーク【ドメイン名】、【IPアドレス】、【DNS】
- 3回 情報検索【ブラウザ】、【URL】、【キーワード検索】
- 4回 情報検索実習 1
- 5回 情報検索実習 2
- 6回 情報検索実習 3
- 7回 HTMLによるWebページ作成方法 1【HTML】、【タグ】
- 8回 HTMLによるWebページ作成方法 2【ハイパーリンク】
- 9回 HTMLによるWebページ作成方法 3【企画書】、【著作権】
- 10回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 11回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 12回 HTMLによるWebページ作成実習 3
- 13回 情報発信【著作権】、【ネチケット】
- 14回 WWWを利用した情報探索【テーマ調査】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

情報検索実習 ... 25%、Webページ作成実習 ... 25%、その他の課題 ... 25%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に学内グループウェアを利用して情報交換を行い、電子メールの利用マナーやネチケットに対する実践的な学習を行います。「情報処理基礎」の内容を把握しておくこと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツⅡをふまえて、運動・スポーツの楽しさを体験し、継続することの重要性、身体を動かすことの重要性を認識させ、さらなる運動習慣の獲得に向けての授業を目指す。
 種目については、年齢や体力に応じて参加できるニュースポーツも加え、興味・関心のある種目を毎時間各自が選択して行う。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ニュースポーツ(1)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 3回 ニュースポーツ(2)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 4回 ニュースポーツ(3)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 5回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 6回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 7回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 8回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 9回 ニュースポーツ(4)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 10回 ニュースポーツ(5)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 11回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 12回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 13回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 14回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル確認テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の体力や体調などを考え、種目を決めて実施する。運動のできる服装と体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツⅣ【昼】

担当者名 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツⅡ-IIをふまえて、運動・スポーツの楽しさを体験し、継続することの重要性、身体を動かすことの重要性を認識させ、さらなる運動習慣の獲得に向けての授業を目指す。
 種目については、年齢や体力に応じて参加できるニュースポーツも加えて行う中で、興味・関心のある種目を見つけ、今後の生涯スポーツとしての体力・技術の維持向上を図る。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ソフトバレーボールとバレーボール(選択)①
- 3回 ソフトバレーボールとバレーボール(選択)②
- 4回 室内サッカー(フットサル)とトレーニング、ランニング、ウォーキング(選択)①
- 5回 室内サッカー(フットサル)とトレーニング、ランニング、ウォーキング(選択)②
- 6回 バドミントン①
- 7回 バドミントン②
- 8回 バスケットボールと卓球(選択)①
- 9回 バスケットボールと卓球(選択)②
- 10回 ショートテニス①
- 11回 ショートテニス②
- 12回 選択種目①
- 13回 選択種目②
- 14回 選択種目③
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み … 70% スキル獲得テスト … 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

設定された種目のどちらかを選択して行う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (アメリカ) 不足分 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 1・2学期 (ベ ア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期 (ベ ア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習【昼】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 4年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ /Class Format ア) クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期 (ベ ア) 授業形態 /Class Format クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 4年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期 (ベ ア) 授業形態 /Class Format クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習【昼】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習【昼】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ ア) 授業形態 /Class Format クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習【昼】

担当者名 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習【昼】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習【昼】

担当者名 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 /Year 単位 4単位 /Credits 学期 2学期(ペア) /Semester 授業形態 /Class Format クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習【昼】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 A 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○				

授業の概要 /Course Description

- (1) グローバリゼーションについて理解を深める。
- (2) 3年次演習で執筆した論文をもとに、卒業論文を執筆する。

教科書 /Textbooks

指定しない。上記 (1) については文献リストの中から選んでもらう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記 (1) のテーマについて
分担を決めて文献を報告してもらおう。内容についての内容要約と問題提起をもとに、議論を 行い、理解を深める。

上記 (2) のテーマについて
最初の演習の時間に、各自、関心のある問題について大まかな「研究計画書 (①題目、②問題の 所在、③方法、④先行する内外の関連文献リスト)」を出してもらおう。
その後、毎回、順番を決めて文献の紹介、研究の進捗状況を報告してもらおう予定である。相談には、随時、応じる。また、社会統計学、社会調査法についても、必要に応じて講義する。
また、関心があれば、広島県呉市での調査に参加する。

- 1回 文献の選定、研究計画書の検討
- 2～14回 テキスト批評・卒業論文検討会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告・参加度... 1 0 0

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担報告と議論への参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習B 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○				

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆
1学期に引き続き、卒業論文を作成する。
なお、必要に応じて、国際社会学や社会調査関連の文献を読む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「研究計画書(①題目、②問題の所在、③方法、④先行する内外の関連文献リスト)」に従って、毎回、順番を決めて文献の紹介、研究の進捗状況を報告してもらう。相談には、随時、応じる。社会統計学、社会調査法についても、必要に応じて講義する。
また、関心があれば、広島県呉市での調査に参加する。

- 1回 研究計画書の検討
- 2～14回 テキスト批評・卒業論文検討会
- 15回 卒業論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・参加度・報告... 1 5 卒業論文... 8 5

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担報告と議論への参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 (ペア) 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (へ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 A 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○				

授業の概要 /Course Description

- (1) グローバリゼーションについて理解を深める。
- (2) 3年次演習で執筆した論文をもとに、卒業論文を執筆する。

教科書 /Textbooks

指定しない。上記 (1) については文献リストの中から選んでもらう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記 (1) のテーマについて
分担を決めて文献を報告してもらおう。内容についての内容要約と問題提起をもとに、議論を 行い、理解を深める。

上記 (2) のテーマについて
最初の演習の時間に、各自、関心のある問題について大まかな「研究計画書 (①題目、②問題の 所在、③方法、④先行する内外の関連文献リスト)」を出してもらおう。
その後、毎回、順番を決めて文献の紹介、研究の進捗状況を報告してもらおう予定である。相談には、随時、応じる。また、社会統計学、社会調査法についても、必要に応じて講義する。
また、関心があれば、広島県呉市での調査に参加する。

- 1回 文献の選定、研究計画書の検討
- 2～14回 テキスト批評・卒業論文検討会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告・参加度... 1 0 0

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担報告と議論への参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 B 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○				

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆
1学期に引き続き、卒業論文を作成する。
なお、必要に応じて、国際社会学や社会調査関連の文献を読む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「研究計画書(①題目、②問題の所在、③方法、④先行する内外の関連文献リスト)」に従って、毎回、順番を決めて文献の紹介、研究の進捗状況を報告してもらう。相談には、随時、応じる。社会統計学、社会調査法についても、必要に応じて講義する。
また、関心があれば、広島県呉市での調査に参加する。

- 1回 研究計画書の検討
- 2～14回 テキスト批評・卒業論文検討会
- 15回 卒業論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・参加度・報告... 1 5 卒業論文... 8 5

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担報告と議論への参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球環境論(不足分) 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 治彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

地球環境問題は、人間活動により生じた問題であり、人類の歴史を顧みる必要がある。また、この問題が地球及びそこに生息する生物に不可逆的な変化を与えることから、未来を見据えた対策が必要である。このため、時間軸上のあらゆる点から、前後を見渡す広い視野にたった視点が要求される。授業では、地球と人間の現在から過去について顧み、現在から未来については、自然と人間社会とが調和した姿を想定し、それにアプローチする方法を考える。また、自然科学(大気・水循環を中心に)の立場から広い視点で環境問題を考える。さらに、環境保全策の現状を日本、外国の事例を比較しながら検討し、今後の課題について考える。

教科書 /Textbooks

なし(資料を配布する)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

環境学序説 (環境学入門1) 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回「俯瞰的研究」【空間的俯瞰】、【時間的俯瞰】、【社会的俯瞰】、【地球を俯瞰する】
- 2回「自然の歴史I」【ビックバン】、【物質の誕生】
- 3回「自然の歴史II」【地球の誕生と進化】、【生物の誕生と進化】
- 4回「人間社会の形成」【人類誕生と進化】、【人間活動の変化】、【自然生態系と人工生態系】
- 5回「地球規模の自然現象と環境問題I(熱収支と四季)」【放射】、【温室効果】、【季節変動】
- 6回「地球規模の自然現象と環境問題II(水と大気の大循環)」【海洋大循環】、【大気大循環】
- 7回「地球規模の自然現象と環境問題III(森林消失と生物種絶滅)」【熱帯林の破壊】、【砂漠化】
- 8回「地球規模の自然現象と環境問題IV(オゾン層破壊と生物存続の危機)」【紫外線】、【フロン】
- 9回「地球規模の自然現象と環境問題V(二酸化炭素と温暖化)」【温暖化予測】、【CO₂】、【海水面】
- 10回「気候変動」【氷河期と間氷期】、【気候変動の推定方法】、【小氷河期】
- 11回「環境保全策」【日本の場合】、【ヨーロッパの場合】、【中国の場合】【各国との比較】
- 12回「地球にやさしいエネルギー」【風力・波力発電】、【燃料電池】、【メタンハイドレート】
- 13回「現在から未来に向けて」【宇宙と人間の未来】、【環境とビジネスとの関係】
- 14回「今後、我々は地球とどのようにつきあうべきか」
【土と水の浄化能力】、【環境共生】、【人間の価値観】、【倫理観】、【精神的な豊かさ】
- 15回「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

質問カード記入(10%)、学期末試験(90%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争論 (不足分) 【昼】

担当者名 /Instructor 菅 英輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

冷戦後の紛争や戦争、平和と安全、秩序形成をめぐる諸問題を、歴史的視点を重視しながら、多面的に考察することを目的とする。「世界はなぜ仲良くできないのか」を歴史的、構造的、原理的に検討し、21世紀の安全保障問題の理解を深める。本年度は特にアメリカの戦争に焦点をあてる。

教科書 /Textbooks

菅英輝著『アメリカの世界戦略』（中公新書、2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

菅英輝編著『アメリカの戦争と世界秩序』（法政大学出版局、2008年）、菅英輝編著『冷戦史の再検討』（法政大学出版局、2009年）。その他、以下の授業スケジュール中の指定図書を参照されたい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 冷戦後の世界の特徴と地域紛争
 - (1)冷戦期の紛争の特徴 (テキスト『アメリカの世界戦略』1章)
 - (2)冷戦とは何か、冷戦後の世界の特徴 (テキスト4章、『冷戦史の再検討』序章、その他の章、菅英輝、秋元英一『アメリカ20世紀史』（東京大学出版会、2003年）(指定図書)5章、8章)
 - (3)冷戦後の世界の特徴と地域紛争の関係 (テキスト4、5、6章)
2. アメリカの戦争と世界秩序形成
 - (1)アメリカ帝国論をめぐる議論、アメリカの国際秩序形成における役割 (テキスト7章)
 - (2)戦後世界秩序の特質 (理念、規範、制度、パワー) (テキスト11章)
 - (3)アメリカの対イラク戦争とアメリカの世界支配 (テキスト8、9、10章)
 - (4)メディアと戦争 (テキスト12章、『アメリカの戦争と世界秩序』9章)
 - (5)アメリカ市民社会と戦争 (テキスト12章、『アメリカの戦争と世界秩序』7章)
 - (6)正義の戦争と不正な戦争 (テキスト12章、『アメリカの戦争と世界秩序』6、8章)
3. 日米安保と地域紛争
 - (1)冷戦後の安保再定義をめぐる諸問題 (テキスト第2章)
 - (2)米軍再編問題と日米安保のグローバル化 (テキスト3章)
 - (3)朝鮮半島の核をめぐる問題と6者協議 (テキスト3章、菅英輝編著『朝鮮半島』(社会評論社、2004年)(指定図書))
4. 冷戦後の国際環境と安全保障
 - (1)国家の安全と国民の安全-安全保障の原理的考察 (菅英輝、石田正治編著『21世紀の安全保障と日米安保体制』(ミネルヴァ書房、2005年)(指定図書)、9章)
 - (2)人間の安全保障論-安全保障の原理的考察 (『21世紀の安全保障と日米安保体制』9章) (3)地域から安全保障を考える。
5. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み状況を考慮して総合的に評価する。ただし、出席が規定日数(3分の2)に達していない者には試験資格を与えない。
※新カリキュラムと旧カリキュラムでは履修時間が異なるので、注意されたい。詳細は第一回目の授業で説明。旧カリキュラムの受講生は、新カリキュラムのテキストに加えて、菅英輝編著『冷戦史の再検討』（法政大学出版局、2009年）を使用。人数が少ない場合には、ゼミ形式とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

国際紛争論 (不足分) 【昼】

専門教育科目
専門科目
専門科目I
B群

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の社会【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

中国の社会に関して、伝統-変革-変容の視点から理解を深める。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業中に随時紹介する。

- 1回 中国の社会へのアプローチ
- 2回 伝統的中国社会①-家族と宗族のその1
- 3回 同上の続き
- 2回 伝統的中国社会②-日中社会の比較
- 5回 同上の続き
- 6回 伝統的中国社会③-都市と同業同郷団体
- 7回 伝統的中国社会④-農村社会と国家権力、華北の事例
- 8回 伝統的中国社会の変革①-中国共産党の土地改革
- 9回 同上の続き
- 10回 伝統的中国社会の変革②-農業集団化とその終焉
- 11回 同上の続き
- 12回 伝統的中国社会の変革③-都市
- 13回 現代中国社会の変容①-国有企業改革と労働市場・社会保障制度の変容
- 14回 現代中国社会の変容②-経済成長と格差
- 15回 中国の時事問題に関する討論

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...% 期末レポート...%
必要に応じて数回レポートを課す。期末レポートで成績評価を予定しているが、授業時に正式に通知する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、前期は国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、直接投資を中心に説明を進める。後期は国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に解説する。

教科書 /Textbooks

前期：浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
後期：橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
P.R.クルグマン他『国際経済：理論と政策I, II』（新世社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 比較優位の理論I【絶対優位】【貿易パターン】
- 3回 比較優位の理論II【リカードモデル】【比較優位】【貿易の利益】
- 4回 ミクロ経済学の復習【生産可能性曲線】【無差別曲線】
- 5回 一般均衡分析【貿易三角形】【オプファー曲線】
- 6回 要素賦存の理論I【ヘクシャー＝オリーン・モデル】【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 要素賦存の理論II【リプチンスキーの定理】【ストールパー＝サムエルソンの定理】
- 8回 規模の経済と不完全競争
- 9回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 10回 小国の貿易政策【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 小国の貿易政策【数量割当政策】
- 12回 大国の貿易政策【最適関税の理論】
- 13回 経済統合【自由貿易地域】
- 14回 国際要素移動【海外直接投資】
- 15回 国際要素移動【労働の国際移動】
- 16回 前期の復習、後期の講義説明、国際マクロ経済学の紹介
- 17回 国際収支表【経常収支】【資本収支】
- 18回 異時点取引としての国際金融取引【時間選好率】【利子率】
- 19回 外国為替の基礎【為替相場制度】【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 20回 為替レートの決定要因I【購買力平価】
- 21回 為替レートの決定要因II【金利平価】
- 22回 為替レートの決定理論【フロー・アプローチ】【アセット・アプローチ】
- 23回 為替介入【不胎化政策】
- 24回 開放経済の45度線分析【国民所得決定】
- 25回 開放経済下のマクロ経済政策I【IS曲線】、【LM曲線】、【BP曲線】
- 26回 開放経済下のマクロ経済政策II【マンデル＝フレミングモデル】【固定相場制】
- 27回 開放経済下のマクロ経済政策III【マンデル＝フレミングモデル】【変動相場制】
- 28回 国際金融システムI【通貨危機の構造】
- 29回 国際金融システムII【国際通貨制度の考え方】
- 30回 国際金融システムIII【通貨統合の論理】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・(授業中の)小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ、マクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論II 【昼】

担当者名 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から近世（16世紀）に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（1）語彙の豊富さ（2）語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

見馬修『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房、1996年、1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観（1）【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観（2）【ケルト人】
- 5回 印欧祖語（1）【ウィリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語（2）【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字（1）【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字（2）【古英語】
- 9回 海賊と英語（1）【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語（2）【借用語】
- 11回 海賊と英語（3）【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語（1）【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語（2）【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語（3）【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabus
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論 ①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論 ②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論 ③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabusから概括
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理から概括
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論 ①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論 ②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論 ③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabusから概括
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理から概括
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心に、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。
 - ①授業の展開の全体像
 - 5回
 - ②「新出事項導入」
 - 6回
 - ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回
 - ②Reading
 - 9回
 - ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回
 - ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 40%、課題... 10% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心に、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 30%、課題... 20%、期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心に、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動...30%、課題...20%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】 【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】 【管理】 【生活と文化】 【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】 【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】 【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】 【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】 【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】 【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】 【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】 【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】 【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】 【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】 【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】 【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】 【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】 【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導論 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 授業観察の方法	【観察記録】 【観察方法】
7回 学級経営について	【学習指導要領】 【チームサポート】
8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ	【体験学習】 【働きかけ】
9回 子どもの人権と教育 材研究】 【学習指導案】	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教
11回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
12回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
13回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
14回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】
15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備	【教師の資質】 【事前準備】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋文学【夜】

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、シェイクスピアの劇作品を紹介する。シェイクスピアは語りつくされた、と思う人は、シェイクスピアを知らない人である。現在もなお、新説が次々に提唱され、シェイクスピア観は常に新しく変貌し続けている。
 近年はまた、新しい解釈にもとづく映画化がつつぎ、日本の若者世代にも広く認知されている。講義では、テキストと映像を通して作品に触れ、英国の文化、社会、宗教、制度、加えて、大陸文化との交流に関する認識を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

河合 祥一郎 編著『シェイクスピアは誘う』 小学館
 * 最初の授業はテキストを持参のうえ、聴講することを義務とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序
- 第2回 初期歴史劇 『リチャード三世』
- 第3回 初期喜劇 『じゃじゃ馬馴らし』
- 第4回 宮内大臣一座創立期 『ロミオとジュリエット』
- 第5回 宮内大臣一座創立期 『夏の夜の夢』
- 第6回 宮内大臣一座創立期 『ヴェニスの商人』
- 第7回 円熟喜劇 『十二夜』
- 第8回 四大悲劇 『ハムレット』
- 第9回 『ハムレット』
- 第10回 四大悲劇 『オセロオー』
- 第11回 四大悲劇 『リア王』
- 第12回 『リア王』
- 第13回 四大悲劇 『マクベス』
- 第14回 口マンズ劇 『テンベスト』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の出席状況、小テストと提出物、定期試験の成績で総合的に評価する。
 20 % 20 % 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* テキストの指定された箇所を毎回熟読してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理学入門【夜】

基礎教育科目
共通基礎教育科目
教養教育科目
人文科目

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では演繹的論証について考察しますが、先ず、命題論理学の基本的な事柄を学び、その後、述語論理学に話を広げます。講義全体のキーワードは、演繹的論証です。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

クワイン『論理学の方法』、ヒルベルト/アッケルマン『記号論理学の基礎』などの定評ある論理学教科書が図書館にそれぞれ数部ずつ用意してあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名辞
- 2回 命題
- 3回 論証
- 4回 演繹的論証の妥当性(1)
- 5回 演繹的論証の妥当性(2)
- 6回 真理値表(1)
- 7回 真理値表(2)
- 8回 論理式
- 9回 恒真式(トートロジー)
- 10回 真理分析と推論(1)
- 11回 真理分析と推論(2)
- 12回 論理回路
- 13回 命題関数
- 14回 量化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には継続して出席し、復習をよくしておくことが大切です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理学の展開 【夜】

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では帰納的論証について考察しますが、先ず、演繹的論証の特徴と帰納的論証の特徴の違いを理解して、その後、帰納的一般化の最も単純な種類、類推、因果関係に基づく推論、仮説、などについて考察します。講義全体のキーワードは、帰納的論証です。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

W.C.サモン著/山下正男訳『論理学 三訂版』(培風館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論証
- 2回 演繹的論証の特徴と帰納的論証の特徴
- 3回 帰納における正しさ
- 4回 枚挙による帰納
- 5回 不十分な統計
- 6回 かたよった統計
- 7回 統計的三段論法
- 8回 権威に基づく論証
- 9回 類推
- 10回 因果関係に基づく論証
- 11回 ミルの方法(1)
- 12回 ミルの方法(2)
- 13回 因果関係に関する虚偽と対照実験
- 14回 仮説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には継続して出席し、復習をよくしておくことが大切です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学概論【夜】

基礎教育科目
共通基礎教育科目
教養教育科目
社会科目

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

もともと、経済を形成しているのは普通の人々の日常生活である。しかし今日、我々が経済について耳にする情報は、日々の生活感覚からは程遠いものとして聞こえてくる。そこで、両者を結び付ける役割を期待されているのが経済学の体系のはずなのであるが、実際にはかえって一般の人々の理解を遠ざけているというのが実状であろう。

本講義は、経済学専攻以外の学生を対象としたものであり、「経済学入門」ではない。理論体系の解説ではなく、社会における経済的領域と非経済的領域の境界線を散見することによって、日常感覚と経済現象との間のある種の断絶を埋める試みである。「市場社会」という用語をキーワードに、経済学的な社会観のようなものを示し、最終的には今日喧しい「マーケット」の問題について言及することになる。身近で当たり前と思われるような経済現象の中に、時々刻々と変動している国際経済の広がりを見出すことが目標である。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 経済学概論概説 (講義の概要)
- 2回～3回 市場社会とは【経済】【政治】【文化】
- 4回～6回 市場社会の基礎理論【分業】【富】【知識】
- 7回～8回 市場社会の形成【産業革命】【交換】
- 9回～10回 市場社会の転換【大恐慌】【フォーディズム】
- 11回～13回 市場社会の現在【IT革命】
- 14回 21世紀の市場社会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業が始まるまでに、「経済」についての関心を育てておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国家と法【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」を中心として判例を研究する。受講者が少人数になることが予想されるため、受講者の興味・関心を斟酌して、素材を決定する。受講者の人数によっては、受講者自身が判例報告をする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス - 公法判例の読み方
- 第2回 判例①
- 第3回 判例②
- 第4回 判例③
- 第5回 判例④
- 第6回 判例⑤
- 第7回 判例⑥
- 第8回 判例⑦
- 第9回 判例⑧
- 第10回 判例⑨
- 第11回 判例⑩
- 第12回 判例⑪
- 第13回 判例⑫
- 第14回 総括 - 講義を踏まえたうえで憲法状況に関して概説する
- 第15回 総括 - 講義を踏まえたうえで憲法状況について概説する

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(あるいはレポート) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と法 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この講義は、国家、国際機構や個人によって織りなされる国際関係が、どのような法によって規律されているのかを体系的に理解してもらうことを目的とします。国際関係を規律する主要な法体系としての国際法に加え、個別事例や特定テーマをもとに、当該事案の一般的な理解のために必要とされる、国際機構法、関連国内法令にも言及し、学生に包括的な取り組みの重要性を訴えます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際法入門』（有斐閣・2004）
 ○国連憲章（以下のサイト<http://www.unic.or.jp/know/kensyo.htm>にあります。各自、それを印刷し、毎回、授業のときに持って来てください。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の理解に必要な参考資料は、適宜、配布します。参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
 第I部「安全保障」
 第2回 国連 激動の60年 第3回 新たなる脅威と安全保障
 第4回 国連安全保障理事会の改革 第5回 中間試験①
 第6回 解説と講評&個別指導
 第II部「人権・人道 難民」
 第7回 世界の難民問題の現状 第8回 難民の定義と難民問題の恒久的解決
 第9回 難民問題についての日本の対応 第10回 中間試験②
 第11回 解説と講評&個別指導
 第III部「二極化された世界 環境・貿易・開発」
 第12回 グローバリゼーションの光と影 第13回 地球温暖化 ポスト京都へ向けた動き
 第14回 政府開発援助(O DA)のあり方 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
 中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
 なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【】はキーワード)

- 1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 3回~4回 商人とは？商行為とは？【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 6回~8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール【商号・商標】
- 9回~11回 会社と従業員との関係—【商業使用人】【雇用】
- 12回~13回 会社と消費者との関係—【普通取引約款の利用】【消費者保護法】
- 14回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか？【商業登記】
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と宇宙観 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 良治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「星」、「宇宙」など、慣れた言葉への思い込みや誤解を解きほぐし、ものごとを考える判断基準系の批判的検証を通じて、自己と外界の相互関係について複眼的思考力の養成に資する一助とすること。(前半)宇宙観がどのように誕生、変化してきたか、また宇宙における人類の位置付けがどのように変化してきたかを概観する。(後半)日本や東アジアの宇宙観、宗教における宇宙観、言語・文学と宇宙観、音楽と宇宙観など宇宙と人間との多面的な関わり合いを考察する。

教科書 /Textbooks

講義プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

村上陽一郎「宇宙像の変遷」(講談社, 学術文庫, 1996年)
 C.セーガン「コスモス(上, 下)」(朝日新聞社, 朝日文庫, 1984年)
 佐藤文隆「宇宙論への招待」(岩波新書, 1988年)
 荒川 紘「東西の宇宙観(上)東洋の宇宙観」(紀伊国屋書店, 2005年)
 荒川 紘「東西の宇宙観(下)西洋の宇宙観」(紀伊国屋書店, 2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回宇宙観の進化【宇と宙、コスモス、ユニバース、進化する宇宙】
- 第2回古代の宇宙観【神話的、哲学的宇宙観】
- 第3回地球中心モデル【プトレマイオス、円軌道、等速運動】
- 第4回中世の宇宙観【地球中心、有限、不変、存在の連鎖】
- 第5回近代の宇宙観1【太陽中心宇宙、楕円軌道】
- 第6回近代の宇宙観2【無限宇宙、万有引力、地上と天界の統一】
- 第7回現代の宇宙観1【天国と地獄としての太陽系、星の誕生と進化】
- 第8回現代の宇宙観2【ハッブルの法則、ビッグバン宇宙】
- 第9回現代の宇宙観3【インフレーション宇宙、宇宙の進化】
- 第10回日本の伝統的宇宙観【恐れと恵みの自然、花鳥風月、安藤昌益、三浦梅園、合理性】
- 第11回宗教的宇宙観【キリスト教、ヒンドウ教、仏教、儒教】
- 第12回言語・文学と宇宙観【宇と宙、世界】
- 第13回音楽と宇宙観【ピタゴラスと和音、自由七科、ケプラー、バッハ、ベートベン】
- 第14回時間と空間【時間意識の4つの形態、状態変化と時間、運動と空間】
- 第15回宇宙と人間【宇宙における生命、自然の階層構造、宇宙原理と人間原理】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義の要約または感想(20%)
 出席回数は3分の2以上を原則とする。
 前半レポート(40%)、後半レポート(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然と人間のエコロジー【夜】

担当者名 真鍋 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

自然の仕組みを理解するための道具としての『生態学』の基礎知識を解説する。これを踏まえ、現在の主要な環境問題である「生物多様性」をめぐる諸問題や、ヒトとの関わり合いを通じて形成・維持されてきた「二次的自然」の意義等を紹介する。これらの講義をとおして、自然の特質や自然とヒトとの関係を自ら分析し判断できる素地を形成することを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用せず。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本生態学会(編)「生態学入門」東京化学同人、を推薦する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 自然界の捉え方 【分類学】【生態学】【5界説】【環境】【適応】
 - 第3～6回 生態学の基礎1 【生活史】【個体群】【群集】【生態遷移】【生物間相互作用】【環境形成作用】【ニッチ】【攪乱】
 - 第7～10回 生態学の基礎2 【生態系】【生態ピラミッド】【物質循環】【食物網】【景観構成要素】【生態系機能】【生態系サービス】
 - 第11～13回 生物多様性を考える
【二次的自然】【外来種】【里地里山】【絶滅危惧種】【自然再生】
 - 第14回 生態学的にみた北九州の自然
【大陸系生物】【二次林】【二次草原】【溜池】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
 (ノート・参考書持参可の試験を実施する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報処理基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。初心者をも対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、コンピュータを道具として使いこなす訓練を行いつつ、自分自身の思考を的確に表現する能力を習得することです。
 講義全体のキーワードは、Word、インターネット、学内グループウェアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パソコンの基礎操作1【書式設定】、【印刷】、【保存】
- 2回 パソコンの基礎操作2【ヘルプ】、【ハンガアップ】
- 3回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 4回 情報倫理1【ネチケット】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 情報倫理2【セキュリティ対策】、【SSL】
- 6回 パソコンの基礎知識1【ID】、【パスワード】
- 7回 パソコンの基礎知識2【拡張子】、【書式設定】
- 8回 文書作成1【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 9回 文書作成2【表の作成】
- 10回 文書作成3【図形処理】
- 11回 文書作成実習
- 12回 文書作成・まとめ
- 13回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 14回 インターネット演習【情報検索】、【WWW】、【URL】、【ドメイン名】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% (Wordの活用 ... 25%、インターネット演習 ... 25%)、積極的な授業参加 (タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で、学内グループウェアを利用しながら、その利用方法やネチケットに対する実践的な学習を行います。グループウェアの利用方法、特に、電子メールの利用方法について確認しておくこと、受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習【夜】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米思想研究 【夜】

担当者名 八尋 春海 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

英米社会における具体的な事象を分析しながら、その根底に流れる英米思想を考察する。

教科書 /Textbooks

『映画の中の星条旗』フォーイン

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本で手に入る英字新聞

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード
- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 回人種差別【黒人】 | 2 回人種差別【ヒスパニック】 |
| 3 回人種差別【アジア系】 | 4 回犯罪(銃規制) |
| 5 回犯罪【マフィア】 | 6 回大統領【選挙】 |
| 7 回大統領【危機管理】 | 8 回大統領【二大政党】 |
| 9 回スポーツ【3大スポーツ】 | 10 回スポーツ【スポーツ代理人】 |
| 11 回司法【陪審員制度】 | 12 回司法【弁護士】 |
| 13 回司法【懲罰的賠償】 | 14 回音楽【ロック】 |
| 15 回音楽【ジャズ】 | 16 回犯罪捜査【FBI】 |
| 17 回犯罪捜査【CIA】 | 18 回家族【離婚】 |
| 19 回家族【シングル】 | 20 回家族【核家族】 |
| 21 回ビジネス【買収】 | 22 回ビジネス【日系企業】 |
| 23 回マスコミ【テレビ】 | 24 回【通信社】 |
| 25 回マスコミ【自由化】 | 26 回環境問題【温暖化】 |
| 27 回環境問題【遺伝子組み換え】 | 28 回宗教【ユダヤ教】 |
| 29 回宗教【キリスト教】 | 30 回まとめ |
- 特になし

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 30% テスト... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、前期は国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、直接投資を中心に説明を進める。後期は国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に解説する。

教科書 /Textbooks

前期：浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
後期：橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
P.R.クルグマン他『国際経済：理論と政策I, II』（新世社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 比較優位の理論I【絶対優位】【貿易パターン】
- 3回 比較優位の理論II【リカードモデル】【比較優位】【貿易の利益】
- 4回 ミクロ経済学の復習【生産可能性曲線】【無差別曲線】
- 5回 一般均衡分析【貿易三角形】【オプファー曲線】
- 6回 要素賦存の理論I【ヘクシャー＝オリーン・モデル】【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 要素賦存の理論II【リプチンスキーの定理】【ストールパー＝サムエルソンの定理】
- 8回 規模の経済と不完全競争
- 9回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 10回 小国の貿易政策【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 小国の貿易政策【数量割当政策】
- 12回 大国の貿易政策【最適関税の理論】
- 13回 経済統合【自由貿易地域】
- 14回 国際要素移動【海外直接投資】
- 15回 国際要素移動【労働の国際移動】
- 16回 前期の復習、後期の講義説明、国際マクロ経済学の紹介
- 17回 国際収支表【経常収支】【資本収支】
- 18回 異時点取引としての国際金融取引【時間選好率】【利子率】
- 19回 外国為替の基礎【為替相場制度】【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 20回 為替レートの決定要因I【購買力平価】
- 21回 為替レートの決定要因II【金利平価】
- 22回 為替レートの決定理論【フロー・アプローチ】【アセット・アプローチ】
- 23回 為替介入【不胎化政策】
- 24回 開放経済の45度線分析【国民所得決定】
- 25回 開放経済下のマクロ経済政策I【IS曲線】、【LM曲線】、【BP曲線】
- 26回 開放経済下のマクロ経済政策II【マンデル＝フレミングモデル】【固定相場制】
- 27回 開放経済下のマクロ経済政策III【マンデル＝フレミングモデル】【変動相場制】
- 28回 国際金融システムI【通貨危機の構造】
- 29回 国際金融システムII【国際通貨制度の考え方】
- 30回 国際金融システムIII【通貨統合の論理】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・(授業中の)小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ、マクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済【夜】

担当者名 /Instructor 園 康寿 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1978年以降改革開放が実施されて、30年が経過しました。そして今、中国が掲げるビジョンは「和諧社会」です。中国はこの国家目標をどのように導こうとしているのでしょうか。現在、課題とされている地域経済格差、外需依存型経済成長、金融システム改革、国有企業改革、行財政改革などに注目しながら、受講生の理解を深めていきます。また、こうした過程を通じて、新聞など中国に関する記事の行間を読み取る力を養って行きます。

教科書 /Textbooks

野村総合研究所此本臣吾編『2015年の中国』東洋経済新報社、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ポスト改革開放の新国家像と日本企業の課題【急成長の中国経済】【和諧社会】
- 2回 社会主義和諧社会に向けた国家戦略【経済建設】【地域経済格差】
- 3回 法治国家建設に向けた漸進的アプローチ【行政権限】【司法制度】【法治意識】
- 4回 ポスト改革開放時代の金融システム改革I【銀行業界】【コーポレートガバナンス】
- 5回 ポスト改革開放時代の金融システム改革II【株式市場】【債券市場】
- 6回 国際摩擦の中での新たな通商・外資政策I【対外経済戦略】【貿易大国】【貿易強国】
- 7回 国際摩擦の中での新たな通商・外資政策II【海外直接投資】
- 8回 和諧社会時代の地域・都市発展戦略I【個別型成長】【ネットワーク型成長】
- 9回 和諧社会時代の地域・都市発展戦略II【全国レベル】【広域レベル】【都市レベル】
- 10回 一人っ子世代の消費意識と高度パターン【中国新生代】【顧客】【企業戦力・人材】
- 11回 中国から見るこれからの日中関係I【日中新時代】
- 12回 中国から見るこれからの日中関係II【戦略的互惠関係構築】
- 13回 和諧社会建設と日本企業の対応I【消費市場】【外資政策】
- 14回 和諧社会建設と日本企業の対応II【ビジネスリスク】【リスクマネジメント】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習レポート...25%、課題レポート...25%、定期試験...50%
課題レポートは授業の進捗に合わせて講義内容をまとめて頂きます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

いまの中国事情を知ることが何よりも授業の理解を助けます。新聞を毎日眺め、中国に関する記事を読んでおいてください。これは学習レポートとして評価の対象とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論II 【夜】

担当者名 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から近世（16世紀）に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（1）語彙の豊富さ（2）語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達史の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

見馬修『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房、1996年、1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観（1）【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観（2）【ケルト人】
- 5回 印欧祖語（1）【ウィリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語（2）【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字（1）【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字（2）【古英語】
- 9回 海賊と英語（1）【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語（2）【借用語】
- 11回 海賊と英語（3）【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語（1）【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語（2）【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語（3）【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 ティスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|-------------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 【刻々 |
- の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。ピューリタニズム、共和主義、自由主義、民主主義、保守主義といった政治文化から、人種差別、女性差別といった人権を侵害するものまで取り扱う。講義では、アメリカにおける公共性をめぐる視点の転換を説明するため、アメリカ特有の社会構造に焦点を当てる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス【アメリカとは何か】
- 第2回現代アメリカ社会の概観【現代アメリカ社会】
- 第3回英領アメリカ社会の文化【ピューリタニズム】【新世界】【無垢性】
- 第4回独立革命と共和主義【自由】【共和主義】
- 第5回19世紀アメリカの形成と民主主義【民主化】【フロンティア】
- 第6回自由主義社会と市場革命【超越主義】【プラグマティズム】
- 第7回南北戦争と奴隷制問題【奴隷制】
- 第8回フェミニズムの諸相【フェミニズム】
- 第9回20世紀アメリカ社会の形成【移民】【都市化】【産業化】
- 第10回大衆社会と消費文化【ジャズエイジ】【大衆社会】【消費文化】
- 第11回世界戦争と人権意識【世界戦争】
- 第12回公民権運動と権利革命【黒人運動】【若者文化】
- 第13回保守主義とは何か【保守主義】
- 第14回21世紀アメリカの文化【現代アメリカ社会】
- 第15回授業の総括

。

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容はアメリカ政治I,II, III, IVであつかう内容や、国際関係史Iであつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ社会を総体として理解できるようになります

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究特講 【昼】

担当者名 /Instructor ODU 教員 / 国際教育交流センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○			

授業の概要 /Course Description

後日揭示

※担当教員の都合により、開講できない場合もあります。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献講読【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○			

授業の概要 /Course Description

この授業では、新聞・雑誌記事（インターネット記事含む）、国際機関やNGOの報告書、また国際関係や国際協力に関わる学術論文を題材として、必要なさまざまな情報や考え方を英文で学び取るための力を養います。授業では、各種題材を精読するのではなく、内容を理解することに重点を置き、実際の社会生活に必要な英文読解力を得ることを目的とします。また内容に関係する国際社会情勢についても学ぶ機会とします。

教科書 /Textbooks

各回に次回の授業で使用する題材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 新聞・雑誌記事(時事中心)
- 3回 新聞・雑誌記事(時事中心)
- 4回 新聞・雑誌記事(時事中心)
- 5回 新聞・雑誌記事(時事中心)
- 6回 新聞・雑誌記事(時事中心)
- 7回 国際機関 / NGO報告書(国際協力 / 開発関連)
- 8回 国際機関 / NGO報告書(国際協力 / 開発関連)
- 9回 国際機関 / NGO報告書(国際協力 / 開発関連)
- 10回 国際機関 / NGO報告書(国際協力 / 開発関連)
- 11回 学術論文(国際関係)
- 12回 学術論文(国際関係)
- 13回 学術論文(NGO関係)
- 14回 学術論文(NGO関係)
- 15回 ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配付資料は必ず読み、分からない単語を調べるなど予習をしてください。また辞書(紙・電子辞書など問わず)を必ず持参してください。授業は相互学習(グループワーク)の形で行います。無断欠席をしたり、予習ができていない場合は、友人に迷惑をかけることもありますので、そのようなことがないように注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの政治III 【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ外交の特徴は何か，国際政治にアメリカはどのような影響と役割を果たしてきたのか，こうした問題を，建国期から19世紀前半までのアメリカ外交の展開を中心に，外交思想，政策決定過程，人物に焦点をあてて概説する

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 - 4回 外交とは何か、ヨーロッパの「古典」外交、アメリカ外交とイデオロギー
- 5回 - 7回 アメリカ外交の原型 - 反英抗争と独立革命 -
- 8回 - 10回 ジャクソン期における政治転換
- 9回 - 12回 孤立主義と膨張主義の形成
- 13回 - 14回 南北戦争への道
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題・小テスト含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの政治Ⅳ【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ外交の特徴は何か、国際政治にアメリカはどのような影響と役割を果たしてきたのか、こうした問題を、19世紀半ばからのアメリカ外交の展開を中心に、外交思想、政策決定過程、人物に焦点をあてて概説する。またその際、我が国との関わりについても、折に触れて考察する。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 - 3回 19世紀アメリカ外交の「二つの顔」
- 4回 - 6回 日米外交の黎明
- 7回 対ラテンアメリカ外交
- 8回 - 9回 世界強国への道
- 10回 - 12回 20世紀のアメリカ外交への視点 - 第一次世界大戦とウィルソンの国際主義 -
- 13回 - 14回 第2次世界大戦
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題・小テスト含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第1学期に、「アメリカの政治Ⅲ」を受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会I【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 藤永 康政 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種民族関係について、主に黒人の経験に焦点をあてながら歴史的に概観する。また、歴史的現象のみならず、おおよそ一か月に一回の割合で今日のアメリカの政治社会問題について、それがいかなる歴史的経験に基づいているものなのかを考察しながら、アメリカ社会をより深く理解することを目指す。授業では、適宜映像資料を用いる。また、参考文献や映画等の映像については授業にて指示するが、受講者は機会を見てそれらに触れあっておくことが望ましい。

教科書 /Textbooks

本田創造『アメリカ黒人の歴史』（岩波文庫、1991年）：マイケル・エリック・ダイソン著『カトリーナが洗い流せなかった貧困のアメリカ 格差社会で起きた最悪の災害』（P-Vine Books、2008）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

バラク・オバマ『マイ・ドリームーバラク・オバマ自伝』（ダイヤモンド社、2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：アメリカにおける黒人の歴史【概説】
- 3回：比較奴隷制史と社会構築論入門
- 4回：アメリカ時事問題1：現代アメリカの社会政治問題解説
- 5回：アメリカ憲法と政治制度
- 6回：アンテベラム南部と南北戦争
- 7回：南部再建期
- 8回：理解度総点検（これまでの総復習：質問とそれらへの応答）
- 9回：アメリカ時事問題2：現代アメリカの社会政治問題解説
- 10回：デュボイス・ワシントン論争ー黒人進歩の「戦略」
- 11回：第一次世界大戦と黒人の「生活圏」の変容
- 12回：公民権運動
- 13回：ブラック・ナショナリズムと第三世界
- 14回：「バラク・オバマ」という現象ー黒人大統領誕生の歴史的意味
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート... 60% 小レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜小レポートを求められることがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究I【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を、特に教育問題を中心とする内政面から検討する。戦後の大まかな動きを確認し、ブレア政権以降のイギリス社会がどのような状況にあるかを検討する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【イギリス】
- 第2回 戦後イギリス社会に関する概説【福祉国家】
- 第3回 ブレア政権成立の背景【労働党】【サッチャー主義】
- 第4回 「階級社会」(1)【土曜の夜と日曜の朝】
- 第5回 「階級社会」(2)【労働者階級】
- 第6回 「階級社会」(3)【怒れる若者たち】【英国病】
- 第7回 ブレアの改革構想【国有化】【ヴォランティアリズム】
- 第8回 1997年以降のイギリス社会(1)【New Labour】【第三の道】
- 第9回 1997年以降のイギリス社会(2)【社会的公正】【グローバル化】
- 第10回 イギリスの社会政策(1)【市場経済】【雇用問題】
- 第11回 イギリスの社会政策(2)【包摂社会】【コミュニティ】
- 第12回 イギリスの教育政策(1)【1988年教育改革法】【Bridging the Gap】
- 第13回 イギリスの教育政策(2)【NEET】【社会的排除】
- 第14回 21世紀のイギリス社会とブレア改革【公共利益】【イギリス文化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究II 【昼】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を特に外交面から検討する。具体的には、ブレア政権の大きな成果とされる北アイルランド紛争の實質的な終結とブレア政権の躓きの石となったイラク戦争をめぐるイギリス社会・世論の動向について、考察を進める

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン 【イギリス】 【アイルランド】
- 第2回 北アイルランド問題の起源(1) 【ナショナリズム】 【独立戦争】
- 第3回 北アイルランド問題の起源(2) 【アイルランド内戦】 【デヴァレラ】
- 第4回 イギリス社会と北アイルランド紛争 【公民権運動】 【IRA】
- 第5回 北アイルランド和平の展開とイギリス(1) 【グッドフライデー合意】 【権限委譲】
- 第6回 北アイルランド和平の展開とイギリス(2) 【武装放棄】 【自治政府】
- 第7回 アイルランド社会の現在 【経済成長】 【グローバル化】
- 第8回 「帝国」喪失後のイギリス対外政策 【帝国】 【植民地】
- 第9回 ブレアの対外政策とイギリス社会の変化 【欧州統合】 【戦略防衛見直し】
- 第10回 コソヴォ紛争とイギリス社会 【人権】 【旧ユーゴ】
- 第11回 9・11以降のイギリス社会 【アメリカ】 【英米関係】
- 第12回 イギリス社会とイラク戦争(1) 【イラク戦争】 【世論】
- 第13回 イギリス社会とイラク戦争(2) 【ケリー事件】 【ハットン委員会】
- 第14回 21世紀のイギリス社会と対外関係 【帝国意識】 【イギリス文化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交I【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名
/Instructor

下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための基礎知識を習得する。授業では、中国の近現代史を政治的観点から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書 /Textbooks

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 中国概観～中華民族の偉大な復興
- 3回 エリート革命から人民戦争へ
- 4回 揺れる新国家建設
- 5回 中国独自の社会主義への挑戦
- 6回 プロレタリア文化大革命
- 7回 革命と近代化の確執
- 8回 改革開放・近代化へ邁進
- 9回 六四事件
- 10回 毛沢東と鄧小平
- 11回 大国化する中国の光と影
- 12回 21世紀中国～毛沢東と鄧小平を超えて
- 13回 中国の政治経済構造の構築と変化
- 14回 社会主義市場経済の帰結
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交II【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の外交政策・対外関係・香港台湾の位置づけについて史的・総合的に学ぶ。国内政治・政策の変化あるいは国際環境の変化が中国外交に与えた影響について、主要国との二国間関係を中心に検討する。また、国共内戦後の中華民国の歩みと民主化について解説し、中台関係について考える。

教科書 /Textbooks

授業中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡部達味『中国の対外戦略』東京大学出版会、2002年
その他、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～文献紹介と授業の進め方
- 2回 中国の外交方針と国内政治
- 3回 中国外交と国際環境の変化
- 4回 日中関係I
- 5回 日中関係II
- 6回 米中関係I
- 7回 米中関係II
- 8回 台湾と中華民国～蒋介石時代
- 9回 台湾と中華民国～民主化へ
- 10回 台湾問題と米中関係
- 11回 香港・東南アジアと中国
- 12回 ロシア・中央アジアと中国
- 13回 WTOと中国
- 14回 大国外交
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交I【昼】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、冷戦後の韓国・北朝鮮と日本との関係について理解を深める。日韓関係に関しては、主に、靖国問題、従軍慰安婦問題、強制連行問題、教科書問題などの歴史問題について検討し、日朝関係に関しては、国交正常化問題、拉致問題、安全保障問題について検討する。尚、北朝鮮の大量破壊兵器開発問題に関しては、「韓国・北朝鮮の政治外交II」で更に詳しく検討する。

教科書 /Textbooks

内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社、2002年
姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○高橋哲哉『靖国問題』筑摩書房<ちくま新書>、2005年。その他、随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。朝鮮半島と日本との近現代史の概要①
- 2回 朝鮮半島と日本との近現代史の概要②
- 3回 朝鮮半島と日本との近現代史の概要③
- 4回 冷戦後の日韓関係①：日韓関係の概要
- 5回 冷戦後の日韓関係②：歴史問題①：概要(強制連行問題など)
- 6回 冷戦後の日韓関係③：歴史問題②：従軍慰安婦問題①
- 7回 冷戦後の日韓関係④：歴史問題③：従軍慰安婦問題②
- 8回 冷戦後の日韓関係⑤：歴史問題④：日韓交渉の記録開示からの考察①
- 9回 冷戦後の日韓関係⑥：歴史問題⑤：日韓交渉の記録開示からの考察②
- 10回 冷戦後の日朝関係①：日朝関係の概要
- 11回 冷戦後の日朝関係②：国交正常化交渉の始まりと中断(拉致問題、核問題との関係)
- 12回 冷戦後の日朝関係③：日朝首脳会談
- 13回 冷戦後の日朝関係④：核問題の再燃と拉致問題を巡る日朝関係の悪化
- 14回 冷戦後の日朝関係⑤：日朝関係改善の方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。
詳細は第1回授業で説明。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交II【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、冷戦後本格化した北朝鮮の核兵器や弾道ミサイルなどの大量破壊兵器開発問題に焦点を当て、その背景と、日韓米中露の対応とその問題点を検討し、この問題についての理解を深めるとともに、北東アジアの国際政治についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

○リッツ・ピース・メッセンジャーズ『北朝鮮の核実験をどう見るか』かもがわ出版、2006年
姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ドン・オーバードーフアー『二つのコリア：国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2002年
○船橋洋一『ザ・ペニンシュラ・クエスチョン：朝鮮半島第二次核危機』朝日新聞社、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。北朝鮮の核開発問題の概要
- 2回 冷戦の終焉と韓国・北朝鮮の国際関係の変化
- 3回 北朝鮮の核開発とミサイル開発問題(第1次核危機の発生)
- 4回 核危機の収束：米朝枠組み合意
- 5回 南北関係と日朝関係の改善：南北首脳会談、日朝首脳会談
- 6回 北朝鮮の核開発問題の再燃(第2次核危機)
- 7回 6カ国協議の始まり
- 8回 米朝対立の悪化と北朝鮮の核実験
- 9回 6カ国協議の進展と中断
- 10回 オバマ政権と第2回目の核実験
- 11回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応①
- 12回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応②
- 13回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応③
- 14回 北朝鮮の核・ミサイル問題の解決方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。
その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア地域秩序論I【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア地域秩序の過去と現在を論じ、将来の東アジア地域秩序の構想・構築を展望すること。この講義I(前期)の授業では、東アジア三国(日本、中国、朝鮮・韓国)の伝統(前近代)と近代の「地域秩序」を考察する。教科書の第1章は東アジアの「伝統的」国際秩序(華夷秩序)を取り扱っているが、それを通して華夷秩序の原理・実像を再解釈し、その「近代的」変容を検討する。そして近代以降の東アジア地域秩序の現状を考察する。講義全体のキーワードは、【アジアからの視点】【文明論的な視点】。

教科書 /Textbooks

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007、2600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 濱下武志編『東アジア世界の地域ネットワーク』山川出版社、1999
- 茂木敏夫『変容する近代東アジアの国際秩序』山川出版社、1997
- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』九州大学出版会、2004

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの精読、学生の報告、補足講義という形で行う。

1回	テキストの概説、授業の方針		
2~3回	第1部の第1章	4~5回	第1部の第2章
6~7回	第1部の第3章	8~9回	第1部の第4章
10~11回	第II部の第5章	12回	第II部の第6章
13回	第II部の第7章	14回	第II部の第8章
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、2~3回のレポート、授業への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献を自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア地域秩序論II 【昼】

専門教育科目
専門科目
A群 (地域研究科目)

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア地域秩序の現代を論じ、将来の東アジア地域秩序を構想すること。この講義II(後期)の授業では、前期の講義Iを土台にし、現代東アジア国際政治の形成と展開を考察する。教科書の終章では「グローバル化時代の東アジア」を取り扱っているが、それを通して「東アジア共同体論」をも検討する。講義全体のキーワードは、【アジアからの視点】【文明論的な視点】【東アジア共同体】。

教科書 /Textbooks

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007、2600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 濱下武志編『東アジア世界の地域ネットワーク』山川出版社、1999
- 茂木敏夫『変容する近代東アジアの国際秩序』山川出版社、1997
- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』九州大学出版会、2004

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの精読、学生の報告、補足講義という形で行う。

- 1回 前期の講義Iの概説
- 2~3回 第III部の第9章 4~5回 第III部の第10章
- 6~7回 第III部の第11章 8~9回 第III部の第12章
- 10~14回 第III部の終章と補足(「東アジア共同体論」)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、2~3回のレポート、授業への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献を自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済論【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、発展著しい東アジア地域の経済動向を学習し、日本と東アジアとの今後の経済関係がどうあるべきかを考えてみることにある。この授業では、まず東アジア経済を概観する。次に、経済発展の「成功」と「挫折」を経験してきた韓国に焦点を当てて、その発展過程を見る。そして、東アジアで現れている経済統合や地方間の国際交流などを取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

尹 明憲『韓国の発展パラダイムの転換』、明石書店(○)
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』、有斐閣(○)
北原淳・西澤信善『アジア経済論』、ミネルヴァ書房(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済データで見る東アジア経済の現状
- 2回 世界の中の東アジア 【戦後の国際経済体制】 【1970年代以上の国際分業】 【ブラザ合意】
- 3回 東アジア工業化戦略 【1次産品輸出】 【輸入代替工業化】 【輸出志向工業化】 【雁行形態型発展】
- 4回 技術の蓄積 【人的資本】 【外国からの技術移転】 【研究開発推進】
- 5回 開発主義と開発独裁 【政府の役割】 【開発独裁】 【開発政策の制度化】
- 6回 成長の前史 【植民地解放後】 【経済援助】 【朝鮮戦争】
- 7回 1960年代の韓国経済 【輸出志向工業化】 【経済開発5カ年計画】
- 8回 1970年代の韓国経済 【重化学工業化】 【重工業化宣言】 【セマウル運動】 【財閥】
- 9回 1980年代の韓国経済 【構造調整】 【三低現象】 【ソウルオリンピック】 【台湾との比較】
- 10回 1990年代の韓国経済 【文民政権】 【世界化・先進国化】 【OECD加盟】
- 11回 アジア通貨危機の経緯 【21世紀型危機】 【資本自由化】 【通貨アタック】
- 12回 韓国におけるIMF危機 【総合金融会社】 【IMF救済融資】
- 13回 通貨危機に対する国際的対応策 【コンディショナリティ】 【ASEAN+3】 【通貨スワップ】
- 14回 東アジアにおける経済統合の動向 【ASEAN】 【APEC】 【日本の戦略】 【地方の取組】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 学期末試験またはレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジア地域統合論 【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、ASEAN(東南アジア諸国連合)を中心テーマとする。ASEANは、東南アジア諸国間の相互信頼の醸成と、大国に翻弄されることなく東南アジアの将来を方向づけることにおいて、大きな役割を果たしてきた。今日では、アジア太平洋の地域秩序の形成における中核的存在である。ASEANの展開を抑えることで、東南アジアおよびアジア太平洋の国際関係を学ぶ。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 ASEAN前夜(1) 地域協力機構の構想【ASA(東南アジア連合)】
- 4回 ASEAN前夜(2) 地域紛争解決の試み【マフィリンド、サバ領有権問題、対決政策】
- 5回 ASEANの成立【ASEAN設立宣言(バンコク宣言)】
- 6回 域外国に対するASEANの団結【ASEAN-EEC協力条約、合成ゴム問題】
- 7回 ASEAN諸国のインドシナ問題への対処(1)【ベトナム戦争】
- 8回 ASEAN諸国のインドシナ問題への対処(2)【カンボジア紛争】
- 9回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大【ASEANテン】
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み【AFTA】
- 11回 ASEANの国際経済秩序形成への参画【APEC】
- 12回 ASEANの広域安全保障秩序形成への参画【ARF】
- 13回 「東アジア共同体」への関わり【ASEAN+3、EAS】
- 14回 日本・ASEAN関係【EPA】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小テストを3回ないし4回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論I 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

毎時のニュースで外国為替市場が報道されているのは、「貿易立国」である日本に暮らす私たちの生活にとって重要性が高いことを表していますが、こうした状況はいつごろから、そしてなぜ生じたのでしょうか。この問題は経済問題であると同時に非常に重要な国際政治の争点でもあります。この授業では、ブレトンウッズ体制を中心とする国際経済体制の構築とその変化を中心に検討し、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について理解を深めると同時に、関連する理論について学習します。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、各週の授業内容および参考文献については初回の授業時に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門(第3版)』有斐閣、2007年。
- 飯田敬輔『国際政治経済(シリーズ国際関係論3)』東京大学出版会、2007年。
- 田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際政治経済学とは【政治】、【市場メカニズム】
- 2回 リベラリズム【古典的リベラリズム】、【ロック】、【カント】
- 3回 ブレトンウッズ体制【埋め込まれた自由主義】、【流動性のジレンマ】【ニクソン・ショック】
- 4回 変動相場制【国際金融のトリレンマ】、【プラザ合意】、【通貨危機】
- 5回 リアリズムと国際貿易体制【重商主義】、【保護主義】、【GATT】
- 6回 WTO体制【サービス貿易】、【紛争解決】
- 7回 貿易摩擦と保護主義【通商法301条】、【公正貿易】、【戦略的貿易政策】
- 8回 中間レビュー
- 9回 国際秩序と経済(1)【覇権安定論】
- 10回 国際秩序と経済(2)【国際レジーム】、【パワー】
- 11回 欧州地域統合(1)【シューマン・プラン】、【超国家主義】、【連邦主義】、【EC】
- 12回 欧州地域統合(2)【EU】、【東方拡大】
- 13回 欧州地域統合(3)【欧州連合条約改正】
- 14回 国際統合理論【機能主義】、【新機能主義】、【トランスナショナリズム】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献を講読した上で授業に参加すること。「国際政治経済論II」(2学期)も履修すると、国際政治経済学についてより包括的な学習ができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論II 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際政治経済の主要な理論について、それぞれの理論における異なる世界観、国際問題のとらえ方、問題の位置付けなどを中心に学習します。加えて、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について学習することで、政治(国家)と経済(市場)の相互作用についての理解を深めることをねらいとします。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、各週の授業内容および参考文献については初回の授業時に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門(第3版)』有斐閣、2007年。
- 飯田敬輔『国際政治経済(シリーズ国際関係論3)』東京大学出版会、2007年。
- 田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域レベルでの経済協力:北米【NAFTA】
- 2回 地域レベルでの経済協力:アジア【APEC】
- 3回 日本の貿易政策【FTA】、【EPA】
- 4回 地球環境問題(1)地球環境レジーム【ストックホルム会議】、【リオ会議】
- 5回 地球環境問題(2)気候変動問題【気候変動枠組条約】、【京都議定書】、【京都メカニズム】
- 6回 リベラリズム【国際レジーム論】、【ネオ・リベラル制度論】、【グローバル・ガバナンス】
- 7回 中間レビュー
- 8回 南北問題の展開【近代化論】、【新国際経済秩序(NIEO)】
- 9回 経済発展と政治体制(1)【権威主義体制】、【開発独裁】
- 10回 累積債務問題【債務繰り延べ】、【DSR】、【構造調整貸付】
- 11回 貧困問題【絶対的貧困】、【ミレニアム開発目標】
- 12回 経済発展と政治体制(2)【政経不可分論】、【ガバナンス】
- 13回 経済発展とマルクス主義【従属論】、【世界システム論】
- 14回 社会構成主義【相互構築性】、【社会化】、【社会構造】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国際政治経済論I」を受講していると、内容理解がより深まり、包括的な学習ができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論I【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会には、国際機構と呼ばれる数百もの組織が存在し、日常的に活動している。それらは、国家や私たちの生活にとって、どのような意味をもっているのだろうか。この講義では、国際機構の代表格である国際連合を中心にして、それらの任務、制度、実績および課題を扱う。

教科書 /Textbooks

最上敏樹『国際機構論』第2版、東京大学出版会、2006年。初版ではないことに注意。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。講義では資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 テキスト「はじめに」【国際機構の定義】
- 3回 テキスト第1章「国際機構小史」【ヨーロッパ協調】【国際連盟】
- 4回 国際連盟規約の解読
- 5回 テキスト第2章「国際連合」(I-III)【国連の設立】【安全保障理事会】【総会】
- 6回 同上(IV-VI)【事務総長】【経済社会理事会】【国際司法裁判所】
- 7回 国際連合憲章の解読
- 8回 テキスト第3章「国連改革」【国連改革】【安保理改革】
- 9回 同上
- 10回 テキスト第4章「地域的国際機構」【EU】【北欧共同体】【欧州審議会】
- 11回 テキスト第5章「国際機構創設の動因」【共通利益と国益】【国際機構の類型】
- 12回 テキスト第6章「構造・機能・意思決定」【国家的機関と非国家的機関】
- 13回 テキスト第7章「国際機構論の方法」【法学的アプローチと政治学的アプローチ】
- 14回 テキスト第8章「国際機構の理論化」、「結びにかえて」【国際機構の理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(数回の予定)...30% 期末試験...70%
※出席をプラス評価することがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域的機構を扱う国際機構論IIも受講すれば、国際機構の全体像を把握することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を特徴づけるものの一つに、地域的 (regional) な国際機構の発達がある。そのような機構には、例えばヨーロッパ連合 (EU)、北大西洋条約機構 (NATO)、東南アジア諸国連合 (ASEAN)、米州機構 (OAS)、アラブ連盟、アフリカ連合 (AU) 等があり、東アジア諸国間においても同様の試みが模索されつつある。それでは何故、こうした地域的な機構が要請されるのか。講義では、ヨーロッパ27カ国が加盟し、現代世界に多大な影響を与えるEUに着目して、その設立、制度、実績および課題を多面的に扱う。

教科書 /Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU欧州統合の現在』創元社、2004年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。講義では資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：なぜ地域的な機構か
- 2回 EUの概観【EU条約】【EUの機関】【加盟国の位置と紹介】
- 3回 - 4回 ヨーロッパ地域統合の起源【パン・ヨーロッパ】【独仏和解】【ジャン・モネ】
- 5回 - 6回 ECの成立とEUへの発展【欧州3共同体】【共通政策】【市場統合】【ドロール】
- 7回 - 8回 EUの基本条約の解説【EU条約】【EU運営条約】
- 9回 - 11回 EUの「超国家的」性格とその特質
【共同体方式】【欧州委員会】【理事会】【欧州議会】
【欧州理事会】【欧州中央銀行】
- 12回 - 14回 EUの対外関係と課題【EU憲法】【民主主義の「赤字」】
【EUとグローバル社会】【EUとアメリカ】【日本、アジアとEU】
- 15回 まとめ：主権国家はどのように解体しているのか

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (数回の予定) ... 30% 期末試験... 70%
※出席をプラス評価することがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国連を主な対象とする国際機構論Iも受講すれば、国際機構の全体像を把握することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助(O DA)の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序(NIEO)】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第10回 開発援助の新潮流【人間開発】、【社会開発】
- 第11回 人間開発概念の発展【人間の安全保障】、【保護する責任】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み【無償資金協力】、【有償資金協力】、【技術協力】
- 第14回 日本のODAの理念と世界との比較【ODA大綱】、【自助努力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第2次世界大戦後の歴史について復習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。紛争予防を目的として、どのような活動がどのような主体によって行われているのか、効果的な紛争予防策はあるのかなどについて、具体的な事例をもとに学習します。

教科書 /Textbooks

メアリー・アンダーソン『諸刃の援助』明石書店、2006年。
大平剛『国連開発援助の変容と国際政治』有信堂高文社、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東大作『平和構築』岩波新書、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 冷戦終結の影響【民主的平和】、【国内紛争】、【アイデンティティ・ポリティックス】
- 第2回 PKOの変容と限界【平和執行型PKO】、【予防展開】
- 第3回 「予防の文化」と平和構築アプローチ【予防開発】、【紛争サイクル】
- 第4回 平和構築と人道・開発援助活動の拡大【紛争分析手法】、【構造的要因】、【引き金要因】
- 第5回 「保護する責任」(総論)【人道的介入】
- 第6回 「保護する責任」(各論)【脆弱国家】、【早期警報】
- 第7回 安全保障部門改革(SSR)と武装解除、動員解除、兵士の社会復帰(DDR)【SSR】、【DDR】
- 第8回 東ティモールとアフガニスタンの事例検証：SSRとDDRの具体的な事例
- 第9回 国際開発援助レジームの変容【援助協調】、【援助の調和化】
- 第10回 復興援助と条件付け【ピース・コンディショナリティ】
- 第11回 Do No Harm原則①【平和へと向かう現地の力】、【戦争へと向かう現地の力】
- 第12回 Do No Harm原則②【コネクター】、【ディバイダー】
- 第13回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ①
- 第14回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力論Iを履修していれば、本講義の理解に役立ちます。国際協力論Iが基礎的な事項を学習するのに対して、国際協力論IIはより実践的な内容となっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際人権論 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の権利にはどのようなものがあり、かつ、それらはいかにして保護されるべきなのか。現代の国際社会においては、各国家が個別にこの問いに応えればよいというわけではない。講義では、国際関係論や国際法学の視点を取り入れつつ、人権に関する規範と制度がどのように形成されているのかを学習する。

教科書 /Textbooks

松井芳郎・薬師寺公夫・坂元茂樹・小畑郁・徳川信治編『国際人権条約・宣言集(第3版)』、東信堂、2005年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

阿部浩己、今井直、藤本俊明『テキストブック国際人権法(第3版)』日本評論社、2002年。
バーゲンソル(小寺初世子訳)『国際人権法入門』東信堂、1999年。ほか、講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 人権概念の出現と展開【近代国家】【啓蒙思想】【第1世代～第3世代の人権】
- 3回 国際連盟と人権の規範【労働者の権利】【人民自決と国際社会】
- 4回 国際連合における人権の規範と制度(1)【世界人権宣言】
- 5回 国際連合における人権の規範と制度(2)【国連自由権規約】【国連社会権規約】
- 6回 地域的国際機構による人権保護への対応(1)【欧州安保協力機構】
【東南アジア諸国連合】
- 7回 地域的国際機構による人権保護への対応(2)【欧州審議会】【欧州人権条約】
- 8回 経済統合と人権保障のメカニズム(1)【EU法の優位性】
- 9回 経済統合と人権保障のメカニズム(2)【EU基本権憲章】
- 10回 現代世界と国際人権(1)死刑制度の存廃【自由権規約議定書】【欧州人権条約議定書】
- 11回 現代世界と国際人権(2)経済開発と人権【コンディショナリティ】【「アジア的」価値】
- 12回 現代世界と国際人権(3)「人道的」介入【ソマリア】【ユーゴスラビア紛争】
- 13回 現代世界と国際人権(4)「テロとの戦い」と人権保護【不正規移送】【拷問】
- 14回 現代世界と国際人権(5)近代国家体制と人権【国家主権】【リアリズム】【規範】
【NGOs】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(数回の予定)...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族と国家【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

20世紀半ばまでに、地球上は国民国家で覆い尽くされた。個人の解放・自立は、個人が民族としてまとまり、その民族が自前の国家を持つことによって達成されるという理念が、人類普遍的な価値となった。だが実際には、「一つの民族に一つの国家」という例はほとんどない。この授業では、解放と自立を確立・維持しようとする個々人の営みの中で、「民族」と「国民国家」という概念がどのような相互作用を生じさせてきたのかを、アジアの事例を中心に論じる。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 国民国家システムの成立【王国、植民地国家、国民国家、国民統合、民族】
- 3回 国民統合の取り組み(1)中国【五族共和】
- 4回 国民統合の取り組み(2)インドネシア【多様性の中の統一】
- 5回 国民統合の取り組み(3)ベトナム【貧しさを分かち合う社会主義、越僑】
- 6回 国民統合の取り組み(4)フィリピン【カトリシズム、モロ民族解放戦線】
- 7回 国民統合の取り組み(5)タイ【王権、宗教】
- 8回 国民統合の取り組み(6)マレーシアとシンガポール【民族の政治、二言語政策】
- 9回 越境者の対応・戦略(1): 国家の保護をめぐる華人移民の対応比較【アメリカ、マラヤ】
- 10回 越境者の対応・戦略(2): 「プラナカン」という人びと【混血、土着性】
- 11回 国籍について【重国籍、市民権】
- 12回 日本のナショナリズム論【植民地、戦争、ナショナリズム】
- 13回 多民族社会の営みを見る(1)【多民族社会、映像資料】
- 14回 多民族社会の営みを見る(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 課題 ... 20 % 期末試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小テストを3回ないし4回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球環境論 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 松本 治彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球環境問題は、人間活動により生じた問題であり、人類の歴史を顧みる必要がある。また、この問題が地球及びそこに生息する生物に不可逆的な変化を与えることから、未来を見据えた対策が必要である。このため、時間軸上のあらゆる点から、前後を見渡す広い視野にたった視点が要求される。授業では、地球と人間の現在から過去について顧み、現在から未来については、自然と人間社会とが調和した姿を想定し、それにアプローチする方法を考える。また、自然科学(大気・水循環を中心に)の立場から広い視点で環境問題を考える。さらに、環境保全策の現状を日本、外国の事例を比較しながら検討し、今後の課題について考える。

教科書 /Textbooks

なし(資料を配布する)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

環境学序説 (環境学入門1) 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回「俯瞰的研究」【空間的俯瞰】、【時間的俯瞰】、【社会的俯瞰】、【地球を俯瞰する】
- 2回「自然の歴史I」【ビックバン】、【物質の誕生】
- 3回「自然の歴史II」【地球の誕生と進化】、【生物の誕生と進化】
- 4回「人間社会の形成」【人類誕生と進化】、【人間活動の変化】、【自然生態系と人工生態系】
- 5回「地球規模の自然現象と環境問題I(熱収支と四季)」【放射】、【温室効果】、【季節変動】
- 6回「地球規模の自然現象と環境問題II(水と大気の大循環)」【海洋大循環】、【大気大循環】
- 7回「地球規模の自然現象と環境問題III(森林消失と生物種絶滅)」【熱帯林の破壊】、【砂漠化】
- 8回「地球規模の自然現象と環境問題IV(オゾン層破壊と生物存続の危機)」【紫外線】、【フロン】
- 9回「地球規模の自然現象と環境問題V(二酸化炭素と温暖化)」【温暖化予測】、【CO₂】、【海水面】
- 10回「気候変動」【氷河期と間氷期】、【気候変動の推定方法】、【小氷河期】
- 11回「環境保全策」【日本の場合】、【ヨーロッパの場合】、【中国の場合】【各国との比較】
- 12回「地球にやさしいエネルギー」【風力・波力発電】、【燃料電池】、【メタンハイドレート】
- 13回「現在から未来に向けて」【宇宙と人間の未来】、【環境とビジネスとの関係】
- 14回「今後、我々は地球とどのようにつきあうべきか」
【土と水の浄化能力】、【環境共生】、【人間の価値観】、【倫理観】、【精神的な豊かさ】
- 15回「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

質問カード記入(10%)、学期末試験(90%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争論 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群 (国際関係科目)

担当者名 /Instructor 菅 英輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦後の紛争や戦争、平和と安全、秩序形成をめぐる諸問題を、歴史的視点を重視しながら、多面的に考察することを目的とする。「世界はなぜ仲良くできないのか」を歴史的、構造的、原理的に検討し、21世紀の安全保障問題の理解を深める。本年度は特にアメリカの戦争に焦点をあてる。

教科書 /Textbooks

菅英輝著『アメリカの世界戦略』（中公新書、2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

菅英輝編著『アメリカの戦争と世界秩序』（法政大学出版局、2008年）、菅英輝編著『冷戦史の再検討』（法政大学出版局、2009年）。その他、以下の授業スケジュール中の指定図書を参照されたい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 冷戦後の世界の特徴と地域紛争
 - 冷戦期の紛争の特徴（テキスト『アメリカの世界戦略』1章）
 - 冷戦とは何か、冷戦後の世界の特徴（テキスト4章、『冷戦史の再検討』序章、その他の章、菅英輝、秋元英一『アメリカ20世紀史』（東京大学出版会、2003年）（指定図書）5章、8章）
 - 冷戦後の世界の特徴と地域紛争の関係（テキスト4、5、6章）
- アメリカの戦争と世界秩序形成
 - アメリカ帝国論をめぐる議論、アメリカの国際秩序形成における役割（テキスト7章）
 - 戦後世界秩序の特質（理念、規範、制度、パワー）（テキスト11章）
 - アメリカの対イラク戦争とアメリカの世界支配（テキスト8、9、10章）
 - メディアと戦争（テキスト12章、『アメリカの戦争と世界秩序』9章）
 - アメリカ市民社会と戦争（テキスト12章、『アメリカの戦争と世界秩序』7章）
 - 正義の戦争と不正な戦争（テキスト12章、『アメリカの戦争と世界秩序』6、8章）
- 日米安保と地域紛争
 - 冷戦後の安保再定義をめぐる諸問題（テキスト第2章）
 - 米軍再編問題と日米安保のグローバル化（テキスト3章）
 - 朝鮮半島の核をめぐる問題と6者協議（テキスト3章、菅英輝編著『朝鮮半島』（社会評論社、2004年）（指定図書））
- 冷戦後の国際環境と安全保障
 - 国家の安全と国民の安全-安全保障の原理的考察（菅英輝、石田正治編著『21世紀の安全保障と日米安保体制』（ミネルヴァ書房、2005年）（指定図書）、9章）
 - 人間の安全保障論-安全保障の原理的考察（『21世紀の安全保障と日米安保体制』9章） (3)地域から安全保障を考える。
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み状況を考慮して総合的に評価する。ただし、出席が規定日数（3分の2）に達していない者には試験資格を与えない。
※新カリキュラムと旧カリキュラムでは履修時間が異なるので、注意されたい。詳細は第一回目の授業で説明。旧カリキュラムの受講生は、新カリキュラムのテキストに加えて、菅英輝編著『冷戦史の再検討』（法政大学出版局、2009年）を使用。人数が少ない場合には、ゼミ形式とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

国際紛争論 【昼】

専門教育科目
専門科目
B群 (国際関係科目)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文A【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

高校時代までに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに、英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで、様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

『Primary Course on Paragraph Writing パラグラフ・ライティング基礎演習』 Yoshihito Sugita / Richard R. Caraker 著 (成美堂) ¥1900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード
 第1回ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
 第2回英文ライティングの基本について学ぶ
 第3回英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ
 第4回記述型パラグラフの書き方を学ぶ
 第5回例示型パラグラフの書き方を学ぶ
 第6回時間的順序に従った英文パラグラフを書く
 第7回分類型パラグラフの書き方を学ぶ
 第8回比較型パラグラフの書き方を学ぶ
 第9回対照型パラグラフの書き方を学ぶ
 第10回定義型パラグラフの書き方を学ぶ
 第11回原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ
 第12回意見を述べるパラグラフの書き方を学ぶ
 第13回問題解決型パラグラフの書き方を学ぶ
 第14回英文エッセイライティングの基本について学ぶ
 第15回まとめ及びフィードバック

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文A 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

高校時代までに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに、英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで、様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

『Primary Course on Paragraph Writing パラグラフ・ライティング基礎演習』 Yoshihito Sugita / Richard R. Caraker 著 (成美堂) ¥1900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード
 第1回ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
 第2回英文ライティングの基本について学ぶ
 第3回英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ
 第4回記述型パラグラフの書き方を学ぶ
 第5回例示型パラグラフの書き方を学ぶ
 第6回時間的順序に従った英文パラグラフを書く
 第7回分類型パラグラフの書き方を学ぶ
 第8回比較型パラグラフの書き方を学ぶ
 第9回対照型パラグラフの書き方を学ぶ
 第10回定義型パラグラフの書き方を学ぶ
 第11回原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ
 第12回意見を述べるパラグラフの書き方を学ぶ
 第13回問題解決型パラグラフの書き方を学ぶ
 第14回英文エッセイライティングの基本について学ぶ
 第15回まとめ及びフィードバック

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文A【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

高校時代までに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに、英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで、様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

『Primary Course on Paragraph Writing パラグラフ・ライティング基礎演習』 Yoshihito Sugita / Richard R. Caraker 著 (成美堂) ¥1900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード
 第1回ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
 第2回英文ライティングの基本について学ぶ
 第3回英文ライティングの修正・訂正の基本について学ぶ
 第4回記述型パラグラフの書き方を学ぶ
 第5回例示型パラグラフの書き方を学ぶ
 第6回時間的順序に従った英文パラグラフを書く
 第7回分類型パラグラフの書き方を学ぶ
 第8回比較型パラグラフの書き方を学ぶ
 第9回対照型パラグラフの書き方を学ぶ
 第10回定義型パラグラフの書き方を学ぶ
 第11回原因・結果を示すパラグラフの書き方を学ぶ
 第12回意見を述べるパラグラフの書き方を学ぶ
 第13回問題解決型パラグラフの書き方を学ぶ
 第14回英文エッセイライティングの基本について学ぶ
 第15回まとめ及びフィードバック

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく、論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

『Skills for Better Writing』(改定版) Emma Andrews / 石谷由美子 著 (南雲堂) ¥1900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード
- 第1回ガイダンス(テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
 - 第2回意見サポート(結論・理由)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第3回意見サポート(分析)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第4回理論・証明型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第5回列挙比較(論争)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第6回列挙比較(比較)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第7回分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第8回列挙比較(指示)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第9回順序直線(歴史)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第10回順序直線(原因と結果)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第11回順序直線(過程)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第12回説明型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第13回定義型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第14回説明(統計)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく、論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

『Skills for Better Writing』(改定版) Emma Andrews / 石谷由美子 著 (南雲堂) ¥1900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード
- 第1回ガイダンス(テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
 - 第2回意見サポート(結論・理由)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第3回意見サポート(分析)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第4回理論・証明型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第5回列挙比較(論争)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第6回列挙比較(比較)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第7回分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第8回列挙比較(指示)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第9回順序直線(歴史)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第10回順序直線(原因と結果)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第11回順序直線(過程)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第12回説明型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第13回定義型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第14回説明(統計)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく、論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

『Skills for Better Writing』(改定版) Emma Andrews / 石谷由美子 著 (南雲堂) ¥1900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード
- 第1回ガイダンス(テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
 - 第2回意見サポート(結論・理由)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第3回意見サポート(分析)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第4回理論・証明型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第5回列挙比較(論争)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第6回列挙比較(比較)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第7回分類型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第8回列挙比較(指示)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第9回順序直線(歴史)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第10回順序直線(原因と結果)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第11回順序直線(過程)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第12回説明型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第13回定義型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第14回説明(統計)型英文エッセイの書き方を学ぶ
 - 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード(Keywords for each week)
- 第1回(Week 1)Course Introduction. Meet people.
 - 第2回Ask for and give personal information. Describe different occupations.
 - 第3回Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers.
 - 第4回Talk about work and free time activities.
 - 第5回Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
 - 第6回Video Journal: Hula. Identify Possessions.
 - 第7回Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
 - 第8回Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
 - 第9回Talk about food. Order a meal.
 - 第10回Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
 - 第11回Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
 - 第12回Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
 - 第13回Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
 - 第14回Talk about personal communication. Give and write down contact details.
 - 第15回Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments: 60%
Final examination: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード(Keywords for each week)
- 第1回(Week 1)Course Introduction. Meet people.
 - 第2回Ask for and give personal information. Describe different occupations.
 - 第3回Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers.
 - 第4回Talk about work and free time activities.
 - 第5回Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
 - 第6回Video Journal: Hula. Identify Possessions.
 - 第7回Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
 - 第8回Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
 - 第9回Talk about food. Order a meal.
 - 第10回Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
 - 第11回Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
 - 第12回Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
 - 第13回Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
 - 第14回Talk about personal communication. Give and write down contact details.
 - 第15回Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments: 60%
Final examination: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード(Keywords for each week)
- 第1回(Week 1)Course Introduction. Meet people.
 - 第2回Ask for and give personal information. Describe different occupations.
 - 第3回Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers.
 - 第4回Talk about work and free time activities.
 - 第5回Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
 - 第6回Video Journal: Hula. Identify Possessions.
 - 第7回Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
 - 第8回Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
 - 第9回Talk about food. Order a meal.
 - 第10回Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
 - 第11回Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
 - 第12回Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
 - 第13回Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
 - 第14回Talk about personal communication. Give and write down contact details.
 - 第15回Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments: 60%
Final examination: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード(Keywords for each week)
- 第1回(Week 1)Talk about past vacation trips. Exchange Information about vacations.
 - 第2回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
 - 第3回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
 - 第4回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
 - 第5回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking.
 - 第6回Make comparisons. Explain preferences.
 - 第7回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
 - 第8回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
 - 第9回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
 - 第10回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
 - 第11回Talk about today's chores. Interview for a job.
 - 第12回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
 - 第13回Video journal; Spacewalk. Talk about managing your money.
 - 第14回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
 - 第15回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments: 60% Final examination : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード(Keywords for each week)
- 第1回(Week 1)Talk about past vacation trips. Exchange Information about vacations.
 - 第2回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
 - 第3回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
 - 第4回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
 - 第5回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking.
 - 第6回Make comparisons. Explain preferences.
 - 第7回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
 - 第8回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
 - 第9回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
 - 第10回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
 - 第11回Talk about today's chores. Interview for a job.
 - 第12回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
 - 第13回Video journal; Spacewalk. Talk about managing your money.
 - 第14回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
 - 第15回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments: 60% Final examination : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード(Keywords for each week)
- 第1回(Week 1)Talk about past vacation trips. Exchange Information about vacations.
 - 第2回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
 - 第3回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
 - 第4回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
 - 第5回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking.
 - 第6回Make comparisons. Explain preferences.
 - 第7回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
 - 第8回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
 - 第9回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
 - 第10回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
 - 第11回Talk about today's chores. Interview for a job.
 - 第12回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
 - 第13回Video journal; Spacewalk. Talk about managing your money.
 - 第14回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
 - 第15回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments: 60% Final examination : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題、人権問題など、さまざまな国際的問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考し、自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベートを行う技術をさらに磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

『Debating Current Issues』 Toru Nishimoto Beryl Hawkins著 (Seibido) ¥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

第1回オリエンテーション(テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)

第2回Chapter 1: Cell Phones のディベート

第3回Chapter 2: Student Evaluations

第4回Chapter 3: The Gender Gap

第5回Chapter 4: Japanese Manga and Anime

第6回Chapter 5: Global Food Shortage

第7回Chapter 6: The Oil Crisis

第8回Chapter 7: The True Spirit of the Olympics

第9回Chapter 8: Global Population Growth

第10回Chapter 9: Robots

第11回Chapter 10: The Internet

第12回Chapter 11: New York Styles

第13回Chapter 12: Handling Stress

第14回ディベート及びプレゼンテーションのフィードバック

第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題、人権問題など、さまざまな国際的問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考し、自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベートを行う技術をさらに磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

『Debating Current Issues』 Toru Nishimoto Beryl Hawkins著 (Seibido) ¥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

第1回オリエンテーション(テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)

第2回Chapter 1: Cell Phones のディベート

第3回Chapter 2: Student Evaluations

第4回Chapter 3: The Gender Gap

第5回Chapter 4: Japanese Manga and Anime

第6回Chapter 5: Global Food Shortage

第7回Chapter 6: The Oil Crisis

第8回Chapter 7: The True Spirit of the Olympics

第9回Chapter 8: Global Population Growth

第10回Chapter 9: Robots

第11回Chapter 10: The Internet

第12回Chapter 11: New York Styles

第13回Chapter 12: Handling Stress

第14回ディベート及びプレゼンテーションのフィードバック

第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題、人権問題など、さまざまな国際的問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考し、自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベートを行う技術をさらに磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

『Debating Current Issues』 Toru Nishimoto Beryl Hawkins著 (Seibido) ¥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

第1回オリエンテーション(テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)

第2回Chapter 1: Cell Phones のディベート

第3回Chapter 2: Student Evaluations

第4回Chapter 3: The Gender Gap

第5回Chapter 4: Japanese Manga and Anime

第6回Chapter 5: Global Food Shortage

第7回Chapter 6: The Oil Crisis

第8回Chapter 7: The True Spirit of the Olympics

第9回Chapter 8: Global Population Growth

第10回Chapter 9: Robots

第11回Chapter 10: The Internet

第12回Chapter 11: New York Styles

第13回Chapter 12: Handling Stress

第14回ディベート及びプレゼンテーションのフィードバック

第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題、人権問題など、さまざまな国際的問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考し、自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベートを行う技術をさらに磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

『Debating the Issues』 Hideki Motegi / Stephen Hesse, Denji Suzuki 著 (Macmillan Languagehouse) ¥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

第1回オリエンテーション(テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)

第2回Chapter 1: Second Language or Foreign Language?のディベ

第3回Chapter 2: A Traditional or Trendy Lifestyle?

第4回Chapter 3: Love or Arranged Marriage?

第5回Chapter 4: Discipline or Abuse?

第6回Chapter 5: Right to Life or Right to Choose?

第7回Chapter 7: Right to Die or Duty to Live?

第8回Chapter 8: Life Imprisonment or Death Penalty?

第9回Chapter 9: Judges or Jury?

第10回Chapter 10: Human Organs or Animal Organs

第11回Chapter 11: Surrogate Mothers or Natural Mothers

第12回Chapter 14: GM Food: Should it be allowed?

第13回Chapter 15: Health Care: Should it be free everyone?

第14回ディベート及びプレゼンテーションのフィードバック

第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題、人権問題など、さまざまな国際的問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考し、自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベートを行う技術をさらに磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

『Debating the Issues』 Hideki Motegi / Stephen Hesse, Denji Suzuki 著 (Macmillan Languagehouse) ¥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

第1回オリエンテーション(テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)

第2回Chapter 1: Second Language or Foreign Language?のディベ

第3回Chapter 2: A Traditional or Trendy Lifestyle?

第4回Chapter 3: Love or Arranged Marriage?

第5回Chapter 4: Discipline or Abuse?

第6回Chapter 5: Right to Life or Right to Choose?

第7回Chapter 7: Right to Die or Duty to Live?

第8回Chapter 8: Life Imprisonment or Death Penalty?

第9回Chapter 9: Judges or Jury?

第10回Chapter 10: Human Organs or Animal Organs

第11回Chapter 11: Surrogate Mothers or Natural Mothers

第12回Chapter 14: GM Food: Should it be allowed?

第13回Chapter 15: Health Care: Should it be free everyone?

第14回ディベート及びプレゼンテーションのフィードバック

第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題、人権問題など、さまざまな国際的問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考し、自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベートを行う技術をさらに磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

『Debating the Issues』 Hideki Motegi / Stephen Hesse, Denji Suzuki 著 (Macmillan Languagehouse) ¥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

第1回オリエンテーション(テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)

第2回Chapter 1: Second Language or Foreign Language?のディベ

第3回Chapter 2: A Traditional or Trendy Lifestyle?

第4回Chapter 3: Love or Arranged Marriage?

第5回Chapter 4: Discipline or Abuse?

第6回Chapter 5: Right to Life or Right to Choose?

第7回Chapter 7: Right to Die or Duty to Live?

第8回Chapter 8: Life Imprisonment or Death Penalty?

第9回Chapter 9: Judges or Jury?

第10回Chapter 10: Human Organs or Animal Organs

第11回Chapter 11: Surrogate Mothers or Natural Mothers

第12回Chapter 14: GM Food: Should it be allowed?

第13回Chapter 15: Health Care: Should it be free everyone?

第14回ディベート及びプレゼンテーションのフィードバック

第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Realatitions imajors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale / James C. Wolf / Person Longman著 Third Edition

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回Delivering Your Message
- 第3回Putting Your Speech Together
- 第4回Speech - Self-Introduction - Outlining and Writing
- 第5回Speech - Self-Introduction - Delivery
- 第6回Speech - A Personal Experience - Delivery
- 第7回Speech - A Meaningful Object - Delivery
- 第8回Speech - A Specific Fear - Delivery
- 第9回Speech - A Personal Opinion - Delivery
- 第10回Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第11回Delivery - 1
- 第12回Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第13回Delivery - 2
- 第14回Delivery - 3
- 第15回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メモリースティックを別途用意すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Realatitions imajors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale / James C. Wolf / Person Longman著 Third Edition

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回Delivering Your Message
- 第3回Putting Your Speech Together
- 第4回Speech - Self-Introduction - Outlining and Writing
- 第5回Speech - Self-Introduction - Delivery
- 第6回Speech - A Personal Experience - Delivery
- 第7回Speech - A Meaningful Object - Delivery
- 第8回Speech - A Specific Fear - Delivery
- 第9回Speech - A Personal Opinion - Delivery
- 第10回Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第11回Delivery - 1
- 第12回Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第13回Delivery - 2
- 第14回Delivery - 3
- 第15回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メモリースティックを別途用意すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Realatitions imajors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale / James C. Wolf / Person Longman著 Third Edition

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回Delivering Your Message
- 第3回Putting Your Speech Together
- 第4回Speech - Self-Introduction - Outlining and Writing
- 第5回Speech - Self-Introduction - Delivery
- 第6回Speech - A Personal Experience - Delivery
- 第7回Speech - A Meaningful Object - Delivery
- 第8回Speech - A Specific Fear - Delivery
- 第9回Speech - A Personal Opinion - Delivery
- 第10回Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第11回Delivery - 1
- 第12回Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第13回Delivery - 2
- 第14回Delivery - 3
- 第15回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メモリースティックを別途用意すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Realatitions imajors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale / James C. Wolf / Person Longman著 Third Edition

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Course and Introductions
- 第2回Intorduction to Persuasive Speaking
- 第3回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第4回Dilivery - 1
- 第5回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第6回Delivery - 2
- 第7回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第8回Delivery - 3
- 第9回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第10回Delivery - 4
- 第11回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第12回Delivery - 5
- 第13回Symposium - Outling and Writing
- 第14回Delivery
- 第15回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メモリースティックを別途用意しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Realatitions imajors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale / James C. Wolf / Person Longman著 Third Edition

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Course and Introductions
- 第2回Intorduction to Persuasive Speaking
- 第3回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第4回Dilivery - 1
- 第5回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第6回Delivery - 2
- 第7回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第8回Delivery - 3
- 第9回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第10回Delivery - 4
- 第11回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第12回Delivery - 5
- 第13回Symposium - Outling and Writing
- 第14回Delivery
- 第15回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メモリースティックを別途用意しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Realatitions imajors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale / James C. Wolf / Person Longman著 Third Edition

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Course and Introductions
- 第2回Intorduction to Persuasive Speaking
- 第3回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第4回Dilivery - 1
- 第5回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第6回Delivery - 2
- 第7回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第8回Delivery - 3
- 第9回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第10回Delivery - 4
- 第11回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第12回Delivery - 5
- 第13回Symposium - Outling and Writing
- 第14回Delivery
- 第15回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メモリースティックを別途用意しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 3 - 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to teach students how to write a 2,500 word academic essay in English. Essay topics must be drawn from within the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Keith Folse, 'From Great Paragraphs to Great Essays' 2nd edition. (Heinle Cengage).
Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are prefer

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

able. Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Understanding the Writing Proce
- 2 回 Introduction to Paragraphs 1: Topic, Supporting, & Concluding Sentences
- 3 回 Introduction to Paragraphs 2: Clarity, Coherence, Unity
- 4 回 Paragraph Types 1: Descriptive
- 5 回 Paragraph Types 2: Comparison
- 6 回 Paragraph Types 3: Cause-Effect
- 7 回 Paragraph Types 4: Classification
- 8 回 Using Citations & Avoiding Plagiarism
- 9 回 From Paragraph to Essay: Descriptive Essays I - Outlining
- 10 回 From Paragraph to Essay: Descriptive Essays II - Peer Feedback
- 11 回 From Paragraph to Essay: Comparison Essays I - Organization
- 12 回 From Paragraph to Essay: Comparison Essays II - Connectors & Transitions
- 13 回 From Paragraph to Essay: Cause-Effect Essays I - Organization
- 14 回 From Paragraph to Essay: Cause-Effect Essays II - Connectors & Transitions
- 15 回 From Paragraph to Essay: Classification Essays

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25% Assigned homework essays 60% Class Performance 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【昼】

担当者名
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 3 - 2
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to teach students how to write a 2,500 word academic essay in English. Essay topics must be drawn from within the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Keith Folse, 'From Great Paragraphs to Great Essays' 2nd edition. (Heinle Cengage).
Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are prefer

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

able. Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Understanding the Writing Proce
- 2 回 Introduction to Paragraphs 1: Topic, Supporting, & Concluding Sentences
- 3 回 Introduction to Paragraphs 2: Clarity, Coherence, Unity
- 4 回 Paragraph Types 1: Descriptive
- 5 回 Paragraph Types 2: Comparison
- 6 回 Paragraph Types 3: Cause-Effect
- 7 回 Paragraph Types 4: Classification
- 8 回 Using Citations & Avoiding Plagiarism
- 9 回 From Paragraph to Essay: Descriptive Essays I - Outlining
- 10 回 From Paragraph to Essay: Descriptive Essays II - Peer Feedback
- 11 回 From Paragraph to Essay: Comparison Essays I - Organization
- 12 回 From Paragraph to Essay: Comparison Essays II - Connectors & Transitions
- 13 回 From Paragraph to Essay: Cause-Effect Essays I - Organization
- 14 回 From Paragraph to Essay: Cause-Effect Essays II - Connectors & Transitions
- 15 回 From Paragraph to Essay: Classification Essays

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25% Assigned homework essays 60% Class Performance 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法II 【昼】

担当者名
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 演習
/Class Format

演習

クラス 3 - 2
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic essay in English. Essay topics must be drawn from the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

David E. Kluge & Matthew A. Taylor 'Basic Steps to Writing Research Papers' (Cengage)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions from the teacher and the students.
- 2 回 How to use connecting words to make smooth, logical transitions; good transition words & phrases within paragraphs
- 3 回 How to use connecting words to make smooth, logical transitions: good transition sentences between major ideas & sections.
- 4 回 How to use connecting words to make smooth, logical transitions: words & expressions NOT to use.
- 5 回 Writing paragraphs: standard as well as creative, original ones – combining phrases & shortsentences
- 6 回 Writing paragraphs: standard as well as creative-original ones – changing dry, boring paragraphs by upgrading vocabulary and creating a more vibrant, interesting, and sparkling “word painting” (teacher-prepared examples)
- 7 回 Writing for clarity in essay conclusions: avoiding vague, general statements
- 8 回 Writing for clarity in essay conclusions: restating your thesis statement so as to present your main points again in stronger language supported by – as one example – a powerful quotation
- 9 回 Mid-semester test: finding errors & suggesting improvements in a teacher-prepared essay.
- 1 0 回 Reviewing the mid-semester test
- 1 1 回 Research techniques
- 1 2 回 Citing and crediting others' works; using citations & footnotes (or endnotes)
- 1 3 回 Citing and crediting others' works: paraphrasing & summarizing, and connecting All “borrowed” material to the bibliography
- 1 4 回 Combining different sources without plagiarizing.
- 1 5 回 Good vs. Bad – comparing and contrasting essays.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-semester test 0% Assigned homework essays 20%
Class performance 1% Final exam (or project) 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks
No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and course objectives
- 2 回 Cultural issues in the world
- 3 回 Research of cultural issues
- 4 回 Expansion of cultural issues
- 5 回 Consolidation of cultural issues
- 6 回 First group: Presentation and discussion
- 7 回 Second Group: Presentation and discussion
- 8 回 Analysis and Advice
- 9 回 Environmental issues in the world
- 1 0 回 Research of environmental issues
- 1 1 回 Expansion of environmental issues
- 1 2 回 Consolidation of environmental issues
- 1 3 回 Third Group: Presentation and discussion
- 1 4 回 Fourth Group: Presentation and discussion
- 1 5 回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method
class participation 40%, presentations 40%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and course objectives
- 2 回 Cultural issues in the world
- 3 回 Research of cultural issues
- 4 回 Expansion of cultural issues
- 5 回 Consolidation of cultural issues
- 6 回 First group: Presentation and discussion
- 7 回 Second Group: Presentation and discussion
- 8 回 Analysis and Advice
- 9 回 Environmental issues in the world
- 1 0 回 Research of environmental issues
- 1 1 回 Expansion of environmental issues
- 1 2 回 Consolidation of environmental issues
- 1 3 回 Third Group: Presentation and discussion
- 1 4 回 Fourth Group: Presentation and discussion
- 1 5 回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, presentations 40%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and course objectives
- 2回 Cultural issues in the world
- 3回 Research of cultural issues
- 4回 Expansion of cultural issues
- 5回 Consolidation of cultural issues
- 6回 First group: Presentation and discussion
- 7回 Second Group: Presentation and discussion
- 8回 Analysis and Advice
- 9回 Environmental issues in the world
- 10回 Research of environmental issues
- 11回 Expansion of environmental issues
- 12回 Consolidation of environmental issues
- 13回 Third Group: Presentation and discussion
- 14回 Fourth Group: Presentation and discussion
- 15回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, presentations 40%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名
/Instructor

ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 演習
/Class Format

クラス 3 - A
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and course objectives
- 2回 Social issues in the world
- 3回 Start to research social issues
- 4回 Expansion of social issues
- 5回 Consolidation of social issues
- 6回 First Group: Presentation and Discussion
- 7回 Second Group: Presentation and Discussion
- 8回 Analysis and Advice
- 9回 Political issues in the world
- 10回 Research of political issues
- 11回 Expansion of political issues
- 12回 Consolidation of political issues
- 13回 Third Group: Presentation and Discussion
- 14回 Fourth Group: Presentation and Discussion
- 15回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, presentations 40%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and course objectives
- 2回 Social issues in the world
- 3回 Start to research social issues
- 4回 Expansion of social issues
- 5回 Consolidation of social issues
- 6回 First Group: Presentation and Discussion
- 7回 Second Group: Presentation and Discussion
- 8回 Analysis and Advice
- 9回 Political issues in the world
- 10回 Research of political issues
- 11回 Expansion of political issues
- 12回 Consolidation of political issues
- 13回 Third Group: Presentation and Discussion
- 14回 Fourth Group: Presentation and Discussion
- 15回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, presentations 40%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 3 - C
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and course objectives
- 2回 Social issues in the world
- 3回 Start to research social issues
- 4回 Expansion of social issues
- 5回 Consolidation of social issues
- 6回 First Group: Presentation and Discussion
- 7回 Second Group: Presentation and Discussion
- 8回 Analysis and Advice
- 9回 Political issues in the world
- 10回 Research of political issues
- 11回 Expansion of political issues
- 12回 Consolidation of political issues
- 13回 Third Group: Presentation and Discussion
- 14回 Fourth Group: Presentation and Discussion
- 15回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, presentations 40%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論I【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の特徴を国内社会との相違から位置付け、国際関係の変遷や主要な課題に焦点をあてつつ、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムを中心とする国際関係の主要な理論について学習する。国際関係を分析する上で基本的かつ重要な概念を理解し、各自が国際関係を多様な角度からとらえられるような分析視角を習得することがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

主に以下の文献を利用する。
山田高敬・大矢根聡(編)『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年。
原彬久(編)『国際関係学 講義(第3版)』有斐閣、2006年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○John Baylis and Steve Smith (eds.) The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations, 4th ed. Oxford University Press, 2008.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際関係学の誕生と展開【理想主義】、【現実主義】、【理論】
- 2回 国際社会の特徴【政治】、【アナーキー】、【主権国家】
- 3回 国際関係の分析視角【リベラリズム】、【リアリズム】、【コンストラクティビズム】
- 4回 国際政治体制の変遷【冷戦】、【歴史の終焉】、【文明の衝突】、【ポスト冷戦】
- 5回 政治体制と国際安全保障【安全保障のジレンマ】、【相互確証破壊】
- 6回 安全保障問題(1) : 大量破壊兵器の管理【NPT】、【PTBT】、【CTBT】
- 7回 安全保障問題(2) : 人間の安全保障【人道的介入】、【国際テロ】
- 8回 リアリズム【パワー】、【勢力均衡】、【集団安全保障】
- 9回 ネオ・リアリズム【ウォルツ】、【囚人のジレンマ】、【相対利得問題】
- 10回 リベラリズムとネオ・リベラリズム【国際レジーム】、【民主主義平和論】
- 11回 国際経済体制【ブレトンウッズ体制】、【IMF】、【IBRD】、【GATT】、【WTO】
- 12回 国際協力をめぐる理論【サミット】、【G7/8/20】
- 13回 コンストラクティビズム【観念的要素】、【社会構造】、【相互構築性】
- 14回 地域統合・地域経済協力【EU】、【FTA】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト・参考文献の講読は授業内容を理解する上で必要不可欠である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会が抱える様々な課題を取りあげ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観する。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的側面からも分析する。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養う。

教科書 /Textbooks

宮脇昇・庄司真理子編著『グローバル公共政策(改訂版)』晃洋書房、2010年。
 池尾靖志編著『平和学をつくる』晃洋書房、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済—「グローバル・イシュー」の解説と資料』
 有信堂高文社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※【 】内は各回の内容を示すキーワード
- 第1回 暴力と平和【直接的暴力】、【構造的暴力】、【文化的暴力】
 - 第2回 国際システムの展開【集団安全保障】【集団的自衛権】
 - 第3回 ポスト冷戦期の国際システム【国内紛争】
 - 第4回 9・11後の世界【テロとの戦い】
 - 第5回 大量兵器不拡散レジーム【核不拡散レジーム】、【包括的核実験禁止条約】
 - 第6回 小型武器問題とNGOの活躍【クラスター爆弾禁止条約】、【対地雷禁止条約】
 - 第7回 累積債務問題【石油危機】、【構造調整】
 - 第8回 貧困問題【南北問題】、【人間開発】
 - 第9回 持続可能な開発【ブルントラント委員会】、【リオ・サミット】
 - 第10回 地球温暖化防止レジーム【京都議定書】、【ポスト京都議定書】
 - 第11回 人権の主流化【国連人権理事会】
 - 第12回 国際人道法違反とそれへの対応【民族浄化】、【国際刑事裁判所】
 - 第13回 ジェンダーの視点で捉える暴力【ジェンダー・エンパワーメント】
 - 第14回 私たちの暮らしと国際関係【フェア・トレード】、【100円ショップ】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際関係を学ぶ上で最低限必要な心構えとして、日頃からネット上ではなく、紙媒体の新聞に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係史I【昼】

担当者名 /Instructor 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の国際関係を理解するために必要な歴史的な知識を提供するとともに、歴史的なアプローチを紹介する。本年の講義では、第二次世界大戦後のアメリカの外交戦略の発展を体系的に論じるとともに、とくに冷戦終結期とポスト冷戦期の外交に重点を置いて講義を進める。なお、授業内容は2006年度末以降の国際政治の変化に応じて、大きく修正することがあるので、承知しておくこと。

教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、J.L.Gaddis, Strategies of Containment (Oxford University Press, 2005) を基礎として講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際政治史への接近視角
- 3回 1945年後の世界
- 4回 封じ込めの形成
- 5回 G・ケナンと長い平和
- 6回 NSC68とアジアの激動
- 7回 朝鮮戦争の衝撃
- 8回 核の恐怖
- 9回 ニュールック戦略
- 10回 ケネディの時代とベトナム戦争
- 11回 デタント戦略
- 12回 レーガンのアメリカ
- 13回 冷戦の終結
- 14回 テロとの戦い
- 15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題・小テストを含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係史II 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近現代史をテキストに沿って概観し、東アジア地域史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在の対話」と言われるが、実は「過去と将来の対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』高文研、2005（1600円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○歴史教育者協議会編『東アジア世界と日本-日本・朝鮮・中国関係史』青木書店、2004

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のねらい、アプローチなどの紹介【東アジア】【地域史】
- 2回 序章「開港以前の3国」【比較社会史】【比較思想史】
- 3回 第1章第1節「欧米列強の圧力と3国の対応」【近代】【近代化】【開港・開国】
- 4回 第1章第2節「東アジアを巻き込んだ戦争」【戦争】【植民地主義】
- 5回 第1章第3節「3国の改革運動」【自由民権】【文明開化】【開化】【洋務】
- 6回 第2章第1節「第一次世界大戦前後の3国」【帝国主義】【アジア主義】【抵抗】
- 7回 第2章第2節「日本の朝鮮支配の強化」【植民地支配】【植民地的近代】
- 8回 第2章第3節「独立・抵抗の運動と社会運動」【独立運動】【抑圧】【協力】
- 9回 第3章第1節「日本の中国東北地方への侵略」【侵略戦争】【民衆】【被害】
- 10回 第3章第2節「日本の侵略戦争」【日中戦争】【大東亜共栄圏】【総力戦体制】
- 11回 第3章第6節「日本の侵略戦争の失敗」【抗日戦争】
- 12回 第4章第1節「3国の新しい出発」【戦後改革】【開放と分断】【中国内戦】
- 13回 第4章第2節「問われる日本の『過去の清算』」【講和】【賠償・補償問題】
- 14回 終章「21世紀の東アジアの平和のための課題」【歴史克服】【和解】【東アジア共同体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

東アジア三国の近現代史の関連文献を自主的に調べて読むこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (アメリカ) 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、アメリカ合衆国が現在にいたる経緯を概観し、歴史・政治・経済・外交・文化など各分野の現状についての基本的、総合的な理解を深める。特に、多民族・多民族社会としてのアメリカの特質を知るために、人種問題やその解決への努力にも注目する。

教科書 /Textbooks

大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有賀貞『ヒストリカル・ガイド：アメリカ』山川出版社、2004年 ほか授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN~近年のトピク / 文献紹介
 - 第2回 19世紀のアメリカ~国土の開発・領土拡大と奴隷制
 - 第3回 19世紀のアメリカ~南北戦争の経緯
 - 第4回 19世紀のアメリカ~戦後処理とその後の黒人問題
 - 第5回 20世紀前半のアメリカ~移民史の概要
 - 第6回 20世紀前半のアメリカ~1920年代と禁酒法
 - 第7回 20世紀前半のアメリカ~大衆消費社会とメディア革命
 - 第8回 20世紀前半のアメリカ~大恐慌の発生
 - 第9回 20世紀前半のアメリカ~第二次世界大戦と戦後構想
 - 第10回 2010年の最もカレントなトピクについて(小テストを兼ねる)その1
 - 第11回 2010年の最もカレントなトピクについて(小テストを兼ねる)その2
 - 第12回 20世紀後半のアメリカ~戦争と人種問題
 - 第13回 20世紀後半のアメリカ~人種差別解決への努力
 - 第14回 20世紀後半のアメリカ~多文化主義の興隆とこれから
 - 第15回 まとめ
- その他、開講期間中に起こったニュース等に関連して、適宜その歴史的背景などの解説を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(小テスト)...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくことと良い。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (中国) 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

建国から60年を経て中国は世界有数の経済大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。授業では、経済格差や少数民族など多くの問題を抱えたまま経済成長路線を走り続けなくてはならない中国の現状について解説する。後半では、国際社会における中国の位置づけについて考える。

教科書 /Textbooks

国分良成『中華人民共和国』ちくま新書、1999年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 毛里和子『日中関係 戦後から新時代へ』岩波新書、2006年
- 吉岡桂子『愛国経済 中国の全球化』朝日新聞出版、2008年
- 興梠一郎『中国激流 13億のゆくえ』岩波新書、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
- 2回 20世紀の中国を概観するI
- 3回 20世紀の中国を概観するII
- 4回 共産党一党独裁の政治経済体制を概観する
- 5回 13億人国家の経済・社会
- 6回 発展と格差
- 7回 中華民族と少数民族
- 8回 人々の暮らし
- 9回 アジアの中の中国
- 10回 台湾の人々と政治
- 11回 日中関係
- 12回 米中関係
- 13回 中国脅威論
- 14回 国際社会と中国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (朝鮮半島) 【昼】

担当者名 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近代朝鮮の国際関係、韓国と北朝鮮という分断国家の成立、そして、その後、冷戦期、冷戦後の両国の国際関係について理解を深めることを狙いとする。近代以降、朝鮮半島は大国の利害が錯綜してきた国際政治の中心舞台であり、その経緯を学ぶことで、国際政治に対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

- 鈴木英夫・吉井哲編著『歴史にみる日本と韓国・朝鮮』明石書店、1999年
 - 姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
- (注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文藝春秋<文春文庫>、2000年。その他、授業で適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明
- 2回 近代日本と朝鮮①：アヘン戦争、日清戦争など
- 3回 近代日本と朝鮮②：日露戦争、韓国併合など
- 4回 日本の朝鮮植民地支配①：植民地経営政策など
- 5回 日本の朝鮮植民地支配②：反日運動、在日朝鮮人問題など
- 6回 日本の朝鮮植民地支配③：皇民化政策など
- 7回 日本の朝鮮植民地支配④：戦争への朝鮮人動員など
- 8回 戦後、冷戦期の朝鮮半島①：分断国家の誕生など
- 9回 戦後、冷戦期の朝鮮半島②：朝鮮戦争など
- 10回 戦後、冷戦期の朝鮮半島③：日韓国交正常化、韓国の経済発展など
- 11回 戦後、冷戦期の朝鮮半島④：日韓歴史問題、日朝関係など
- 12回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島①：韓国の民主化、冷戦終焉の韓国・北朝鮮への影響など
- 13回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島②：北朝鮮の大量破壊兵器開発問題
- 14回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島③：日朝関係(拉致問題、国交正常化問題など)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献講読を通じて現代中国政治に関する知識を広く深く習得する。受講生は自らの研究テーマを定め、ゼミ論文作成のための準備を行う。

教科書 /Textbooks

天見慧・浅野亮編『世界政治叢書8 中国・台湾』ミネルヴァ書房、2008年
他、授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

- 1回 インタロダクション(テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など)
- 2~14回 テキスト輪読・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 積極的な討論への参加・発言内容...40% レポート...30%
報告レジюме・レポートの提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点、未提出は同20%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近代政治思想史を、（本ゼミのキーワードである）アジアからの視点と文明論的な視点で読み直す。

教科書 /Textbooks

大塚健洋編著『近代日本政治思想史入門』（ミネルヴァ書房、2008）、2800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間 鄭観応・福沢諭吉・俞吉濬の比較考察』（九州大学出版会、2004）
- 李暁東『近代中国の立憲構想 嚴復・楊度・梁啓超と明治啓蒙思想』（法政大学出版会、2005）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生はテキストや参考文献から担当された部分を解説し、レジュメを作成・報告する。そして、参加者全員の討論を行う。ゼミ教官は討論を仲介しかつ必要な説明を補足する。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、報告・発表、討論、質疑応答、そしてゼミ論文を基に厳正に行う。原則的に毎回出席。事前連絡のない欠席や納得できる理由のない欠席は、1回につき5%減点。課題の報告や提出を怠ったときには、その事情によるが、10~20%の減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

東アジア地域研究に関心をもち、多数の文献を解説しようという意欲をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 共通の基礎的な日本語文献の輪読
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備を丁寧におこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、経済のグローバル化に関する諸問題を国際政治経済学の観点から、学生が主体的に研究・分析することを目的とする。学生がテーマに沿った国際問題について調査、分析、報告する作業を通して専門知識を深めるだけでなく、研究方法を習得することも授業のねらいの一つである。

教科書 /Textbooks

履修者の関心に沿った文献を中心に講読するが、さしあたって以下の文献を挙げておく。

- ◆飯田敬輔『国際政治経済』東京大学出版会、2007年。
- ◆田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。
- ◆河野勝、竹中治堅(編)『アクセス 国際政治経済論』日本経済評論社、2003年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小林康夫 / 船曳健夫 (編)『知の技法』東京大学出版会、1994年。
- 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

経済のグローバル化に関する文献(テキスト参照)を中心にテキスト講読を行う。また、日ごろから国際関係情勢に関心を持つために、毎週1名ずつ興味を持った国際事情に関するニュースについて概要、背景、コメントなどを中心に報告を行う。1学期末までに各自の関心に基づいて独立研究のテーマを設定し、文献リストと研究計画書を作成する。そして、夏休み期間に研究計画書に基づいて研究を行い、レポートを作成する。

初回到報告担当を決定するため、報告に備えて十分な時間をかけて準備をすることが望まれる。

- 1回 インTRODククション
- 2～14回 ニュース報告、テキスト講読
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% ディスカッション...20% 課題(レジユメ、学期末レポートなど)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国際政治経済論I・II」を既に受講した場合は授業内容の理解がより深まり、議論への参加もしやすくなるだろう。学生による報告・討論を中心の授業となるため、受講生は報告担当か否かに関わらず、全員がテキストを読んでくることが必須条件であり、積極的な議論への参加が期待される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ地域研究の中でも、特にアフリカ系、アジア系、ヒスパニック系、ユダヤ系などいわゆる「ハイフンつきアメリカ人」と呼ばれる多様なエスニック・マイノリティの人々のアメリカ社会への統合モデルはいかなるものか、統合のための政策にはどのようなものがあるかなど、アメリカ合衆国の社会史、移民史、人種関係論を史的・総合的に学ぶ。

教科書 /Textbooks

樋口映美・中條献編『歴史のなかの「アメリカ」：国民化をめぐる語りと創造』彩流社、2006年。
油井大三郎・遠藤泰生『浸透するアメリカ、拒まれるアメリカ 世界史の中のアメリカニゼーション』東京大学出版会、2003年。
Stephen Steinberg, Turning Back: The Retreat from Racial Justice in American Thought and Policy, Boston: Beacon Press, 1995.
などの中から、受講生の関心によってテキストを選びたい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション。
第2～14回 テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
その他、各自の研究テーマに基づいての発表など。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。
「アメリカの社会I・II」は、2年生で履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習は、北東アジアの国際関係に対する理解を深めることを通じて、日本外交をより客観的に評価し、今後の日本外交のあるべき姿を考えることを目的とする。検討対象としては、北朝鮮の核開発問題、冷戦後の日本の安全保障政策の変化、米国の安全保障政策の日韓への影響、日中・日韓間の歴史問題などの国際政治問題を扱う。検討対象の選択に際しては、学生の関心も考慮する。

教科書 /Textbooks

適宜、論文などを配布する。(一冊の本を輪読することはしない。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文藝春秋<文春文庫>、2000年
- 河野哲也『レポート・論文の書き方入門(第3版)』慶応義塾大学出版会、2002年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明など
- 2回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討1
- 3回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討2
- 4回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討3
- 5回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討4
- 6回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討5
- 7回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討6
- 8回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討7
- 9回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討8
- 10回 ゼミ論文構成の作成法
- 11回 ゼミ論文構成の作成と相互批評①
- 12回 ゼミ論文構成の作成と相互批評②
- 13回 ゼミ論文構成改訂版の作成と相互批評①
- 14回 ゼミ論文構成改訂版の作成と相互批評②
- 15回 まとめ

課された論文について活発な議論を行えるように、基本的に、その論文についての問を事前に配布し、答えを各自用意してきてもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...20%、課題...80%。その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「地域研究入門(朝鮮半島)」を履修した上で、受講することが望ましい。履修を終えていない場合は、以下の図書を読み、必要な基礎知識を備えておくこと。
姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年時演習では、次の3つのことを行う。
 (1) トランスナショナルな現象の社会学的分析についての基本的な考え方を身につける。
 (2) 日本やEU各国における国際人口移動ならびにそれがもたらす諸問題について理解を深める。
 (3) 各自、関心のある問題について論文を作成する。

1学期は、特に(1)に主眼を置く。また、(3)についても準備を始める。

教科書 /Textbooks

最初のゼミの時間に、報告する文献を決める。扱うのは以下のものを予定している。

- 『知的複眼思考法』 荻谷剛彦, 講談社
- 『比較社会・入門 - グローバル時代の<教養>』 荻谷剛彦, 有斐閣
- 『フィールドワーク - 書を持って街へ出よう』 佐藤郁哉, 新曜社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に、適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記(1)のテーマについて
 毎週、分担を決めて文献を報告してもらう。内容についての内容要約と問題提起をもとに、質疑・応答を行い、理解を深める。

上記(3)のテーマについて
 6月上旬くらいまでに、自分の関心のある問題について大まかな
 「研究計画書(①題目、②問題の所在、③方法、④先行する内外の関連文献リスト)」を出してもらう。その後、月に1回程度、
 各自の研究の進捗状況を報告してもらう予定。
 なお、希望に応じて、広島県呉市での調査(日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係等)
 も予定している。

- 1回 インタロダクション(進め方について説明、報告分担の決定)
- 2~14回 テキスト批評・ゼミ論構想発表
- 15回 ゼミ論報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...25% 報告内容...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告文献は、全員、事前に読んでコメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際関係及び世界情勢を経済の立場から理解し、自分の意見を発表できるようになることを目指す。この演習では、世界経済とアジア経済に関する本を購読して共通する基本的な理解を深めていく。それと並行して、経済関連の時事問題や外国経済の現況など、関心ををもったテーマについて各自報告していく。

教科書 /Textbooks

最初のゼミの時間に数冊の候補の中から受講生の関心などに応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション(テキストの選定、報告順番の決定など)
- 2~14回 テキスト輪読と並行して個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ここ最近では地球温暖化や金融危機など国際経済の状況が大きく変化しており、ゼミの中でも話題にすることが多くなると思われる。普段から新聞や雑誌に目を通して、海外の動向に関心と理解を深めることが求められる。また、世界経済論または東アジア経済論の授業を履修しているか、経済学の入門書を読んでいることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政治学の基本文献を輪読する

教科書 /Textbooks

G. F. Kennan, American Diplomacy expanded edition, (Chicago: The University of Chicago Press)
William Appleman Williams, The Tragedy of American Diplomacy fiftieth Anniversary Edition (New York: W. W. Norton, 2009)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【アメリカ外交の特徴】
- 第2回 講読準備：20世紀初頭の国際政治秩序【帝国】【帝国主義】
- 第3回 講読準備：アメリカにとっての20世紀【ビュリタニズム】【新世界】
- 第4回 part 1, ch. 1：【米西戦争】
- 第5回 part 1, ch. 2：【門戸開放】【フロンティア】
- 第6回 part 1, ch. 3：【アジアへの膨張政策】
- 第7回 part 1, ch. 4：【第一次世界大戦】
- 第8回 part 1, ch. 5：【第二次世界大戦】
- 第9回 part 1, ch. 6：【冷戦】
- 第10回 part 2, ch. 1：【封じ込め】
- 第11回 part 2, ch. 2：【封じ込め】
- 第12回 part 3：【核兵器】
- 第13回 ニューレフトの問題提起 1：【門戸開放帝国主義】
- 第14回 ニューレフトの問題提起 2：【脱植民地化】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容はアメリカ政治や国際関係史の授業をふりかえって学習すると理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、現代中国に関する様々な問題の中から受講生が設定した研究テーマを探究し、ゼミ論文を完成させることである。

教科書 /Textbooks

特に指定せず。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。なお、受講生は定められた期日までにゼミ論文を提出し、口頭発表を行う。

- 1回 インTRODクシヨN (テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など)
- 2～14回 テキスト輪読・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 30% 積極的な討論への参加・発言内容 ... 40% レポート...30%
報告レジュメ・レポートの提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点、未提出は同20%減点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近代政治思想史を、アジアからの視点と文明論的な視点で読み直す。それを通して、2学期には、今日の東アジアとその中の日本を考えることや、将来の東アジア地域秩序の構想・構築のために有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

三谷博・金泰昌編『東アジア歴史対話』（東京大学出版会、2007）、4500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間 鄭観応・福沢諭吉・兪吉濬の比較考察』（九州大学出版会、2004）
- 李暁東『近代中国の立憲構想 嚴復・楊度・梁啓超と明治啓蒙思想』（法政大学出版会、2005）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生はテキストや参考文献から担当された部分を解読し、レジュメを作成・報告する。そして、参加者全員の討論を行う。ゼミ教官は討論を仲介しかつ必要な説明を補足する。
2学期が終わる頃、ゼミ生はレポート（1万字程度）を作成し、提出する。
* できれば、「ゼミレポート」を卒業論文（3~4万字程度）の土台にしてみたい。
* 秋(10月中)には3泊4日の海外調査研究(ゼミ3・4年生の合同；例年、韓国の仁川大学とソウル)を予定している。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発表、討論、質疑応答を基に厳正に行う。原則的に毎回出席。事前連絡のない欠席や納得できる理由のない欠席は、1回につき5%減点。「予習」をしてこなかったと判明されると、5%減点。課題の報告や提出を怠ったときには、その事情によるが、10~20%の減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

東アジア地域研究に関する多数の文献を自主的に読み、とくに関心のあるテーマを選び、卒業論文に備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 各自の研究テーマに関する日本語・英語文献の輪読
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 各自のテーマに関する報告
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備を丁寧におこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、経済のグローバル化に関する諸問題を国際政治経済学の観点から、学生が主体的に研究・分析することを目的とする。学生がテーマに沿った国際問題について調査、分析、報告する作業を通して専門知識を深めるだけでなく、研究方法を習得することも授業のねらいの一つである。

教科書 /Textbooks

履修者の関心に沿った文献を中心に講読する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 飯田敬輔『国際政治経済』東京大学出版会、2007年。
- 田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。
- 河野勝、竹中治堅(編)『アクセス 国際政治経済論』日本経済評論社、2003年。
- 小林康夫 / 船曳健夫 (編)『知の技法』東京大学出版会、1994年。
- 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

夏期休業中に作成したレポートの報告、検討を行う。その後は、研究テーマに関連した文献を中心にテキスト講読とそれぞれの独立研究に関する報告を中心に授業を行う。各自の独立研究は学期末にゼミ論文として提出する。

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回～4回 夏期レポート報告
- 5回～14回 文献講読、研究報告
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…30% ディスカッション…20% 課題(レジュメ、ゼミ論文)…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門科目である「国際政治経済論I・II」を既に受講した場合は授業内容の理解がより深まり、議論への参加もしやすくなると思われる。学生による報告・討論を中心とした授業となるため、受講生は報告担当か否かに関わらず、全員がテキストを読んでおくことが必須条件であり、積極的な議論への参加が期待される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ地域研究の中でも、特にアフリカ系、アジア系、ヒスパニック系、ユダヤ系などいわゆる「ハイフンつきアメリカ人」と呼ばれる多様なエスニック・マイノリティの人々のアメリカ社会への統合モデルはいかなるものか、統合のための政策にはどのようなものがあるかなど、アメリカ合衆国の社会史、移民史、人種関係論を史的・総合的に学ぶ。

教科書 /Textbooks

樋口映美・中條献編『歴史のなかの「アメリカ」：国民化をめぐる語りと創造』彩流社、2006年。
油井大三郎・遠藤泰生『浸透するアメリカ、拒まれるアメリカ 世界史の中のアメリカニゼーション』東京大学出版会、2003年。
Stephen Steinberg, Turning Back: The Retreat from Racial Justice in American Thought and Policy, Boston: Beacon Press, 1995.
などの中から、受講生の関心によってテキストを選びたい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨN。
第2～14回 テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
その他、各自の研究テーマに基づいての発表など。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。
「アメリカの社会I・II」は、2年生で履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習は、北東アジアの国際関係に対する理解を深めることを通じて、日本外交をより客観的に評価し、今後の日本外交のあるべき姿を考えることを目的とする。検討対象としては、北朝鮮の核開発問題、冷戦後の日本の安全保障政策の変化、米国の安全保障政策の日韓への影響、日中・日韓間の歴史問題などの国際政治問題を扱う。検討対象の選択に際しては、学生の関心も考慮する。

教科書 /Textbooks

適宜、論文などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○河野哲也『レポート・論文の書き方入門(第3版)』慶応義塾大学出版会、2002年
その他、随時授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明など
- 2回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討1
- 3回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討2
- 4回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討3
- 5回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討4
- 6回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討5
- 7回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討6
- 8回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討7
- 9回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討8
- 10回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討9
- 11回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討10
- 12回 北東アジアの国際関係を巡る論争の検討11
- 13回 ゼミ論文発表
- 14回 ゼミ論文発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...20%、課題...40%。ゼミ論文...40%。その他、詳細については、第1回授業で説明。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的に、一冊の本を輪読するといった形式は採らず、比較的短い論文を読んでもらう。
課された論文について活発な議論を行えるように、基本的に、その論文についての問を事前に配布し、答えを各自用意してきてもらう。
同担当者の専門演習Iを履修した上で履修すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次演習では、次の3つのことを行う。
 (1) トランスナショナルな現象の社会学的分析についての基本的な考え方を身につける。
 (2) 日本やEU各国における国際人口移動ならびにそれがもたらす諸問題について理解を深める。
 (3) 各自、関心のある問題について論文を作成する。
 2学期は、主に(2)(3)に主眼を置き国際社会学的知识を深めるとともに、自らの論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

グローバリゼーションの社会学、民族関係の社会学等に関する文献リストをもとに、1学期後半に決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記(2)のテーマについて
 毎週、分担を決めて文献を報告してもらう。内容についての内容要約と問題提起をもとに、議論を行い、理解を深める。

上記(3)のテーマについて
 引き続き、「研究計画書(①題目、②問題の所在、③方法、④先行する内外の関連文献リスト)」に基づき、月に1回程度、研究について報告してもらう。

1月末に20,000字程度の論文を提出しプレゼンテーションを行う。
 なお、希望に応じて、広島県呉市での調査(日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係等)も予定している。

- 1回 研究計画(進捗状況)の確認
- 2~14回 関連文献のテキスト批評/論文検討会
- 15回 論文報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 報告...20% 論文...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告文献は、全員、事前に読んでコメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際関係及び世界情勢について経済の立場から理解を深めていき、卒論の準備段階の作業を進めていくことを目指す。専門演習1と同様に、世界経済とアジア経済に関するテキストを本を講読するとともに、自分で関心の持つテーマを決めて個別に研究を進めてゼミ論文を作成する。

教科書 /Textbooks

最初のゼミの時間に数冊の候補の中から受講生の関心などに応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン (テキストの選定、報告順番の決定など)
- 2 ~ 14回 テキスト輪読と並行して個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 60% ゼミ論文... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ここ数年は地球温暖化や金融危機など国際経済の状況が大きく変化しており、ゼミの中でも話題にすることが多くなると思われる。普段から新聞や雑誌に目を通して、海外の動向に関心と理解を深めることが求められる。また、世界経済論または東アジア経済論の授業を履修しているか、経済学の入門書を読んでいることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際政治研究の基本文献を輪読する

教科書 /Textbooks

E. H. Carr, What is History? (Houndmills, Hampshire: Palgrave, 2001)
I. Berlin, Historical Inevitability

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【歴史とは何か】
- 第2回 講読準備：カーの歴史観【進歩史観】
- 第3回 講読準備：バーリンの歴史哲学【ナショナリズム】【ロマン主義】
- 第4回 What is History?, ch. 1 : 【事実とは何か】
- 第5回 What is History?, ch. 2 : 【進歩の方向】
- 第6回 What is History?, ch. 3 : 【歴史と道徳】
- 第7回 What is History?, ch. 4 : 【歴史と因果関係】
- 第8回 What is History?, ch. 5 : 【進歩史観】
- 第9回 What is History?, ch. 6 : 【歴史の地平】
- 第10回 Historical Inevitability 1 : 【歴史の必然】
- 第11回 Historical Inevitability 2 : 【歴史と道徳】
- 第12回 Historical Inevitability 3 : 【進歩とは何か】
- 第13回 ナショナリズムへの二つの態度 1 : 【歴史への接近視角】
- 第14回 ナショナリズムへの二つの態度 2 : 【政治への接近視角】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容はアメリカ政治や国際関係史の授業をふりかえって学習すると理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。1学期には、ゼミ生各自、卒業論文の作成準備に入る。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東アジア地域研究の関連文献、ゼミ生各自の卒業論文テーマに相応しい関連文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1学期が終わる頃の7月中、ゼミ生は卒業論文のプロポサル(1万字程度)を作成し、提出する。それを、卒業論文(3~4万字程度)の土台にする。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発表、討論、質疑応答を基に厳正に行う。原則的に毎回出席。事前連絡のない欠席や納得できる理由のない欠席は、1回につき5%減点。課題の報告や提出を怠ったときには、その事情によるが、10~20%の減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

東アジア地域研究に関する多数の文献を自主的に読み、とくに関心のあるテーマを選び、卒業論文に備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、卒業論文を準備する。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 各自のテーマに即した研究報告
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備を丁寧におこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次に選択した各自の研究テーマを中心に、関連文献の講読を通じて学習を進める。最終的にゼミ論文を作成することを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小林康夫 / 船曳健夫 (編) 『知の技法』 東京大学出版会、1994年。
- 木下是雄 『レポートの組み立て方』 ちくま学芸文庫、1994年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生の研究テーマに総合的に関連する文献講読を中心に、卒業研究を進める。
1学期末までに研究テーマに関する文献リストと研究計画書を作成する。
夏休み期間に研究計画書に基づき、先行研究を中心とする研究を行う。

- | | |
|-------|-----------------|
| 1回 | イントロダクション |
| 2回 | テキスト批評、論文執筆について |
| 3～14回 | 文献講読 / 研究報告 |
| 15回 | 総括 |

成績評価の方法 /Assessment Method

報告およびディスカッション・・・50% 課題・レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文執筆に必要なスキルを身につけることが最大のねらいである。それには文献を批判的に読む能力、著者の主張を要領よく纏める技術、自分の考えをわかりやすく相手に伝える文章力が必要になる。この科目ではそのようなスキルの構築を目指す。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～7回 文献の輪読とレジュメによる報告
8回～14回 論文構想の発表
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 報告... 40% 議論への貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文執筆のための情報収集に日々努めておくことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代北東アジアの政治外交に関する研究を学生各自が行い、卒業論文の執筆を進める。論文作成を通じて、現代北東アジアの政治・国際関係についての理解を深めると共に、論理的で、説得力ある文章を作成する力を養う。また、演習での議論・口頭発表を通じて、発表力の育成も図る。

教科書 /Textbooks

○河野哲也『レポート・論文の書き方入門（第3版）』慶応義塾大学出版会、2002年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明など
- 2回 卒業論文構成の作成と相互批評①
- 3回 卒業論文構成の作成と相互批評②
- 4回 卒業論文構成の作成と相互批評③
- 5回 卒業論文構成改訂版の作成と相互批評①
- 6回 卒業論文構成改訂版の作成と相互批評②
- 7回 卒業論文構成改訂版の作成と相互批評③
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 発表
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 発表
- 14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...20%、課題...40%、発表...40%。その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期の卒業研究演習Iでは、卒業論文の構成を完成させ、それに基づき執筆を進めるとともに、発表を行う。発表は単なる論文の執筆状況の報告ではなく、十分なまとめを持つことが必要である。卒業研究演習IIで提出してもらう卒業論文は25,000字程度とする。卒論のテーマは、現代北東アジアの政治外交に関連するものであれば、厳密な制約は設けない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成指導を行なう。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション
第2～14回 卒業論文の経過報告・個別指導・テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名
/Instructor

下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業では、文献講読を通じて現代中国政治に関する専門知識を深め、3年次の演習で作成したゼミ論文を質量ともに発展させて卒業論文を作成する。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。

- 1回 イン트로ダクション(テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など)
- 2～14回 テキスト輪読・報告・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 30% 討論への参加度と発言内容 ... 40% 課題...30%
報告レジюме・課題の提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点、未提出は同20%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示する文献を熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に向けて、3年次に作成したゼミ論文を基礎として、各自の研究テーマについて関連文献を収集し精読して、学習をより深める。

教科書 /Textbooks

随時指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン (参考文献の紹介、報告順番の決定など)
- 2回～10回 関連文献の紹介・論評と討論
- 11回～14回 卒業論文の構成提示と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・課題...50% 討論への参加度・発言内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告の当事者でなくても、他のゼミ生のテーマについて積極的に自らの意見や疑問を提起することを望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆に向けて準備を行なう。
この演習では、第1に、論文のテーマ、背景、参考文献、構成および執筆要領等を確認する。第2に、執筆に向けて収集した参考資料および文献(英語文献を含む)を紹介する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回～ 5回 論文のテーマ、背景、参考文献、構成および執筆要領等の確認
- 6回～ 14回 論文の執筆に向けて収集した参考資料および文献の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の準備および参加状況... 50% 資料と文献の紹介... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習の進め方は、初回に説明する。なお、初回には、参加者の問題関心を確認する。各自10分間ほど時間をとるので準備しておくこと。
- ・ 論文の具体的なテーマと構成は、担当者と相談の下で決定する。
- ・ 論文の執筆に向けて有益であると思われる資料と文献を、開講までにできるかぎり収集し、購読し、かつその内容をノートしておくこと。
- ・ 「国際機構論I」「国際機構論II」の双方を履修することが望ましい。
- ・ 質問、不明点があれば、とりいそぎ電子メールで受け付ける。メールアドレスは、国際関係学科ホームページやオフィスアワー一覧に掲載されている。メールの場合は、その表題に「卒業研究演習について質問」と記載すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じた政治学の文献を購読するとともに、卒業論文の予備論文を作成する

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に個別に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-6回 受講生の関心に応じた文献の輪読
- 第7回 予備論文の作成指導
- 第8-14回 予備論文構成報告
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 30 % 予備論文 ... 70 %

3年次までの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

これまでの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習I【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODakシヨN
- 2回～14回 卒業論文の経過報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。
2学期には、卒業論文作成に取り組み、本年度の1月中に提出する（下記のスケジュールを参照）。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ生各自の卒業論文テーマに沿って、随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1学期の7月中に提出したプロポーザル（研究計画書；A4の10枚程度）を基に、
10月中に卒業論文の概要(夏休み中の課題)を提出。
12月中に初稿完成→発表会(1～2回)を行う。
2011年1月末頃に最終稿を提出。
* 卒業論文の字数は3～4万字程度
* 秋(10月中)には3泊4日の海外調査研究(ゼミ3・4年生の合同；例年、韓国の仁川大学とソウル)を予定している。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文を基に厳正に行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文に関連する多数の文献を読み、その作成に励むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 各自のテーマに即した研究報告
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備を丁寧におこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の卒業研究テーマに沿ってゼミ論文を完成させることがこの授業の目的である。

教科書 /Textbooks

テキストは特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小林康夫 / 船曳健夫 (編) 『知の技法』 東京大学出版会、1994年。
- 木下是雄 『レポートの組み立て方』 ちくま学芸文庫、1994年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自の卒業研究の進捗状況について報告を行い、参加者全員でディスカッションを行う。
ゼミ論文については、初稿を10月末、第2稿を12月中旬に提出し、最終稿の提出日は2011年1月31日とする。

- 1回 イン트로ダクション
- 2～14回 研究報告
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告およびディスカッション・・・40% 課題・ゼミ論文・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆が目標であるため、各自が研究の進捗状況をディスカッション形式で報告し合う。そのような方法をとることで、批判を交えつつも建設的に議論を進める技術を養う。また、論文を書く作業を通して、自己の主張をうまくまとめる能力を磨く。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回各自が卒論の章立てに沿って、進捗状況を報告する。
卒論テーマおよび章立ての締切り：2学期の第1回授業
第1回論文草稿提出日：6月上旬
第2回論文草稿提出日：7月中旬
最終提出日：8月中旬

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 卒論の執筆と報告... 50% 貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館で必要な論文を、ILLなどを利用することによって早い時点から収集すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代北東アジアの政治外交に関する研究を学生各自が行い、卒業論文として書き上げる。論文作成を通じて、現代北東アジアの政治・国際関係についての理解を深めると共に、論理的で、説得力ある文章を作成する力を養う。また、演習での議論・口頭発表を通じて、発表力の育成も図る。

教科書 /Textbooks

○河野哲也『レポート・論文の書き方入門（第3版）』慶応義塾大学出版会、2002年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明など
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 発表
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 発表
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 発表
- 11回 発表
- 12回 論文最終発表
- 13回 論文最終発表
- 14回 論文最終発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...20%、発表...40%、卒業論文...40%。
その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期の卒業研究演習Iで完成させた論文構成に基づき論文の執筆を進めるとともに、発表を行う。
発表は単なる論文の執筆状況の報告ではなく、十分なまとまりを持つことが必要である。卒業研究演習IIで提出してもらう卒業論文は25,000字程度とする。
同担当者の卒業研究演習Iを履修した上で、IIを履修すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成指導を行なう。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション
第2～14回 卒業論文の経過報告・個別指導・テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文...80% 討論への参加度...20%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、現代中国に関する様々な問題の中から受講生が設定した研究テーマを探究し、卒業論文を完成させることである。

教科書 /Textbooks

特に指定せず。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。なお、受講生は定められた期日までに卒業論文を提出し、授業最終日に口頭発表を行う。卒業論文の書き方については授業中に適宜アドバイスする。

- 1回 イン트로ダクション(参考文献・資料の紹介、報告順番の決定など)
- 2回~14回 テキスト輪読・討論・受講生の研究報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 30%、 討論への参加度と発言内容 ... 40%、 卒業論文...30%
卒業論文の未提出は単位認定しない。報告レジュメ・卒業論文の提出遅延は1回毎に全体評価の10%減点、報告レジュメの未提出は同20%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示する文献を熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業研究演習Iで作成した論文の章構成にしたがって、研究テーマについて卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

随時指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 インTRODクシヨN
2回～14回 卒業論文の中間報告
15回 まとめ

論文草稿は、1 1月中旬に第1稿、1 2月末に第2稿、最終稿は1月末に提出する。

成績評価の方法 /Assessment Method

討論への参加度・発言内容...30% 論文の内容と報告...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告の当事者でなくても、他のゼミ生のテーマについて積極的に自らの意見や疑問を提起することを望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文を執筆し提出する。
この演習では、まず、執筆中の論文の中間報告を行なう。その後、論文を提出したうえで、発表会を行なう。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 はじめに
2回～12回 論文の中間報告
13回 論文の提出
14回～15回 論文の発表会ならびに講評

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の準備および参加状況... 50% 論文の提出と発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習の進め方は、初回に説明する。なお、初回には、参加者の問題関心を確認する。各自10分間ほど時間をとるので準備しておくこと。
- ・ 論文の具体的なテーマと構成は、担当者と相談の下で決定する。
- ・ 論文の執筆に向けて有益であると思われる資料と文献を、開講までにできるかぎり収集し、購読し、かつその内容をノートしておくこと。
- ・ 「国際機構論I」「国際機構論II」の双方を履修することが望ましい。
- ・ 質問、不明点があれば、とりいそぎ電子メールで受け付ける。メールアドレスは、国際関係学科ホームページやオフィスアワー一覧に掲載されている。メールの場合は、その表題に「卒業研究演習について質問」と記載すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成を指導する

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に個別に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-6回 予備論文報告
- 第7回 卒業論文の作成指導
- 第8-14回 卒業論文構成報告
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 30 % 卒業論文 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

これまでの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習II 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回～14回 卒業論文の経過報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

統語論、意味論、形態論、音声学等、英語の言語的側面を概観し、インターネットの利用や実践を通して理解を深める。

教科書 /Textbooks

“First Steps in English Linguistics” by T. Kageyama et al. (くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 Introduction: Language 【onomatopoeia】
- 2回 Linguistics 【language acquisition】 【overgeneralization】 【UG】
- 3回 MorphologyI 【morpheme】 【Compound Stress Rule】 【Phrasal Stress Rule】
- 4回 MorphologyII 【derivation】 【conversion】 【inflection】 【clipping】 【blending】
- 5回 SemanticsI 【conceptual meaning】 【associative meaning】 【entailment】
【categorization】
- 6回 SemanticsII 【hyponymy】 【meronymy】 【synonymy】 【antonymy】 【polysemy】
【metaphor】
- 7回 SyntaxI 【movement】 【deletion】 【pro-form】 【coordination】
- 8回 SyntaxII 【labeled bracketing】 【tree diagram】 【phrase structure】
- 9回 Phonetics and PhonologyI 【pitch】 【intonation】 【accent】 【syllable】
- 10回 Phonetics and PhonologyII 【organs of speech】 【vowels】 【consonants】
- 11回 SociolinguisticsI 【world Englishes】 【regional dialects】
- 12回 SociolinguisticsII 【American English】 【British English】 【Canadian English】
- 13回 The History of EnglishI 【Old English】 【Middle English】 【Modern English】
- 14回 The History of EnglishII 【Proto-Indo-European】 【Great Vowel Shift】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(提出物を含む) ...40%、 期末試験 ...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に予習範囲や提出物等について説明する。テキスト、配布資料を参考に重要な用語をノートにまとめておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究 (音声学・音韻論) 【昼】

担当者名 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。
英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい英語の音声について明らかにする。

教科書 /Textbooks

堀口俊一監修、加賀屋弘司、矢田裕士、野田哲雄著 『現代英語音声学』 英潮社ファニックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてプリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA
- 2回 発声メカニズム、母音の種類(1)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音
- 5回 子音の種類(2)摩擦音
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢
- 9回 音の縮小、同時調音
- 10回 リズム
- 11回 イントネーション(1)
- 12回 イントネーション(2)
- 13回 音響音声学
- 14回 音変化
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、提出物 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープおよびUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北ユーラシアの民族と社会 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族を結び付けている言語・文化・宗教、アイデンティティなどについて考察する。
事例研究では、ロシア・旧ソ連を重点的に扱い、多民族国家・社会における言語問題、民族対立、文化統合・国民統合などの問題について考察し、グローバル化社会における個人と帰属社会の関係について理解を深めることを狙いとする。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

蓮実重彦、山内昌之『いま、なぜ民族か』 東京大学出版会 1994年
『スラブの民族』(講座スラブの世界 2) 山川出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族とは何か：【民族籍と国籍】、【民族アイデンティティ】
- 2回 - 3回 民族社会と文化：文化の定義、人と文化、文化政策、【クレオール】
- 4回 社会と宗教：世界の宗教意識調査、宗教の役割とは何か、宗教政策
- 5回 - 6回 言語と社会：【母語とは】、近代化と言語政策・言語問題
- 7回 アジアの国語教育
- 8回 ボルガ・ウラル地域の民族社会：ウラル系とチュルク系民族の共生の歴史
- 9回 北カフカスの諸民族
- 10回 シベリア・極北の民族社会：自然と産業、開発の歴史、少数民族社会の消長
- 11回 - 12回 中央アジアの民族と社会：草原の民とオアシスの民、信仰と宗教、新たな国造り
- 13回 ウクライナの民族・地域問題：各地域が抱える問題、言語事情
- 14回 旧ソ連の離散民：ロシアの朝鮮人、離散の歴史
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 80 % 平常の学習状況 ... 20 %
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は単位修得資格を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

めまぐるしく変化する現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されている。そのテーマはといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどである。この講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みたい。同じ地球に生きる人間として、途上国の問題にも真正面からぶつかって欲しい。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 中村尚司『人びとのアジア - 民際学の視座から』岩波新書、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい
第2回～4回 担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 【バングラデシュ】
第5回～6回 開発論の歴史：成長概念と貧困概念を中心に 【成長】【貧困】【SD】
第7回～8回 開発論の課題：人口増加と資源・環境問題 【人口増加】【環境問題】
第9回～10回 途上国での農村・農業問題 【農村】
第11～12回 世銀の開発方針とNGO 【世銀】【NGO】
第13～14回 途上国での都市問題と社会開発 【都市問題】【社会開発】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシアの歴史と社会 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ソ連崩壊以降の国内社会問題、内政、近隣諸国との関係など現代ロシアも含めて、ロシアの歴史・社会・文化・生活習慣などについて理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和田春樹編『ロシア史』山川出版社、藤沼貴著『ロシア その歴史と心』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシアの自然・風土：ロシア基本データ、ロシアの領域特徴・自然特徴
- 2回 ロシアの歴史1：【キエフ・ルーシ】、【モンゴルの支配】、【モスクワ公国の発展】
- 3回 ロシアの歴史2：【動乱の時代】、【西欧化の波】、【ピョートル時代の近代化】
- 4回 ロシアの歴史3：【帝政ロシアの異民族支配体制】、【19世紀の改革と反動】、【ロシア革命】
- 5回 ロシアの歴史4：【ソ連国家建設から1970年代末までのソ連社会概観】
- 6回 ビデオ鑑賞：ソ連時代の人々の行動と価値観
- 7回 - 8回 ロシア文化論：ロシア文化と地政学的条件、自然観と宗教、生活文化、社会文化
- 9回 - 10回 ゴルバチョフ登場からソ連崩壊まで：【ペレストロイカ】、【グラスノスチ】
- 11回 エリツイン時代のロシア：企業民営化、議会と大統領の対立、チェチェン侵攻
- 12回 プーチン時代のロシア：7連邦管区制度導入、言論統制、民営化企業見直し
- 13回 中央政府と民族共和国の関係：タタルスタン、ダゲスタンを例に
- 14回 ロシアの外交：【近い外国】、【遠い外国】との関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語A【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の様々な社会状況や問題を英語で紹介したニュース番組をテキストとし、ニュース英語を正確に聞き取るリスニング力や英語で日本のことを語ることができるだけの高度な発信能力を身に付けることを狙いとします。将来国際的に活躍し、外国と日本との架け橋となることを目指す人のために、日本語と英語との通訳・翻訳技術の基礎についても学ぶ機会にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

『DVDで学ぶNHK衛星放送-日本を発信する4』 山崎達朗 / Stella M. Yamazaki編著
2,310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『はじめてのウイスパリング同時通訳』 柴田バネッサ清美著 南雲堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (テキスト、成績評価の方法、学習方法、参考図書などの説明)
- 2回 Unit 1 Big Eye Craze 「オシャレつけまつげ」
- 3回 Unit 2 Art of Living 日本のブラジル社会 - 苦悩と打開
- 4回 Unit 3 Rice Flour 「米粉」の利用価値
- 5回 Unit 4 The Smiling Bottle Dancer 語り継ぐ沖縄 - 前向きな人生観
- 6回 Unit 5 Made to Last 「200年住宅」構想
- 7回 Unit 6 Like the Real Thing 楽器職人の技とこだわり
- 8回 Unit 7 Colorful Eraser Generation おもしろ消しゴム
- 9回 Unit 8 Going Green 野菜の楽しみ方 - より新鮮に、より美味しく
- 10回 Unit 9 Care from Abroad 海外からの看護協力 - 現状と課題
- 11回 Unit 10 Eggs-actly the Right Touch 割れた卵を見逃すな!
- 12回 Unit 11 Focus on Job-hunting 「就活」の舞台裏 - 勝ち組戦略
- 13回 Unit 12 Well-aged まだまだ現役! - 高齢者の意欲と実力
- 14回 Unit 13 Quality over Looks 見かけより中身 - わけあり野菜
- 15回 Unit 14 Toys that Educate 教育玩具の今

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度...60% 小テスト・課題による評価...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に各単元の予習や復習をするなど、授業時間外の学習にも力を入れましょう。
英和・和英・英英辞典を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語B 【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

CNNニュース映像の視聴を通して、ニュース英語の語彙、表現方法、スピードに慣れるとともに、グローバル化社会における時事問題についての理解を深めることを目指します。また、ニュースで取り上げられている話題に関連した記事を合わせて読むことで、読解力も伸ばしながら、同じ話題を多角的に捉える機会にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

『CNN：ビデオで見る世界のニュース(11)』 関西大学英语教育研究会 朝日出版社
その他に適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『はじめてのウイスパリング同時通訳』 柴田バネッサ清美著 南雲堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(テキスト、成績評価の方法、学習方法、参考図書などの説明)
2回 Unit 1 Obama Inauguration Speech
3回 Unit 2 Californian Ecology
4回 Unit 3 Dr Heart
5回 Unit 4 Golden Sewage
6回 Unit 5 Tokyo Fish Market
7回 Unit 6 Treeless Wonder
8回 Review
9回 Unit 7 British Pound Takes a Pounding
10回 Unit 8 East African Piracy
11回 Unit 9 Perfect Female Robot Aiko
12回 Unit 10 Oxford Exam
13回 Unit 11 Best Job in the World
14回 Unit 12 Going, Going ... Gone
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度...60% 小テスト・課題による評価...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に各単元の予習や復習をするなど、授業時間外の学習にも力を入れましょう。
英和・和英・英英辞典を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。「国際法II」を併せて受講すると学習効果があがります。

教科書 /Textbooks

教科書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○
ただし条約集は、受講上の不都合を甘受すれば、他の出版社のものでもかまいません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。参考文献は、初回講義時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス
第I部「国際社会における法律作り」
第2回 条約の締結 第3回 条約の留保
第4回 条約の無効 第5回 中間試験①
第6回 解説と講評&個別指導
第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」
第7回 慣習国際法 第8回 条約と第三国
第9回 条約の国内的効力 第10回 中間試験②
第11回 解説と講評&個別指導
第III部「国際社会における秩序の維持」
第12回 国際責任 第13回 武力行使の禁止と自衛権
第14回 紛争の平和的解決義務と国際司法裁判所(ICJ) 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

サブプライム・ローン問題に端を発する世界金融危機とその後の実体経済の悪化から、オバマ政権下のゼロ金利政策、量的緩和政策もあって回復を遂げたアメリカ経済。日本とも貿易や金融の面で関係の深いアメリカですし、世界最大の経済ですから、それを学ぶことの意味は大きいと言えます。でも、そもそもアメリカって...? 経済って...?

授業では、研究者としてアメリカに住んでいたときや毎年の学会出席時の私の体験談、また、南北戦争マニアの私ならではの歴史上のエピソードもたっぷりと交え、楽しくアメリカについて学びます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤井英彦『オバマのアメリカ - 次なる世界経済の行方』東洋経済新報社、2009年2月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 アメリカの産業と所得 | 2 アメリカの所得分配と社会保障 |
| 3 アメリカ家計の消費と貯蓄 | 4 アメリカの社会階層と失業 |
| 5 アメリカ企業と収益 | 6 アメリカ企業と投資 |
| 7 アメリカ政府と税制 | 8 アメリカの政府支出と財政 |
| 9 アメリカの通貨制度 | 10 アメリカの金融システム |
| 11 アメリカ経済と金利 | 12 アメリカの国際収支 |
| 13 アメリカ経済と為替レート | 14 アメリカ経済と物価 |
| 15 アメリカの経済成長と景気 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績を8割、レポートを2割で評価します。定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が1問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめてもらい、自分の感想・見解と一緒に2000字程度にまとめてもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講すれば、みんなの頭にアメリカのはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じるはずですよ。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。
 授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習) レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・ 実習)によって教室・ 多目的ホール・ 体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせて行う。
- 第 11 回 救急法II火災や自然発生災害時での身の守り方救急法などを学習する
- 第 12 回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①出席：60% (出席と毎回のミニレポート) ②まとめ(ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布したレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考になさってください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑法】【法の適用】【憲法と刑法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'10』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・ バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ ドロップ・ ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・ 戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1、3対2) (1)
- 6回 応用練習 (2対1、3対2) (2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (1)
- 10回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (2)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム (2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム (3)
- 14回 ゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム (1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム (2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム (3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム (4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム (1)
- 11回 ゲーム (2)
- 12回 ゲーム (3)
- 13回 ゲーム (4)
- 14回 ゲーム (5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 ○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第一講 「今西錦司と自然学」
- 二講 「私とあなたの自然学」
- 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
- 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
- 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
- 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
- 第十二講 人々はどのように自然を利用していきけるか - 日本の竹産業と政策
- 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
- 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
- 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたくなったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球は今から約46億年前に誕生した。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。この授業では、現在の地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

丸山茂徳・磯崎行雄『生命と地球の歴史』岩波書店
川上紳一『生命と地球の共進化』日本放送出版協会NHKブックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回 生きている地球2【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回 地球惑星の起源と進化【太陽系の起源】
- 5回 水の惑星の誕生と地球生命の起源【生命の起源】
- 6回 目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 7回 凍りついた地球【全球凍結】
- 8回 生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%，ミニ課題・レポート：30%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミニ課題・レポートは提出期限を厳守のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【昼】

担当者名
/Instructor

重信 幸彦 / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的にを行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思っています。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各担当者の講義のテーマは下記のとおりです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員の名前です）。講義の順番は未定です。下記の講義以外に、博物館見学も予定しています。

- ・ 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
- ・ 化石が語る魚類の進化（籾本）：【魚類化石】
- ・ 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- ・ 絶滅危惧と鳥類（武石）：【絶滅危惧】
- ・ ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- ・ 化石記録が語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- ・ カエルとサンショウウオのおはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- ・ 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
- ・ 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
- ・ 日本列島のおいたち：付加体の重要性（御前）：【プレートテクトニクス】【日本の地質】

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート... 80% 博物館見学レポート 20...% なお、予め定められた2回の博物館見学を、レポート提出の条件とし、単位取得の必須条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシシン.....史上最強の毒物【ダイオキシシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 小松 佐穂子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今現在，“心理学”の分野で明らかになっていることについて学ぶことを通して，自分や他者の“こころ”について考える。基本的に，心理学についての新たな知識の獲得を目指す，獲得した知識をふまえて，自ら，現代社会の問題に取り組み，考える態度を学んで欲しい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【心理学】
- 2回 心理学の研究法【実験法】【観察法】【調査法】
- 3回 ものの見え方，感じ方(1)【知覚】
- 4回 ものの見え方，感じ方(2)
- 5回 学習のしくみ【条件づけ】【学習】
- 6回 人間の記憶のしくみ(1)【記憶】【認知】
- 7回 人間の記憶のしくみ(2)
- 8回 母と子の結びつき【愛着】
- 9回 対人コミュニケーション【感情】【表情】
- 10回 心の病【心身症】【神経症】
- 11回 気分のコントロール【うつ病】【認知のゆがみ】
- 12回 高齢化社会【中年期】【老年期】
- 13回 女性の社会進出に伴う生き方【アイデンティティ】
- 14回 こころの知能指数【情動性知能】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題)...30% ミニレポート...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて展開されてきた主要な思想の流れを解説する。この時代が「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想に着目してゆく。これらの発想をヒントにして、自我の成立、他者との関係性を考え直すことが、本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存主義の思想(1)概説
- 3回 実存主義の思想(2)キルケゴール
- 4回 実存主義の思想(3)ハイデガー
- 5回 実存主義の思想(4)サルトル
- 6回 実存主義の思想(5)メルロ=ポンティ
- 7回 中間テスト
- 8回 精神分析の思想(1)フロイト1
- 9回 精神分析の思想(2)フロイト2
- 10回 精神分析の思想(3)メラニー・クライン
- 11回 精神分析の思想(4)ジャック・ラカン
- 12回 フェミニズムの思想(1)
- 13回 フェミニズムの思想(2)
- 14回 フェミニズムの思想(3)
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※中間テストを受験していない者は期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第七回に中間テスト(第三回~第六回の確認テスト)を実施するので、受講希望者は遅くとも第三週目から出席しておく必要がある。このテストを受験していない者には単位を認めない。
また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペなど)が発覚したレポートは即座に零点となるので、十分に注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名
/Instructor

岩本 真理子 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, 水本 弘文 / 比較文化学科
馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるだろうか。文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高い。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ、フランス語と生まれ変わることもある。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で日本語、英語、ドイツ語などで書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促す。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・詩とは何か
 - 2回 ドイツの詩
 - 3回 ドイツの詩
 - 4回 イギリスの詩
 - 5回 イギリスの詩
 - 6回 イギリスの詩
 - 7回 アメリカの詩
 - 8回 アメリカの詩
 - 9回 フランスの詩
 - 10回 フランスの警句とことわざ
 - 11回 言葉から形へ
 - 12回 言葉から形へ
 - 13回 日本の詩
 - 14回 日本の詩
 - 15回 まとめ
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○ 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○ 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
 第2回~第8回 「正義」の応用問題
 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、ト・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）
J・リンスほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グロバリゼーションとデモクラシー【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席重視、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と出席などで総合評価
出席 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人権といえば特別なことというイメージを持つかもしれない。しかし、実際には気付かない、知らないというだけで自分自身の人権が侵害されていたり、無意識のうちに他者の人権を侵害していることがある。

本講義では、識字問題や在日外国人問題など様々な事例から、現存する人権課題とその社会的背景を考察する。そして、人権とは非常に身近で重要なものであるということを実感していただきたい。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所 発行）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回テーマを決め、ビデオ等を交えながら授業を行う。
出席確認と授業の理解を深めるため、毎回「感想」を書き込む用紙を配布する。

(【 】はキーワード)

- 1回 わたしにとっての人権
- 2回 人権の歴史(1) 【近代革命】
- 3回 人権の歴史(2) 【国連】
- 4回 人権概念の整理(1) 【国家】 【憲法】
- 5回 人権概念の整理(2) 【国際人権】
- 6回 日本における人権課題(1) 【部落問題】
- 7回 日本における人権課題(2) 【冤罪】
- 8回 生活の中の人権(1) 【ハンセン病】
- 9回 生活の中の人権(2) 【平和】
- 10回 教育マイノリティの現状 【識字】
- 11回 教育マイノリティの現状と課題 【夜間中学】
- 12回 外国人の人権(1) 【国籍】
- 13回 外国人の人権(2) 【在日コリアン】
- 14回 海外における人権課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と出席状況で評価する
出席 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

女性の名前に「美」が付くことが多いのはなぜか、工学部や法学部、経済学部に女子学生が少ないのはなぜか、子育ては母親の役割とされているのはなぜか、男女の賃金に差があるのはなぜか-そんな身の回りの「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。講義のキーワードは「ジェンダー」「ポリティクス」。

教科書 /Textbooks

伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子『女性学・男性学-ジェンダー論入門』（有斐閣、2002/02、1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』岩波書店
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』明石書店
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 女であることの損・得 / 男であることの損・得【ジェンダー役割】【性の二重基準】
 - 2回 作られる<男らしさ><女らしさ>【男らしさ】【女らしさ】【メディア・リテラシー】
 - 3回 女性学って何?【女性の視点】【周縁化】【名前のない病】
 - 4回 あなたとわたし【ジェンダー】【セクシュアリティ】
 - 5回 ジェンダー・フリーな教育のために【隠れたカリキュラム】【ジェンダー・トラッキン グ】
 - 6回 恋愛の女性学・男性学【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】【デートDV】
 - 7回 男性学って何?【男性の鏡】【自殺】【専業主夫】
 - 8回 ジェンダーと労働【賃金格差】【間接差別】【ワーク・ライフ・バランス】
 - 9回 花子さんの見た未来?【多様な生き方】【多様な働き方】【多様な家族】
 - 10回 多様な家族に向かって【近代家族】【婚姻制度】【選択的夫婦別姓】【婚外子差別】 【DV】
 - 11回 育児はだれのもの【母性愛神話】【三歳児神話】【育児休業法】
 - 12回 国際化のなかの女性問題・男性問題【グローバル化】【移住労働の女性化】【人身取引】
 - 13回 平和の思想と<男らしさ>【平和】【暴力】【軍事化】
 - 14回 ジェンダー・フリー社会の見取り図【男女共同参画社会】【国連女性差別撤廃条約】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と授業中の積極的な発言...25%、ワークショップでのプレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メディア表現、法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発表、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイント資料を用いるため、スキルを見つけておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 山本 光英 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 落合 俊行 / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 國武 英生 / 法律学科
 中山 布紗 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
												○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法とってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か(3銭の電気窃盗)(山本)
- 第2回 人間社会とルール(マナーとルール、社会と規範、規範と法則、法と社会、法と道德の違いなど)(山本)
- 第3回 裁判とは何か(民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など)(岡本)
- 第4回 民事少額訴訟とは何か(小池)
- 第5回 基本的人権とは何か(基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など)
- 第6回 社会福祉の視点から(狭間)
- 第7回 雇用とは何か(雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了)(國武)
- 第8回 犯罪とは何か(構成要件、違法、責任、罪刑法定主義)(大杉)
- 第9回 契約とは何か(法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など)(矢澤)
- 第10回 財産とは何か(さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など)(中山)
- 第11回 労働者の権利と生活の保障(労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など)(國武)
- 第12回 生存と環境保護(公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など)(岡本)
- 第13回 国際社会と日本(二宮)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、北九州の文化を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知と一と！？北九州？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 小倉郷土会①
- 3回 小倉郷土会②
- 4回 小倉郷土会③
- 5回 北九州の人と文学
- 6回 北九州の方言
- 7回 北九州の民話・伝承
- 8回 北九州の祭り
- 9回 海峡花火
- 10回 門司港の観光
- 11回 小倉城
- 12回 上野焼
- 13回 北九州の食文化
- 14回 北九州の農業
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは一応の予定です。ゲストの都合等により変更になることがあります。詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメは事前に配布するつもりですので、配布したレジュメをよく読んで受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生を果たした。欧米から日本的経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。曰く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

そうすると社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちが資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理』（山内友三郎・塚崎智監訳）昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【F L O】
- 7回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 8回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 9回 現代における差別の問題(3)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(4)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題 【昼】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度 (山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」 (落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」 (植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」 (小野)
- 第5回 「日本における法の継受」 (岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」 (重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」 (岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」 (高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」 (朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」 (福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」 (吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」 (今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」 (大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想的に考察する。講義全体のキーワードは【ポストコロニアリズムの思想課題】【国際情勢】

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロニアリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

関連文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロニアリズムなのか(1)(2)【ポストコロニアリズム】
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】【植民地主義】
- 【帝国】
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文 【植民地近代性】【ナショナリズム】
- 【グローバリズム】
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 轡田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第III部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】【ジェンダー】
- 13回 第III部の3、高橋哲哉論文 【過去の克服】
- 14回 第III部の4、野村浩や・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（2~3本）、授業参加への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書のなかに登場する概念、理論を勉強しつつ、関連文献を自主的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解読』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|------|--------------|---|------------------------|
| 第1回 | 憲法の意義 | - | 【国家権力の授権と制限】 |
| 第2回 | 憲法の展開 | - | 【近代から現代、そして未来へ】 |
| 第3回 | 人権総論 | - | 【自由の保障と制約】 |
| 第4回 | 人権各論①（幸福追求権） | - | 【プライバシー・名誉・自己決定】 |
| 第5回 | 人権各論②（平等原則） | - | 【人種・性と平等】 |
| 第6回 | 人権各論③（信教の自由） | - | 【信教の自由と政教分離】 |
| 第7回 | 人権各論④（表現の自由） | - | 【プライバシー・名誉・性表現】 |
| 第8回 | 国民主権論 | - | 【国民主権の意義】 |
| 第9回 | 日本の政治制度 | - | 【議院内閣制の本質】 |
| 第10回 | 平和主義論① | - | 【憲法9条の制定・意義】 |
| 第11回 | 平和主義論② | - | 【平和主義の現実と未来】 |
| 第12回 | 平和主義論③ | - | 【憲法9条と裁判所】 |
| 第13回 | 日本憲法史 | - | 【大日本帝国憲法と日本国憲法】 |
| 第14回 | 総括 | - | 講義を踏まえたうえで憲法状況に関して概説する |
| 第15回 | 総括 | - | 講義を踏まえたうえで憲法状況について概説する |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指す。講義全体のキーワードは、「精読・精聴」、「語彙力強化」です。

教科書 /Textbooks

宮崎充保（他）『Intensive Training for the TOEIC Test』 成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、TOEICテストとは
- 2回 日本語と英語の基本語順
- 3回 主語と動詞
- 4回 名詞の形
- 5回 英語の基本語順（主語＋動詞）
- 6回 英語の基本語順（主語＋動詞＋名詞）
- 7回 英語の基本語順（主語＋動詞＋名詞＋名詞）
- 8回 英語の基本語順（主語＋動詞＋名詞/形容詞）、（主語＋動詞＋名詞＋形容詞）
- 9回 不定詞、動名詞
- 10回 that節
- 11回 疑問詞
- 12回 現在分詞、過去分詞
- 13回 関係代名詞
- 14回 関係副詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

[講義評価] 期末試験...50% 平常の学習状況（小テスト含む）...50%
（上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指す。講義全体のキーワードは、「精読・精聴」、「語彙力強化」です。

教科書 /Textbooks

THE TOEIC(R) TEST TRAINER Target 650 センゲージラーニング
配布プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、TOEICテストとは
- 2回 日本語と英語の基本語順
- 3回 主語と動詞
- 4回 名詞の形
- 5回 英語の基本語順（主語＋動詞）
- 6回 英語の基本語順（主語＋動詞＋名詞）
- 7回 英語の基本語順（主語＋動詞＋名詞＋名詞）
- 8回 英語の基本語順（主語＋動詞＋名詞/形容詞）、（主語＋動詞＋名詞＋形容詞）
- 9回 不定詞、動名詞
- 10回 that節
- 11回 疑問詞
- 12回 現在分詞、過去分詞
- 13回 関係代名詞
- 14回 関係副詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

[講義評価] 期末試験 ... 50% 平常の学習状況（小テストなど含む）... 50%
（上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースはリーディング用の教材とTOEIC対策の2本立てで行う。リーディングでは、現代社会問題について書かれたテキストを用いる。インプット、インテイク、アウトプットの3段階で授業を進めることで、英語を「トレーニング」していくことを目指す。

教科書 /Textbooks

『A World of Change on the Web 変貌する世界』 Setsuko Watanabe 他、南雲堂。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2』 David E. Bramley、河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション (成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 1 Ethnic Stereotypes
- 3回 Unit 2 Endangered Species 1
- 4回 Unit 3 Endangered Species 2
- 5回 Unit 4 Modern Masters of Art
- 6回 Unit 5 Champions of Peace
- 7回 Unit 6 Myspace and Wikipedia
- 8回 Unit 7 Champions of Charity
- 9回 Unit 8 Global Warming
- 10回 Unit 9 Polar Bears on Thin Ice
- 11回 Unit 10 Over Population
- 12回 Unit 11 An Era of Adoption?
- 13回 Unit 12 Are Diamonds Really a Girl's Best Friend?
- 14回 Unit 13 Gambling around the Globe
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指す。講義全体のキーワードは、「精読・精聴」、「語彙力強化」です。

教科書 /Textbooks

THE TOEIC(R) TEST TRAINER Target 780 センゲージラーニング
配布プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、TOEICテストについて
- 2回 語の種類と働き
- 3回 基本語順と副詞
- 4回 基本語順の展開
- 5回 二重目的語構文
- 6回 否定表現、疑問文
- 7回 受動態
- 8回 名詞、冠詞
- 9回 形容詞、形容詞の働きをする分詞
- 10回 名詞の働きをする不定詞、動名詞・動詞の働きをする不定詞、動名詞
- 11回 形容詞と副詞
- 12回 副詞の働きをする不定詞
- 13回 分詞構文、接続詞
- 14回 関係詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

[講義評価] 期末試験 ... 50% 平常の学習状況（小テストなど含む）... 50%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

宮崎充保(他)『Intensive Training for the TOEIC Test』 成美堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Preliminary Lesson
- 3回 Part 1 対策
- 4回 Part 2 対策
- 5回 Part 2 対策
- 6回 Part 3 対策
- 7回 Part 3 対策
- 8回 Part 4 対策
- 9回 Part 4 対策
- 10回 Part 5 対策
- 11回 Part 5 対策
- 12回 Part 6 対策
- 13回 Part 7 対策
- 14回 Part 7 対策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...50% 期末試験...50%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、指定された箇所の予習をして授業に出席すること。基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースはリーディング用の教材とTOEIC対策の2本立てで行う。リーディングはVOAを題材に編集されたものを使用する。内容は健康問題や環境問題に焦点が当てられている。このテキストを用いて、シャドーイング等の「トレーニング」を前期よりも積極的に行う。

教科書 /Textbooks

『World Reports of Health and Environment from VOA 世界の健康と環境：日常生活から国際的課題まで』安浪誠祐 / Richard S. Lavin 編著、松柏社。
『Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2』David E. Bramley, 河合忠仁著、松柏社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション (成績評価の説明、予習の仕方、授業の進め方等)
- 2回 Unit 1 ヘッドフォンの耳への影響
- 3回 Unit 2 肥満による害が減少?
- 4回 Unit 3 水不足による健康被害
- 5回 Unit 4 怒りは病気?
- 6回 Unit 5 熱帯雨林の保護
- 7回 Unit 6 生活習慣病の脅威
- 8回 Unit 7 インシュリン吸入器が認可される
- 9回 Unit 8 子供たちのエイズ感染予防に向けて
- 10回 Unit 9 バイオ燃料の需要が高まると・・・
- 11回 Unit 10 昼寝で心臓が強くなる?
- 12回 Unit 11 肺結核予防・治療の工場
- 13回 Unit 12 発展途上国における携帯電話の利用法
- 14回 Unit 13 プラセボ効果の不思議
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) ... 50%、 学期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定した方法で予習をしてくること。必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Deeper Understanding Framework を使い、各テーマの意義の深いところまで理解でき、的確な表現で自分の進路に合った英語プレゼンテーションが出来るようになる。プレゼンテーション内容の多くは学生が自ら責任を持って決めることになる。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels, Fun Flavor, Book 1
Optimal Levels PROJECT BOOK

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - Getting to know you.
- 2 回 Chapter 1. Movies: Introduction
- 3 回 Chapter 1. Movies: Building your understanding
- 4 回 Chapter 1. Movies: Presentation preparation
- 5 回 Chapter 1. Movies: Presentation day
- 6 回 Chapter 2. Travel: Introduction
- 7 回 Chapter 2. Travel: Building your understanding
- 8 回 Chapter 2. Travel: Presentation preparation
- 9 回 Chapter 2. Travel: Presentation day
- 1 0 回 Chapter 3. Shopping!: Introduction
- 1 1 回 Chapter 3. Shopping!: Building your understanding
- 1 2 回 Chapter 3. Shopping!: Presentation preparation
- 1 3 回 Chapter 3. Shopping!: Presentation day
- 1 4 回 Semester review
- 1 5 回 Semester review continued

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション ... 60% 試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 国 1 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to examine everyday issues in a discussion/ debate format. The topic will be introduced in a reading format and there will be opportunity for the students to express their opinions in class. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal.

教科書 /Textbooks

Impact issues 3 Pearson and Longman by Day and Yamanaka

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation
- 2回 Cosmetic surgery
- 3回 Friends or lovers
- 4回 I don't care
- 5回 Rules, rules, rules
- 6回 Plagiarism
- 7回 Housework
- 8回 The unborn child
- 9回 Earning money
- 10回 Body Art
- 11回 Adult children
- 12回 Debate
- 13回 Debate
- 14回 Review
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 40% Debate: 40% Peer journal: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Deeper Understanding Framework を使い、各テーマの意義の深いところまで理解でき、的確な表現で自分の進路に合った英語プレゼンテーションが出来る様になる。プレゼンテーション内容の多くは学生が自ら責任を持って決めることになる。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels, Fun Flavor, Book 2
Optimal Levels PROJECT BOOK

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - Getting to know you.
- 2 回 Chapter 1. Fashions: Introduction
- 3 回 Chapter 1. Fashions: Building your understanding
- 4 回 Chapter 1. Fashions: Presentation preparation
- 5 回 Chapter 1. Fashions: Presentation day
- 6 回 Chapter 2. Sports: Introduction
- 7 回 Chapter 2. Sports: Building your understanding
- 8 回 Chapter 2. Sports: Presentation preparation
- 9 回 Chapter 2. Sports: Presentation day
- 1 0 回 Chapter 3. Music: Introduction
- 1 1 回 Chapter 3. Music: Building your understanding
- 1 2 回 Chapter 3. Music: Presentation preparation
- 1 3 回 Chapter 3. Music: Presentation day
- 1 4 回 Semester review
- 1 5 回 Semester review continued

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション ... 60% 試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to examine everyday issues in a discussion/ debate format. The topic will be introduced in a reading format and there will be opportunity for the students to express their opinions in class. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal.

教科書 /Textbooks

Impact issues 3 Pearson and Longman by Day and Yamanaka

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Naomi's dilemma
- 2回 No place like home
- 3回 Career choice
- 4回 Save our country
- 5回 High tech toys
- 6回 A women's place
- 7回 The art of compromise
- 8回 Can war make peace
- 9回 One sided family
- 10回 My split family
- 11回 Debate
- 12回 Debate
- 13回 Debate
- 14回 Review
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 80% Peer journal: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング 第1章
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング 第1章
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング 第2章
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング 第2章
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング 第2章
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング 第3章
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング 第3章
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング 第4章
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング 第4章
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング 第5章
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング 第5章
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング 第5章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Picture Questions Reading
- 2回 Picture Questions Reading
- 3回 Picture Questions Reading
- 4回 Question-Response Reading
- 5回 Question-Response Reading
- 6回 Question-Response Reading
- 7回 Short Conversations Reading
- 8回 Short Conversations Reading
- 9回 Short Conversations Reading
- 10回 Short Conversations Reading
- 11回 Short Talks Reading
- 12回 Short Talks Reading
- 13回 Short Talks Reading
- 14回 Short Talks Reading
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語のリーディング・リスニング能力を中心的に高め、TOEICのハイスコア(600点程度)獲得を目指します。指定テキストを用いた問題練習に加え、授業で配布するハンドアウトを通して、時事・文化など様々な文脈の英語の読解にも重点を置きます。

教科書 /Textbooks

西田晴美、吉田佳代、伊藤佳世子、Brian Covert
『Power Charge for the TOEIC Test』(金星堂、2009年)
ISBN 978-4-7647-3874-4

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション(授業の流れ、成績評価の説明)
 - 2回 Unit 1 Eating Out 【文の構造】
 - 3回 Unit 2 Amusement 【名詞・代名詞】
 - 4回 Unit 3 Daily Life 【可算 / 不可算代名詞】
 - 5回 Unit 4 Directions 【形容詞・副詞】
 - 6回 Unit 5 Travel 【動詞・助動詞】
 - 7回 Unit 6 Advertising 【時制】
 - 8回 Unit 7 Personnel 【イディオム】
 - 9回 Unit 8 Purchases 【一致】
 - 10回 Unit 9 Office Work 【分詞・動名詞・不定詞】
 - 11回 Unit 10 Employment 【関係詞】
 - 12回 Unit 11 Business 【接続詞・前置詞】
 - 13回 Unit 12 Finance & Banking 【特殊構文】
 - 14回 Unit 13 Health & Welfare 【比較】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...40% 期末試験...60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング 第1章
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング 第1章
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング 第2章
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング 第2章
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング 第2章
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング 第3章
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング 第3章
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング 第4章
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング 第4章
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング 第5章
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング 第5章
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング 第5章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に引き続き、英語のリーディング・リスニング能力を中心的に高め、TOEICのハイスコア（650点程度）獲得を目標とします。指定テキストと併せ、授業で配布するハンドアウトを通して、より幅広い分野の英語の内容把握力をつけます。

教科書 /Textbooks

秋好礼子『Seize the Main Points of the TOEIC Test』
(金星堂、2007年) ISBN 978-4-7647-3845-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 オリエンテーション (授業の流れ、成績評価の説明)
 - 2回 第1章 ビジネスレター① 【基本時制】
 - 3回 第2章 広告① 【進行形・完了形】
 - 4回 第3章 表・グラフ 【名詞/主語と動詞の一致】
 - 5回 第4章 通知文① 【前置詞】
 - 6回 Review Test 1
 - 7回 第5章 ビジネスレター② 【分詞・分詞構文】
 - 8回 第6章 通知文② 【不定詞・動名詞】
 - 9回 第7章 ウェブサイト 【助動詞】
 - 10回 第8章 社内メモ 【比較】
 - 11回 第9章 広告とウェブサイト 【関係詞・代名詞】
 - 12回 第10章 案内 【仮定法】
 - 13回 第11章 広告② 【受動態】
 - 14回 第12章 新聞記事 【否定・疑問】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) ...40% 期末試験...60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical comprehension and speaking skills developed through study of various English materials. Students will also have opportunities to practice academic presentation. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Orientation
- 2 回 Timed English Speeches and Q&A sessions
- 3 回 Unit 1 and discussion in English
- 4 回 Unit 2 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 3 and discussion in English
- 7 回 Unit 4 and discussion in English
- 8 回 Unit 5 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 6 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 7 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 8 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Deeper Understanding Framework を使い、各テーマの意義の深いところまで理解でき、的確な表現で自分の進路に合った英語プレゼンテーションが出来るようになる。プレゼンテーション内容の多くは学生が自ら責任を持って決めることになる。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels, Fun Flavor, Book 1
Optimal Levels PROJECT BOOK

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - Getting to know you.
- 2 回 Chapter 1. Movies: Introduction
- 3 回 Chapter 1. Movies: Building your understanding
- 4 回 Chapter 1. Movies: Presentation preparation
- 5 回 Chapter 1. Movies: Presentation day
- 6 回 Chapter 2. Travel: Introduction
- 7 回 Chapter 2. Travel: Building your understanding
- 8 回 Chapter 2. Travel: Presentation preparation
- 9 回 Chapter 2. Travel: Presentation day
- 1 0 回 Chapter 3. Shopping!: Introduction
- 1 1 回 Chapter 3. Shopping!: Building your understanding
- 1 2 回 Chapter 3. Shopping!: Presentation preparation
- 1 3 回 Chapter 3. Shopping!: Presentation day
- 1 4 回 Semester review
- 1 5 回 Semester review continued

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション ... 60% 試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 国2 - A
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical comprehension and speaking skills developed through study of various English materials. Students will also have opportunities to practice academic presentation. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Timed Speeches and Q&A sessions
- 2 回 Unit 9 and discussion in English
- 3 回 Unit 10 and discussion in English
- 4 回 Unit 11 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 12 and discussion in English
- 7 回 Unit 13 and discussion in English
- 8 回 Unit 14 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 15 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 16 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 17 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Deeper Understanding Framework を使い、各テーマの意義の深いところまで理解でき、的確な表現で自分の進路に合った英語プレゼンテーションが出来るようになる。プレゼンテーション内容の多くは学生が自ら責任を持って決めることになる。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels, Fun Flavor, Book 2
Optimal Levels PROJECT BOOK

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - Getting to know you.
- 2 回 Chapter 1. Fashions: Introduction
- 3 回 Chapter 1. Fashions: Building your understanding
- 4 回 Chapter 1. Fashions: Presentation preparation
- 5 回 Chapter 1. Fashions: Presentation day
- 6 回 Chapter 2. Sports: Introduction
- 7 回 Chapter 2. Sports: Building your understanding
- 8 回 Chapter 2. Sports: Presentation preparation
- 9 回 Chapter 2. Sports: Presentation day
- 1 0 回 Chapter 3. Music: Introduction
- 1 1 回 Chapter 3. Music: Building your understanding
- 1 2 回 Chapter 3. Music: Presentation preparation
- 1 3 回 Chapter 3. Music: Presentation day
- 1 4 回 Semester review
- 1 5 回 Semester review continued

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション ... 60% 試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亚洲国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亚洲国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』 中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗読テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【状態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【状態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【状態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2年偶数

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず一年次に学んだ文法事項を再確認し定着をはかる。次に長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【状態補語】【結果補語】【方向補語】【動量】【時量】【把構文】【被構文】等
- 2回 文法確認
- 3回 文法確認
- 4回 文法確認
- 5回 第1課 上有天堂【蘇州と杭州】【累加】【使役】【仮定】【条件】【並列】
- 6回 第1課 上有天堂、練習問題
- 7回 第2課 長寿面【誕生日】【把構文】【条件】【並列】【継起】
- 8回 第2課 長寿面、練習問題
- 9回 第3課 七夕【累加】【補語】【被構文】【仮定】【因果】
- 10回 第3課 七夕、練習問題
- 11回 第4課 春節晚会【正月】【条件】【継起】
- 12回 第4課 春節晚会、練習問題
- 13回 第5課 国球【卓球】【因果】【前置詞】【状態の持続】
- 14回 第5課 国球、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年奇数

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず一年次に学んだ文法事項を再確認し定着をはかる。次に長文読解の中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【状態補語】【結果補語】【方向補語】【動量】【時量】【把構文】【被構文】等
- 2回 文法確認
- 3回 文法確認
- 4回 文法確認
- 5回 第1課 上有天堂【蘇州と杭州】【累加】【使役】【仮定】【条件】【並列】
- 6回 第1課 上有天堂、練習問題
- 7回 第2課 長寿面【誕生日】【把構文】【条件】【並列】【継起】
- 8回 第2課 長寿面、練習問題
- 9回 第3課 七夕【累加】【補語】【被構文】【仮定】【因果】
- 10回 第3課 七夕、練習問題
- 11回 第4課 春節晚会【正月】【条件】【継起】
- 12回 第4課 春節晚会、練習問題
- 13回 第5課 国球【卓球】【因果】【前置詞】【状態の持続】
- 14回 第5課 国球、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2年偶数

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 高考【大学受験】【数字】【比較の表現】【逆接】【少しも~ない】【条件】
- 2回 第6課 高考
- 3回 第6課 高考、練習問題
- 4回 第7課 北京的“的哥”【タクシー運転手】【比較の表現】【条件】【慣用表現】
- 5回 第7課 北京的“的哥”
- 6回 第7課 北京的“的哥”、練習問題
- 7回 第8課 海帰【海外からの帰国者】【因果】【目的】【条件】【比較の表現】
- 8回 第8課 海帰
- 9回 第8課 海帰、練習問題
- 10回 第9課 跳槽【転職】【比較選択】【慣用表現】
- 11回 第9課 跳槽
- 12回 第9課 跳槽、練習問題
- 13回 第10課 独生子女【一人っ子政策】【条件】【常用表現】
- 14回 第10課 独生子女、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国 2年奇数
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 高考【大学受験】【数字】【比較の表現】【逆接】【少しも~ない】【条件】
- 2回 第6課 高考
- 3回 第6課 高考、練習問題
- 4回 第7課 北京的“的哥”【タクシー運転手】【比較の表現】【条件】【慣用表現】
- 5回 第7課 北京的“的哥”
- 6回 第7課 北京的“的哥”、練習問題
- 7回 第8課 海帰【海外からの帰国者】【因果】【目的】【条件】【比較の表現】
- 8回 第8課 海帰
- 9回 第8課 海帰、練習問題
- 10回 第9課 跳槽【転職】【比較選択】【慣用表現】
- 11回 第9課 跳槽
- 12回 第9課 跳槽、練習問題
- 13回 第10課 独生子女【一人っ子政策】【条件】【常用表現】
- 14回 第10課 独生子女、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年偶数

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 第1課 長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
- 2回 発表
- 3回 第2課 故宮【従】【如果】【動詞+着】
- 4回 発表
- 5回 第3課 敦煌莫高窟【連～都】【終于】【為了】
- 6回 発表
- 7回 第4課 秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
- 8回 発表
- 9回 第5課 黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
- 10回 第6課 九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
- 11回 発表
- 12回 第7課 孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
- 13回 第8課 ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
- 14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年奇数

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 第1課 長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
- 2回 発表
- 3回 第2課 故宮【從】【如果】【動詞+着】
- 4回 発表
- 5回 第3課 敦煌莫高窟【連～都】【終于】【為了】
- 6回 発表
- 7回 第4課 秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
- 8回 発表
- 9回 第5課 黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
- 10回 第6課 九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
- 11回 発表
- 12回 第7課 孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
- 13回 第8課 ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
- 14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2年偶数

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』 白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 第9課 峨眉山と泰山大仏【相当于】【按照】
 - 2回 発表
 - 3回 第10課 麗江【一～就...】【像～一様】
 - 4回 発表
 - 5回 第11課 蘇州の古典的園林【正如】【和～一様】【就是說】
 - 6回 発表
 - 7回 第12課 天壇公園【曾經】【即使】【属于】
 - 8回 発表
 - 9回 第13課 頤和園【使～】【通過】【怎麼】
 - 10回 発表
 - 11回 第14課 龍門石窟【值得】【对】
 - 12回 発表
 - 13回 第15課 雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
 - 14回 発表
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年奇数

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 第9課 峨眉山と泰山大仏【相当于】【按照】
 - 2回 発表
 - 3回 第10課 麗江【一~就...】【像~一樣】
 - 4回 発表
 - 5回 第11課 蘇州の古典的園林【正如】【和~一樣】【就是說】
 - 6回 発表
 - 7回 第12課 天壇公園【曾經】【即使】【属于】
 - 8回 発表
 - 9回 第13課 頤和園【使~】【通過】【怎麼】
 - 10回 発表
 - 11回 第14課 龍門石窟【值得】【对】
 - 12回 発表
 - 13回 第15課 雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
 - 14回 発表
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第1課 自己紹介
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（1）
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本句型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 指で指しながらいろいろ尋ねてみよう【人称・所有代名詞】
- 4回 場所や位置を尋ねてみよう【存在の有無】【助詞】
- 5回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(1)
- 6回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(2)
- 7回 1週間のスケジュールを話してみよう【動詞・形容詞の否定形】
- 8回 夏休みのスケジュールを話してみよう【願望形】
- 9回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(1)
- 10回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(2)
- 11回 連絡先を聞いてみよう【電話番号の言い方】【補助語幹-ㄴ】
- 12回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(1)
- 13回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(2)
- 14回 近況を親しみをこめて話してみよう【打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 3回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 4回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(1)
- 5回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(2)
- 6回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(1)
- 7回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(1)
- 10回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(2)
- 11回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(1)
- 12回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(2)
- 13回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(1)
- 14回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(1)
- 3回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(2)
- 4回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 5回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 6回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(1)
- 7回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 テーマに沿って自由会話(1)
- 10回 テーマに沿って自由会話(2)
- 11回 発表(1)
- 12回 発表(2)
- 13回 発表(3)
- 14回 発表(4)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目標とする。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(1)
- 3回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(2)
- 4回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(1)
- 5回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(2)
- 6回 自己紹介【自分について語る】(1)
- 7回 自己紹介【自分について語る】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(1)
- 10回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(2)
- 11回 帰り道【様子から推測、判断する】(1)
- 12回 帰り道【様子から推測、判断する】(2)
- 13回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(1)
- 13回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目指す。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(1)
- 3回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(2)
- 4回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(1)
- 5回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(2)
- 6回 村の風景【説明や描写】(1)
- 7回 村の風景【説明や描写】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(1)
- 10回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(2)
- 11回 診察を受ける【許可と禁止】(1)
- 12回 診察を受ける【許可と禁止】(2)
- 13回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(1)
- 14回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 中国 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2 回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3 回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4 回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5 回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6 回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7 回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8 回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9 回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10 回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11 回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12 回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13 回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14 回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15 回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中国2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 中国2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中国2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探るとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には品詞・文型・文の種類・時制・法（モード）を学びます。音声化を重視するので、つづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにしましょう。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級に合格すれば成績Cを保証します。その場合でも定期試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み方、母音の発音の方法
- 2回 つづり字の読み方
- 3回 名詞と不定冠詞、定冠詞、エリズイオンについて
- 4回 <-er> 動詞の活用
- 5回 文の種類（否定文・疑問文）
- 6回 形容詞と<etre>の活用
- 7回 限定詞（指示形容詞と所有形容詞）
- 8回 <avoir>の活用と部分冠詞
- 9回 <aller> <venir>の活用
- 10回 縮約形
- 11回 <-ir> 動詞の活用
- 12回 命令文
- 13回 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞
- 14回 副詞的代名詞 yとen
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に続いて文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。11月の仏検4級を合格すれば、成績Cを保証します。その場合でも期末試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』 (白水社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習
- 2回 比較級、最上級
- 3回 目的語人称代名詞の形と語順
- 4回 代名動詞
- 5回 複合過去の形と用法1
- 6回 複合過去 つづき
- 7回 単純未来
- 8回 半過去の形と用法
- 9回 受動態
- 10回 関係代名詞
- 11回 モード1 条件法
- 12回 中性代名詞
- 13回 現在分詞とジェロンディフ
- 14回 モード2 接続法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 未来のことを話す
- 14回 実用フランス語5級模擬試験（5級模擬試験は別の回に実施するかもしれませんが）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

（仏検受験者へ：今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の「音」についての復習
- 2回 再帰代名詞
- 3回 再帰代名詞の複合過去
- 4回 過去分詞の一致のまとめ
- 5回 半過去と大過去
- 6回 半過去と複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 補語人称代名詞
- 9回 命令法と補語人称代名詞
- 10回 現在分詞とジェロンデフ(1)
- 11回 現在分詞とジェロンデフ(2)
- 12回 疑問代名詞 le quel
- 13回 受動態
- 14回 最上級と副詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏検3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 強調構文
- 2回 中性代名詞 (1)
- 3回 中性代名詞 (2)
- 4回 条件法現在
- 5回 条件法過去
- 6回 接続法現在
- 7回 接続法過去
- 8回 直接話法と間接話法
- 9回 時制の一致 (1)
- 10回 時制の一致 (2)
- 11回 前置詞と接続詞 (時の表現)
- 12回 前置詞と接続詞 (場所の表現)
- 13回 前置詞と接続詞 (論理の表現)
- 14回 単純過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします (ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検3級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは3級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検2級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは2級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（プラス1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいるhispanicの人たちも含めると3億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続き、ロシア語と同じか、やや多いと言われています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。スペイン、メキシコ、キューバなど、どの国の方の間でもコミュニケーションには問題は生じません。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語基礎文法（口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音とアクセントの仕組み
- 2回 発音とアクセントの仕組み
- 3回 発音とアクセントの仕組み
- 4回 発音とアクセントの仕組み
- 5回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 6回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 7回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 8回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 9回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 10回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 11回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 12回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法。
- 13回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 14回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退学が見つかった場合は即座に失格とします。辞書については最初の講義で話しをします。電子辞書も奨めます。詳しく説明するので、辞書の購入は最初の講義まで待っててください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作るようなレベルまで進みます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編: 河出書房新社)
 スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著: 昭和堂)
 スペイン (増田監修: 新潮社)
 スペインの社会 (寿里、原編: 早稲田大学出版)
 スペインの政治 (川成、奥島編: 早稲田大学出版)
 スペインの経済 (戸門、原編: 早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法 (口ボ、大森、広康共訳: ピアソンエデュケーション)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 5回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 6回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 9回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 10回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 11回 従属節を含む文の理解。
- 12回 従属節を含む文の理解。
- 13回 スペイン語圏の国々について: 視聴覚教材を用いて
- 14回 スペイン語圏の国々について: 視聴覚教材を用いて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退室が見つかった場合は即座に失格とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易いので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音 アクセント、母音、子音
- 3回 発音 アクセント、二重子音
- 4回 挨拶、名詞の性・数
- 5回 冠詞、主格人称代名詞
- 6回 ser動詞、活用と用法
- 7回 ser動詞、疑問文・否定文
- 8回 estar動詞、活用と用法
- 9回 estar動詞とhay、疑問詞(1)
- 10回 ser/estar動詞と形容詞
- 11回 時刻の表現、疑問詞(2)
- 12回 -ar動詞
- 13回 主な前置詞、所有形容詞(前置形)
- 14回 -er / -ir 動詞、指示形容詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(エウヘニオ・テル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習、-ar / -er / -ir動詞
- 2回 直説法現在、1人称単数不規則動詞とその用法
- 3回 直接目的格人称代名詞、天候表現
- 4回 直説法現在、語幹母音変化動詞とその用法
- 5回 不定詞表現(1)、疑問詞(3)
- 6回 所有形容詞(後置形)
- 7回 直説法現在、不規則動詞とその用法
- 8回 不定詞表現(2)、感嘆文
- 9回 間接目的格人称代名詞
- 10回 動詞gustar、gustar型動詞
- 11回 再帰動詞
- 12回 比較級と最上級
- 13回 直説法現在完了
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直説法未来の活用と用法
- 2回 直説法条件未来の活用と用法
- 3回 直説法過去完了の活用と用法
- 4回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 5回 再帰動詞とは?
- 6回 再帰動詞の用法
- 7回 接続法とは何か
- 8回 接続法現在の活用
- 9回 接続法現在の用法
- 10回 命令形と命令法
- 11回 感嘆文
- 12回 比較級と最上級
- 13回 S Eの受身と無人称のS E
- 14回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主にスペインの歴史を織り込んだ中級程度の文章を読んで行きます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の講読部分。（持っていない人にはプリントを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキストの6課以降の講読・説明
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 直説法点過去(1)
- 3回 直説法点過去(2)
- 4回 直説法点過去(3)
- 5回 直説法線過去
- 6回 直説法点過去と直説法線過去、その用例
- 7回 現在分詞
- 8回 直説法未来
- 9回 直説法過去未来
- 10回 直説法過去完了
- 11回 接続法(1)
- 12回 命令形
- 13回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 14回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008) また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習
- 2回 接続法(2)
- 3回 関係詞
- 4回 DVDなどで会話練習
- 5回 会話練習
- 6回 接続法現在完了・過去・過去完了
- 7回 接続法まとめ
- 8回 受身文、感嘆文
- 9回 短編教材(DVDなど)と聞き取り
- 10回 短編教材(ラジオ、CDなど)と聞き取り
- 11回 短編教材(DVDなど)と会話練習
- 12回 スペイン語でDVDなどを見る(1)
- 13回 スペイン語でDVDなどを見る(2)
- 14回 スペイン語でDVDなどを見る(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での研究活動に必要な「プレゼンテーション力」を中心に、総合的な日本語運用能力の育成を目指します。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、さらに、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学びます。また、口頭発表の準備や練習をピア (仲間)で行うことによって、自律的に学ぶ体験をします。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 授業オリエンテーション
- ② ノートテイキング【メモ】【構成】
- ③ 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- ④ 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- ⑤ 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- ⑥ 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- ⑦ 「食料自給率」【データ比較】
- ⑧ 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- ⑨ プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】【構成】【表現】
- ⑩ クラスメイト紹介【他者紹介】
- ⑪ セルフチェック【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】【服装】
- ⑫ 施設紹介【視点コントロール】【サンドイッチ構成】
- ⑬ 案内状を作る【5W1H】
- ⑭ 日常生活で目にするものを説明する【比較】【マトリックス】
- ⑮ ポスター発表【ポスター発表】【ポスターの構成】
- ⑯ 1年間をふりかえる【時系列】【トピック】
- ⑰ まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 … 40% 発表・課題 … 40% 自己評価…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

レポートを作成することは学生にとっても、指導する教員にとっても挑戦的なことである。1篇の長いレポート(論証型)を作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成にいたる一連の過程を学ぶことを目標とする。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アカデミック・ジャパニーズ研究会『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1・2回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 3・4回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 5・6回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【練る】
- 7・8回 情報をカード化する【情報の信頼性】【調べる】
- 9・10回 目標を仮に規定する【情報の整理】【絞る】
- 11・12回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】【組み立てる】
- 13～16回 パラグラフライティング【中心文】【支持文】【説明文】【書く】
- 17～20回 文章を点検する【校正】【表現の点検】【形式の点検】
- 21～22回 レポートの完成【体裁】
- 23～24回 発表を準備する【レジュメの作成】【発表の練習】【発表の意義】
- 25～28回 発表する【話し手】【聞き手】
- 29・30回 学習プロセスを振り返り、自己評価する【自己評価】【振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(課題の提出を含む) ... 40% レポート・発表 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、学術論文を読むための基礎的な読解力を育成します。論理的な文章をピア(同僚の学習者)同士で読むことで、それぞれの学びから、論理的思考による理解が深まることを期待します。また、授業の半分を使って、学習者の自律を目指した個別対応型の「チュートリアル」を導入した授業をおこないます。学習者が自身の学習内容・方法・リソースを選択し、その選択に基づいて計画・実行・評価を行うことによって、自分の学習を自分自身で管理できる力を身に付けることを目的としています。

教科書 /Textbooks

アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語3論文読解編』アルク

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

産能短期大学『日本語を学ぶ人たちのための日本語を楽しく読む本中・上級』凡人社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「ピアラーニング」
- ①第I部 基本編 異文化適応【書き言葉】【和語】【漢語】
 - ②第I部 基本編 多様化の中のテレビ【論の展開①】【文の構造】
 - ③第I部 基本編 安全でおいしい水を飲むために【論の展開②】【未知語処理】【推測】
 - ④第I部 基本編 がん告知【要約】【慣用表現】【重要語句】
 - ⑤第II部 実践編 論文を読む①【全体構成】【序論】
 - ⑥第II部 実践編 論文を読む②【本論】
 - ⑦第II部 実践編 論文を読む③【副詞】
 - ⑧第II部 実践編 論文を読む④【結論】
 - ⑨第II部 実践編 論文を読む⑤総合練習
 - ⑩振り返る【自己評価】【他者評価】
- 「チュートリアル」
- ①現在の自分の状況を認識する【意識する】
 - ②実践する内容を具体的計画する【学習目標】【学習計画】【評価方法】【リソース】
 - ③実行する【学習管理】【修正】
 - ④振り返る【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 40% 発表・課題 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 T O T O のウオッシュレット開発
- 第5回 私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済 (1)
- 第12回 戦後日本経済 (2)
- 第13回 戦後日本経済 (3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「北九州市立大学の就職状況について」
- 第3回 洞海湾クルージング 小倉港 13 ; 00 集合
北九州市役所 16 ; 00 - 17 ; 00
- 第4回 「宮本武蔵の精神」
- 第5回 「日本の文化-本音と建前-」
- 第6回 「寿司作り実演を通じて日本文化を語る」
- 第7回 「日本の文化-洋間のある日本の家」
- 第8回 「私の青春時代-日伯に掛ける橋-」
- 第9回 今日の日本を取り巻く世界経済
- 第10回 「脳の科学-認識と行動」
- 第11回 憲法第9条と世界の軍備
- 第12回 「中国とはどんな国? - 留学体験から」
- 第13回 学長を囲んで大学のあり方についての意見交換
- 第14回 戸畑図書館長から見た日本の図書館
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究I【夜】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を、特に教育問題を中心とする内政面から検討する。戦後の大まかな動きを確認し、ブレア政権以降のイギリス社会がどのような状況にあるかを検討する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクダクシヨン【イギリス】
- 第2回 戦後イギリス社会に関する概説【福祉国家】
- 第3回 ブレア政権成立の背景【労働党】【サッチャー主義】
- 第4回 「階級社会」(1)【土曜の夜と日曜の朝】
- 第5回 「階級社会」(2)【労働者階級】
- 第6回 「階級社会」(3)【怒れる若者たち】【英国病】
- 第7回 ブレアの改革構想【国有化】【ヴォランティアリズム】
- 第8回 1997年以降のイギリス社会(1)【New Labour】【第三の道】
- 第9回 1997年以降のイギリス社会(2)【社会的公正】【グローバル化】
- 第10回 イギリスの社会政策(1)【市場経済】【雇用問題】
- 第11回 イギリスの社会政策(2)【包摂社会】【コミュニティ】
- 第12回 イギリスの教育政策(1)【1988年教育改革法】【Bridging the Gap】
- 第13回 イギリスの教育政策(2)【NEET】【社会的排除】
- 第14回 21世紀のイギリス社会とブレア改革【公共利益】【イギリス文化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究II【夜】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を特に外交面から検討する。具体的には、ブレア政権の大きな成果とされる北アイルランド紛争の實質的な終結とブレア政権の躓きの石となったイラク戦争をめぐるイギリス社会・世論の動向について、考察を進める

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン【イギリス】【アイルランド】
- 第2回 北アイルランド問題の起源(1)【ナショナリズム】【独立戦争】
- 第3回 北アイルランド問題の起源(2)【アイルランド内戦】【デヴァレラ】
- 第4回 イギリス社会と北アイルランド紛争【公民権運動】【IRA】
- 第5回 北アイルランド和平の展開とイギリス(1)【グッドフライデー合意】【権限委譲】
- 第6回 北アイルランド和平の展開とイギリス(2)【武装放棄】【自治政府】
- 第7回 アイルランド社会の現在【経済成長】【グローバル化】
- 第8回 「帝国」喪失後のイギリス対外政策【帝国】【植民地】
- 第9回 ブレアの対外政策とイギリス社会の変化【欧州統合】【戦略防衛見直し】
- 第10回 コソヴォ紛争とイギリス社会【人権】【旧ユーゴ】
- 第11回 9・11以降のイギリス社会【アメリカ】【英米関係】
- 第12回 イギリス社会とイラク戦争(1)【イラク戦争】【世論】
- 第13回 イギリス社会とイラク戦争(2)【ケリー事件】【ハットン委員会】
- 第14回 21世紀のイギリス社会と対外関係【帝国意識】【イギリス文化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交I【夜】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための基礎知識を習得する。授業では、中国の近現代史を政治的観点から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書 /Textbooks

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 中国概観～中華民族の偉大な復興
- 3回 エリート革命から人民戦争へ
- 4回 揺れる新国家建設
- 5回 中国独自の社会主義への挑戦
- 6回 プロレタリア文化大革命
- 7回 革命と近代化の確執
- 8回 改革開放・近代化へ邁進
- 9回 六四事件
- 10回 毛沢東と鄧小平
- 11回 大国化する中国の光と影
- 12回 21世紀中国～毛沢東と鄧小平を超えて
- 13回 中国の政治経済構造の構築と変化
- 14回 社会主義市場経済の帰結
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交II【夜】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の外交政策・対外関係・香港台湾の位置づけについて史的・総合的に学ぶ。国内政治・政策の変化あるいは国際環境の変化が中国外交に与えた影響について、主要国との二国間関係を中心に検討する。また、国共内戦後の中華民国の歩みと民主化について解説し、中台関係について考える。

教科書 /Textbooks

授業中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡部達味『中国の対外戦略』東京大学出版会、2002年
その他、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～文献紹介と授業の進め方
- 2回 中国の外交方針と国内政治
- 3回 中国外交と国際環境の変化
- 4回 日中関係I
- 5回 日中関係II
- 6回 米中関係I
- 7回 米中関係II
- 8回 台湾と中華民国～蒋介石時代
- 9回 台湾と中華民国～民主化へ
- 10回 台湾問題と米中関係
- 11回 香港・東南アジアと中国
- 12回 ロシア・中央アジアと中国
- 13回 WTOと中国
- 14回 大国外交
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交I【夜】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、冷戦後の韓国・北朝鮮と日本との関係について理解を深める。日韓関係に関しては、主に、靖国問題、従軍慰安婦問題、強制連行問題、教科書問題などの歴史問題について検討し、日朝関係に関しては、国交正常化問題、拉致問題、安全保障問題について検討する。尚、北朝鮮の大量破壊兵器開発問題に関しては、「韓国・北朝鮮の政治外交II」で更に詳しく検討する。

教科書 /Textbooks

内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社、2002年
姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○高橋哲哉『靖国問題』筑摩書房<ちくま新書>、2005年。その他、随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。朝鮮半島と日本との近現代史の概要①
- 2回 朝鮮半島と日本との近現代史の概要②
- 3回 朝鮮半島と日本との近現代史の概要③
- 4回 冷戦後の日韓関係①：日韓関係の概要
- 5回 冷戦後の日韓関係②：歴史問題①：概要(強制連行問題など)
- 6回 冷戦後の日韓関係③：歴史問題②：従軍慰安婦問題①
- 7回 冷戦後の日韓関係④：歴史問題③：従軍慰安婦問題②
- 8回 冷戦後の日韓関係⑤：歴史問題④：日韓交渉の記録開示からの考察①
- 9回 冷戦後の日韓関係⑥：歴史問題⑤：日韓交渉の記録開示からの考察②
- 10回 冷戦後の日朝関係①：日朝関係の概要
- 11回 冷戦後の日朝関係②：国交正常化交渉の始まりと中断(拉致問題、核問題との関係)
- 12回 冷戦後の日朝関係③：日朝首脳会談
- 13回 冷戦後の日朝関係④：核問題の再燃と拉致問題を巡る日朝関係の悪化
- 14回 冷戦後の日朝関係⑤：日朝関係改善の方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。
詳細は第1回授業で説明。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交II【夜】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、冷戦後本格化した北朝鮮の核兵器や弾道ミサイルなどの大量破壊兵器開発問題に焦点を当て、その背景と、日韓米中露の対応とその問題点を検討し、この問題についての理解を深めるとともに、北東アジアの国際政治についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

○リッツ・ピース・メッセンジャーズ『北朝鮮の核実験をどう見るか』かもがわ出版、2006年
姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ドン・オーバードーフアー『二つのコリア：国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2002年
○船橋洋一『ザ・ペニンシュラ・クエスチョン：朝鮮半島第二次核危機』朝日新聞社、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。北朝鮮の核開発問題の概要
- 2回 冷戦の終焉と韓国・北朝鮮の国際関係の変化
- 3回 北朝鮮の核開発とミサイル開発問題(第1次核危機の発生)
- 4回 核危機の収束：米朝枠組み合意
- 5回 南北関係と日朝関係の改善：南北首脳会談、日朝首脳会談
- 6回 北朝鮮の核開発問題の再燃(第2次核危機)
- 7回 6カ国協議の始まり
- 8回 米朝対立の悪化と北朝鮮の核実験
- 9回 6カ国協議の進展と中断
- 10回 オバマ政権と第2回目の核実験
- 11回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応①
- 12回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応②
- 13回 北朝鮮の核・ミサイル問題への日本の対応③
- 14回 北朝鮮の核・ミサイル問題の解決方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。
その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論I【夜】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

毎時のニュースで外国為替市場が報道されているのは、「貿易立国」である日本に暮らす私たちの生活にとって重要性が高いことを表していますが、こうした状況はいつごろから、そしてなぜ生じたのでしょうか。この問題は経済問題であると同時に非常に重要な国際政治の争点でもあります。この授業では、ブレトンウッズ体制を中心とする国際経済体制の構築とその変化を中心に検討し、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について理解を深めると同時に、関連する理論について学習します。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、各週の授業内容および参考文献については初回の授業時に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門(第3版)』有斐閣、2007年。
- 飯田敬輔『国際政治経済(シリーズ国際関係論3)』東京大学出版会、2007年。
- 田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際政治経済学とは【政治】、【市場メカニズム】
- 2回 リベラリズム【古典的リベラリズム】、【ロック】、【カント】
- 3回 ブレトンウッズ体制【埋め込まれた自由主義】、【流動性のジレンマ】【ニクソン・ショック】
- 4回 変動相場制【国際金融のトリレンマ】、【プラザ合意】、【通貨危機】
- 5回 リアリズムと国際貿易体制【重商主義】、【保護主義】、【GATT】
- 6回 WTO体制【サービス貿易】、【紛争解決】
- 7回 貿易摩擦と保護主義【通商法301条】、【公正貿易】、【戦略的貿易政策】
- 8回 中間レビュー
- 9回 国際秩序と経済(1)【覇権安定論】
- 10回 国際秩序と経済(2)【国際レジーム】、【パワー】
- 11回 欧州地域統合(1)【シューマン・プラン】、【超国家主義】、【連邦主義】、【EC】
- 12回 欧州地域統合(2)【EU】、【東方拡大】
- 13回 欧州地域統合(3)【欧州連合条約改正】
- 14回 国際統合理論【機能主義】、【新機能主義】、【トランスナショナルリズム】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献を講読した上で授業に参加すること。「国際政治経済論II」(2学期)も履修すると、国際政治経済学についてより包括的な学習ができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論II 【夜】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際政治経済の主要な理論について、それぞれの理論における異なる世界観、国際問題のとらえ方、問題の位置付けなどを中心に学習します。加えて、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について学習することで、政治(国家)と経済(市場)の相互作用についての理解を深めることをねらいとします。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、各週の授業内容および参考文献については初回の授業時に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門(第3版)』有斐閣、2007年。
- 飯田敬輔『国際政治経済(シリーズ国際関係論3)』東京大学出版会、2007年。
- 田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域レベルでの経済協力:北米【NAFTA】
- 2回 地域レベルでの経済協力:アジア【APEC】
- 3回 日本の貿易政策【FTA】、【EPA】
- 4回 地球環境問題(1)地球環境レジーム【ストックホルム会議】、【リオ会議】
- 5回 地球環境問題(2)気候変動問題【気候変動枠組条約】、【京都議定書】、【京都メカニズム】
- 6回 リベラリズム【国際レジーム論】、【ネオ・リベラル制度論】、【グローバル・ガバナンス】
- 7回 中間レビュー
- 8回 南北問題の展開【近代化論】、【新国際経済秩序(NIEO)】
- 9回 経済発展と政治体制(1)【権威主義体制】、【開発独裁】
- 10回 累積債務問題【債務繰り延べ】、【DSR】、【構造調整貸付】
- 11回 貧困問題【絶対的貧困】、【ミレニアム開発目標】
- 12回 経済発展と政治体制(2)【政経不可分論】、【ガバナンス】
- 13回 経済発展とマルクス主義【従属論】、【世界システム論】
- 14回 社会構成主義【相互構築性】、【社会化】、【社会構造】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国際政治経済論I」を受講していると、内容理解がより深まり、包括的な学習ができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【夜】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助(O DA)の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序(NIEO)】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第10回 開発援助の新潮流【人間開発】、【社会開発】
- 第11回 人間開発概念の発展【人間の安全保障】、【保護する責任】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み【無償資金協力】、【有償資金協力】、【技術協力】
- 第14回 日本のODAの理念と世界との比較【ODA大綱】、【自助努力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第2次世界大戦後の歴史について復習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論II 【夜】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。紛争予防を目的として、どのような活動がどのような主体によって行われているのか、効果的な紛争予防策はあるのかなどについて、具体的な事例をもとに学習します。

教科書 /Textbooks

メアリー・アンダーソン『諸刃の援助』明石書店、2006年。
大平剛『国連開発援助の変容と国際政治』有信堂高文社、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東大作『平和構築』岩波新書、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 冷戦終結の影響【民主的平和】、【国内紛争】、【アイデンティティ・ポリティックス】
- 第2回 PKOの変容と限界【平和執行型PKO】、【予防展開】
- 第3回 「予防の文化」と平和構築アプローチ【予防開発】、【紛争サイクル】
- 第4回 平和構築と人道・開発援助活動の拡大【紛争分析手法】、【構造的要因】、【引き金要因】
- 第5回 「保護する責任」(総論)【人道的介入】
- 第6回 「保護する責任」(各論)【脆弱国家】、【早期警報】
- 第7回 安全保障部門改革(SSR)と武装解除、動員解除、兵士の社会復帰(DDR)【SSR】、【DDR】
- 第8回 東ティモールとアフガニスタンの事例検証：SSRとDDRの具体的な事例
- 第9回 国際開発援助レジームの変容【援助協調】、【援助の調和化】
- 第10回 復興援助と条件付け【ピース・コンディショナリティ】
- 第11回 Do No Harm原則①【平和へと向かう現地の力】、【戦争へと向かう現地の力】
- 第12回 Do No Harm原則②【コネクター】、【ディバイダー】
- 第13回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ①
- 第14回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力論Iを履修していれば、本講義の理解に役立ちます。国際協力論Iが基礎的な事項を学習するのに対して、国際協力論IIはより実践的な内容となっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際人権論 【夜】

専門教育科目
専門科目
B群(国際関係科目)

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の権利にはどのようなものがあり、かつ、それらはいかにして保護されるべきなのか。現代の国際社会においては、各国家が個別にこの問いに応えればよいというわけではない。講義では、国際関係論や国際法学の視点を取り入れつつ、人権に関する規範と制度がどのように形成されているのかを学習する。

教科書 /Textbooks

松井芳郎・薬師寺公夫・坂元茂樹・小畑郁・徳川信治編『国際人権条約・宣言集(第3版)』、東信堂、2005年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

阿部浩己、今井直、藤本俊明『テキストブック国際人権法(第3版)』日本評論社、2002年。
バーゲンソル(小寺初世子訳)『国際人権法入門』東信堂、1999年。ほか、講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 人権概念の出現と展開【近代国家】【啓蒙思想】【第1世代～第3世代の人権】
- 3回 国際連盟と人権の規範【労働者の権利】【人民自決と国際社会】
- 4回 国際連合における人権の規範と制度(1)【世界人権宣言】
- 5回 国際連合における人権の規範と制度(2)【国連自由権規約】【国連社会権規約】
- 6回 地域的国際機構による人権保護への対応(1)【欧州安保協力機構】
【東南アジア諸国連合】
- 7回 地域的国際機構による人権保護への対応(2)【欧州審議会】【欧州人権条約】
- 8回 経済統合と人権保障のメカニズム(1)【EU法の優位性】
- 9回 経済統合と人権保障のメカニズム(2)【EU基本権憲章】
- 10回 現代世界と国際人権(1)死刑制度の存廃【自由権規約議定書】【欧州人権条約議定書】
- 11回 現代世界と国際人権(2)経済開発と人権【コンディショナリティ】【「アジア的」価値】
- 12回 現代世界と国際人権(3)「人道的」介入【ソマリア】【ユーゴスラビア紛争】
- 13回 現代世界と国際人権(4)「テロとの戦い」と人権保護【不正規移送】【拷問】
- 14回 現代世界と国際人権(5)近代国家体制と人権【国家主権】【リアリズム】【規範】
【NGOs】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(数回の予定)...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法A 【夜】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 2年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題、人権問題など、さまざまな国際的問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考し、自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベートを行う技術をさらに磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

『Debating Current Issues』 Toru Nishimoto Beryl Hawkins著 (Seibido) ¥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

第1回オリエンテーション(テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)

第2回Chapter 1: Cell Phones のディベート

第3回Chapter 2: Student Evaluations

第4回Chapter 3: The Gender Gap

第5回Chapter 4: Japanese Manga and Anime

第6回Chapter 5: Global Food Shortage

第7回Chapter 6: The Oil Crisis

第8回Chapter 7: The True Spirit of the Olympics

第9回Chapter 8: Global Population Growth

第10回Chapter 9: Robots

第11回Chapter 10: The Internet

第12回Chapter 11: New York Styles

第13回Chapter 12: Handling Stress

第14回ディベート及びプレゼンテーションのフィードバック

第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法B 【夜】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題、人権問題など、さまざまな国際的問題に目を向け、多角的な視点から論理的に思考し、自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベートを行う技術をさらに磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

『Debating the Issues』 Hideki Motegi / Stephen Hesse, Denji Suzuki 著 (Macmillan Languagehouse) ¥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

第1回オリエンテーション(テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)

第2回Chapter 1: Second Language or Foreign Language?のディベ

第3回Chapter 2: A Traditional or Trendy Lifestyle?

第4回Chapter 3: Love or Arranged Marriage?

第5回Chapter 4: Discipline or Abuse?

第6回Chapter 5: Right to Life or Right to Choose?

第7回Chapter 7: Right to Die or Duty to Live?

第8回Chapter 8: Life Imprisonment or Death Penalty?

第9回Chapter 9: Judges or Jury?

第10回Chapter 10: Human Organs or Animal Organs

第11回Chapter 11: Surrogate Mothers or Natural Mothers

第12回Chapter 14: GM Food: Should it be allowed?

第13回Chapter 15: Health Care: Should it be free everyone?

第14回ディベート及びプレゼンテーションのフィードバック

第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、 学期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト以外に、授業には英和・和英・英英辞典を持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Realatitions imajors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale / James C. Wolf / Person Longman著 Third Edition

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回Delivering Your Message
- 第3回Putting Your Speech Together
- 第4回Speech - Self-Introduction - Outlining and Writing
- 第5回Speech - Self-Introduction - Delivery
- 第6回Speech - A Personal Experience - Delivery
- 第7回Speech - A Meaningful Object - Delivery
- 第8回Speech - A Specific Fear - Delivery
- 第9回Speech - A Personal Opinion - Delivery
- 第10回Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第11回Delivery - 1
- 第12回Speaking to Inform - Outlining and Writing
- 第13回Delivery - 2
- 第14回Delivery - 3
- 第15回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メモリースティックを別途用意すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Realatitions imajors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale / James C. Wolf / Person Longman著 Third Edition

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Course and Introductions
- 第2回Intorduction to Persuasive Speaking
- 第3回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第4回Dilivery - 1
- 第5回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第6回Delivery - 2
- 第7回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第8回Delivery - 3
- 第9回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第10回Delivery - 4
- 第11回Persuasive Speech - Outling and Writing
- 第12回Delivery - 5
- 第13回Symposium - Outling and Writing
- 第14回Delivery
- 第15回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メモリースティックを別途用意しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【夜】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to teach students how to write a 2,500 word academic essay in English. Essay topics must be drawn from within the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Keith Folse, 'From Great Paragraphs to Great Essays' 2nd edition. (Heinle Cengage).
Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are prefer

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

able. Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Understanding the Writing Proce
- 2 回 Introduction to Paragraphs 1: Topic, Supporting, & Concluding Sentences
- 3 回 Introduction to Paragraphs 2: Clarity, Coherence, Unity
- 4 回 Paragraph Types 1: Descriptive
- 5 回 Paragraph Types 2: Comparison
- 6 回 Paragraph Types 3: Cause-Effect
- 7 回 Paragraph Types 4: Classification
- 8 回 Using Citations & Avoiding Plagiarism
- 9 回 From Paragraph to Essay: Descriptive Essays I - Outlining
- 10 回 From Paragraph to Essay: Descriptive Essays II - Peer Feedback
- 11 回 From Paragraph to Essay: Comparison Essays I - Organization
- 12 回 From Paragraph to Essay: Comparison Essays II - Connectors & Transitions
- 13 回 From Paragraph to Essay: Cause-Effect Essays I - Organization
- 14 回 From Paragraph to Essay: Cause-Effect Essays II - Connectors & Transitions
- 15 回 From Paragraph to Essay: Classification Essays

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25% Assigned homework essays 60% Class Performance 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法II 【夜】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 3年夜間主 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic essay in English. Essay topics must be drawn from the field of International Relations.

教科書 /Textbooks
David E. Kluge & Matthew A. Taylor 'Basic Steps to Writing Research Papers' (Cengage)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions from the teacher and the students.
- 2 回 How to use connecting words to make smooth, logical transitions; good transition words & phrases within paragraphs
- 3 回 How to use connecting words to make smooth, logical transitions: good transition sentences between major ideas & sections.
- 4 回 How to use connecting words to make smooth, logical transitions: words & expressions NOT to use.
- 5 回 Writing paragraphs: standard as well as creative, original ones – combining phrases & shortsentences
- 6 回 Writing paragraphs: standard as well as creative-original ones – changing dry, boring paragraphs by upgrading vocabulary and creating a more vibrant, interesting, and sparkling “word painting” (teacher-prepared examples)
- 7 回 Writing for clarity in essay conclusions: avoiding vague, general statements
- 8 回 Writing for clarity in essay conclusions: restating your thesis statement so as to present your main points again in stronger language supported by – as one example – a powerful quotation
- 9 回 Mid-semester test: finding errors & suggesting improvements in a teacher-prepared essay.
- 1 0 回 Reviewing the mid-semester test
- 1 1 回 Research techniques
- 1 2 回 Citing and crediting others' works; using citations & footnotes (or endnotes)
- 1 3 回 Citing and crediting others' works: paraphrasing & summarizing, and connecting All “borrowed” material to the bibliography
- 1 4 回 Combining different sources without plagiarizing.
- 1 5 回 Good vs. Bad – comparing and contrasting essays.

成績評価の方法 /Assessment Method
Mid-semester test 0% Assigned homework essays 20%
Class performance 1% Final exam (or project) 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【夜】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks
No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and course objectives
- 2回 Cultural issues in the world
- 3回 Research of cultural issues
- 4回 Expansion of cultural issues
- 5回 Consolidation of cultural issues
- 6回 First group: Presentation and discussion
- 7回 Second Group: Presentation and discussion
- 8回 Analysis and Advice
- 9回 Environmental issues in the world
- 10回 Research of environmental issues
- 11回 Expansion of environmental issues
- 12回 Consolidation of environmental issues
- 13回 Third Group: Presentation and discussion
- 14回 Fourth Group: Presentation and discussion
- 15回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method
class participation 40%, presentations 40%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【夜】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年夜間主

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and course objectives
- 2回 Social issues in the world
- 3回 Start to research social issues
- 4回 Expansion of social issues
- 5回 Consolidation of social issues
- 6回 First Group: Presentation and Discussion
- 7回 Second Group: Presentation and Discussion
- 8回 Analysis and Advice
- 9回 Political issues in the world
- 10回 Research of political issues
- 11回 Expansion of political issues
- 12回 Consolidation of political issues
- 13回 Third Group: Presentation and Discussion
- 14回 Fourth Group: Presentation and Discussion
- 15回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, presentations 40%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係史II 【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近現代史をテキストに沿って概観し、東アジア地域史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在の対話」と言われるが、実は「過去と将来の対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』高文研、2005（1600円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○歴史教育者協議会編『東アジア世界と日本-日本・朝鮮・中国関係史』青木書店、2004

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のねらい、アプローチなどの紹介【東アジア】【地域史】
- 2回 序章「開港以前の3国」【比較社会史】【比較思想史】
- 3回 第1章第1節「欧米列強の圧力と3国の対応」【近代】【近代化】【開港・開国】
- 4回 第1章第2節「東アジアを巻き込んだ戦争」【戦争】【植民地主義】
- 5回 第1章第3節「3国の改革運動」【自由民権】【文明開化】【開化】【洋務】
- 6回 第2章第1節「第一次世界大戦前後の3国」【帝国主義】【アジア主義】【抵抗】
- 7回 第2章第2節「日本の朝鮮支配の強化」【植民地支配】【植民地的近代】
- 8回 第2章第3節「独立・抵抗の運動と社会運動」【独立運動】【抑圧】【協力】
- 9回 第3章第1節「日本の中国東北地方への侵略」【侵略戦争】【民衆】【被害】
- 10回 第3章第2節「日本の侵略戦争」【日中戦争】【大東亜共栄圏】【総力戦体制】
- 11回 第3章第6節「日本の侵略戦争の失敗」【抗日戦争】
- 12回 第4章第1節「3国の新しい出発」【戦後改革】【開放と分断】【中国内戦】
- 13回 第4章第2節「問われる日本の『過去の清算』」【講和】【賠償・補償問題】
- 14回 終章「21世紀の東アジアの平和のための課題」【歴史克服】【和解】【東アジア共同体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

東アジア三国の近現代史の関連文献を自主的に調べて読むこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の前半3分の2は、東南アジア地域研究において大きな影響を与えた日本語文献(20ページ程度の論文)を輪読する。その中で、東南アジアに関して自分がどのようなテーマに関心を持ってそうかを考える。授業の後半3分の1は、各自がどのようなテーマに関心を持っているか明確化し、それを深めるのに必要な文献リストを作成し、報告する。

教科書 /Textbooks

開講時に指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回~10回 テキスト輪読・討論
- 11回~14回 各自の関心テーマと文献リスト報告
- 15回 まとめ

東南アジアを扱う論文であっても、そこで模索されているのが研究者個人の生き方にかかわるテーマであったり、論文が書かれた時代に広く認識されていた問題に対する自分なりのかかわり方であったりすることが多い。そうした背景を深読みしながら、個々の論文に取り組んでほしい。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %
報告担当者が、正当な理由もなく欠席した場合、単位はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

夏休み期間に、作成した文献リストの中から何本かを選んで読み(読む本数は授業中に指示)、ブックレポートを作成する。その時点で、自分の関心・興味を再度確認し、それを深めるのに必要な文献リストを作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際関係を理解するうえで不可欠と思われる国際機構の活動に着目して、それが設置される背景、目的、組織、意思決定方式、活動実態、成果および課題を研究する。そのために、第1に、テキストの購読を通じて、国際機構に対する共通理解を深める。第2に、小論文の執筆計画を立案する。

演習において主に着目する機構は、広範な加盟国と活動領域をもつ国際連合である。加えて、加盟国は限定的であるものの、超国家的な性格を色濃く帯びるEUである。これら以外の機構を小論文の対象とすることは可能であるが、その場合でも、国連とEUに関する知識を習得する必要がある。なお、小論文の執筆したいは専門演習IIの範囲に含まれる。

教科書 /Textbooks

P. ケネディ『人類の議会』（上・下）日本経済新聞社出版社・2007年。
各自で購入のこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 はじめに
2回～14回 テキストの輪読および新聞記事紹介
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の準備および参加状況... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・本演習の履修に向けて有益であると思われる文献を、開講までにできるかぎり収集し、購読し、かつその内容をノートしておくこと。
- ・「国際機構論I」「国際機構論II」の双方を履修することが望ましい。
- ・質問、不明点があれば、とりいそぎ電子メールで受け付ける。メールアドレスは、国際関係学科ホームページやオフィスアワー一覧に掲載されている。メールの場合は、その表題に「専門演習について質問」と記載すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東南アジアに関し、自らの関心・興味に基づいて専門演習I及び夏休み中に作成した文献リストから文献を選び、それについて報告する。その中で、卒業論文で取り上げるテーマを絞っていく。

教科書 /Textbooks

報告者の関心に沿った文献。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 各自の関心テーマに即した報告
15回 まとめ

夏休み中に、しっかり文献を読み、文献リストを作成しておくこと。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %
報告担当者が、正当な理由もなく欠席した場合、単位はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2学期終了時に、ゼミ論を提出する。ゼミ論では、専門演習I及びIIを通じて読んだ文献をもう一度振り返りながら、自分が何に関心・興味を持ち、それについてすでにどこまで研究が進んでおり、何がわかっていないのかを中心にまとめてもらう。そのための頭の整理の場として、ゼミを活用してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際関係を理解するうえで不可欠と思われる国際機構の活動に着目して、それが設置される背景、目的、組織、意思決定方式、活動実態、成果および課題を研究する。そのために、各自の関心にそって研究報告を行ないつつ、小論文を作成する。演習において主に着目する機構は、広範な加盟国と活動領域をもつ国際連合である。加えて、加盟国は限定的であるものの、超国家的な性格を色濃く帯びるEUである。これら以外の機構を小論文の対象とすることは可能であるが、その場合でも、国連とEUに関する知識を習得する必要がある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回～13回 小論文の中間報告、新聞記事紹介など
- 14回(予定) 小論文の提出
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の準備および参加状況... 70% 小論文... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 本演習の履修に向けて有益であると思われる文献を、開講までにできるかぎり収集し、購読し、かつその内容をノートしておくこと。
- ・ 「国際機構論」「国際機構論II」の双方を履修することが望ましい。
- ・ 質問、不明点があれば、とりいそぎ電子メールで受け付ける。メールアドレスは、国際関係学科ホームページやオフィスアワー一覧に掲載されている。メールの場合は、その表題に「専門演習について質問」と記載すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文学概論I【夜】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学に現れる幾つかのテーマやトピックの中から毎時間一つを選んで取り上げ、そのテーマに沿ったアメリカ文学の様々な作品を鑑賞する。また、それらの作品が登場した歴史的社会的背景を学ぶことで、「アメリカ」という国家の概念が時代によってどのように変容してきたのか、アメリカ作家たちがそれをどう捉え、作品化してきたかを考える。受講者はできるだけ作品に触れ、外国作品を読む楽しみを味わうとともに、英米文化についてより深い教養を身に付けることを目指してもらいたい

教科書 /Textbooks

『新版 アメリカ文学史-コロナルからポストコロナルまで』 別府恵子 / 渡辺和子編
ミネルヴァ書房 ¥3,000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『21世紀から見るアメリカ文学史-アメリカニズムの変容』 早瀬博範 / 吉崎邦子編 英宝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (テキスト、成績評価の方法、参考図書などの説明)
- 2回 アメリカ文学史の全体像とアメリカ文学の特質
- 3回 植民地時代の文学
- 4回 西部開拓とフロンティア精神
- 5回 ユートピア建設と楽園思想
- 6回 ローカル・カラーとリアリズム
- 7回 アメリカン・ドリームの光と影
- 8回 南部と奴隷制問題
- 9回 モダニズムとロスト・ジェネレーション
- 10回 都市の文学
- 11回 アメリカ演劇の世界
- 12回 女性解放とジェンダー・ポリティクス
- 13回 ポストモダニズムと大衆文化
- 14回 エスニシティと多文化主義
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出を含む) ...50% 学期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文学概論II 【夜】

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

美術や音楽の歴史、社会のあり方などからめながら、イギリスの文学史を概観する。代表的な短編小説や長編小説を精読・通読することによって、文学の鑑賞の仕方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『20世紀イギリス短篇選(上)』小野寺健編訳(岩波文庫)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1 - 2回 英語の歴史とキリスト教
- 第3 - 5回 ルネサンス絵画と演劇の勃興—シェイクスピア『ロミオとジュリエット』(1597)
- 第6 - 7回 資本主義とリアリズム小説の勃興—デフォー『ロビンソン・クルーソー』(1719)
- 第8回 オランダ写実派絵画とリアリズム小説の隆盛—G・エリオット『アダム・ビード』(1859)
- 第9回 植民地とイギリス小説—ラドヤード・キプリング「船路の果て」(1890)
- 第10回 第1次世界大戦とイギリス小説—D.H.ロレンス「指ぬぎ」(1915)
- 第11回 印象派の音楽・絵画とモダニズム小説—バージニア・ウルフ「キュー植物園」(1919)
- 第12回 風俗小説の伝統—サマセット・モーム「ルイズ」(1925)
- 第13回 第2次世界大戦とイギリス小説—エリザベス・ボウエン「幽鬼の恋人」(1941)
- 第14回 ロック音楽と「怒れる若者たち」の小説—アラン・シリトー「長距離走者の孤独」(1959)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および課題提出により評価する。試験は行わない。

課題 (1) 毎授業時ごとの感想の提出および小課題(授業時に指示)の提出

(2) 参考文献(授業時に指示)のうちどれか1冊について、章ごとにあらずじ6〜10行程度および簡単なコメント(各章について)を書いて提出。

全出席および(1),(2)の課題を全部提出した者にB評価を与える(内容が良ければA)。

参考文献2冊について(2)の課題を行った場合や、課題作品について自由レポートを提出した場合には、評価を1段階高くする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ごとに授業の感想を提出してもらう。学期中に10〜12回程度課す小課題を提出してもらう(テキストの課題作品や課題プリントを読んだの感想など)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究 (音声学・音韻論) 【夜】

担当者名 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。
英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい英語の音声について明らかにする。

教科書 /Textbooks

堀口俊一監修、加賀屋弘司、矢田裕士、野田哲雄著 『現代英語音声学』 英潮社ファニックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてプリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA
- 2回 発声メカニズム、母音の種類(1)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音
- 5回 子音の種類(2)摩擦音
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢
- 9回 音の縮小、同時調音
- 10回 リズム
- 11回 イントネーション(1)
- 12回 イントネーション(2)
- 13回 音響音声学
- 14回 音変化
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、提出物 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープおよびUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【夜】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、条約集が必要（出版社は問わない）。
講義は講師作成のレジュメ配布を予定している

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長谷川正国（訳）『現代国際法入門』（成文堂、1999年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 紛争社会としての国際社会【国内社会と国際社会】
- 2回 国際紛争の解決方法の歴史I【正戦論】【中立】【不戦条約】
- 3回 国際紛争の解決方法の歴史II【憲章第2条4項】【自衛権】【司法的解決手続】
- 4回 国際裁判制度I【国際司法裁判所】【選択条項】【仮保全措置】
- 5回 国際裁判制度II【国際海洋法裁判所】【みなみマグロ事件】
- 6回 国際法の法源I【ICJ規程第38条】【慣習国際法】【条約】
- 7回 国際法の法源II【法の一般原則】【衡平と善】
- 8回 国際責任I【国際責任の発生】【国際責任の解除】
- 9回 国際責任II【外交的保護】【対抗措置】【無過失責任主義】
- 10回 国際責任III【国際責任の限界】【事例研究】
- 11回 条約法I【重大な違反】【不遵守手続】【条約の無効】
- 12回 条約法II【条約の批准と承認】【国会承認条約】【条約の自動執行性】
- 13回 条約法III【条約の国内実施】【一元論と二元論】
- 14回 法システムとしての国際法【合意原則としての国際法】【慣習国際法の形成】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校までの日本史や世界史の知識を前提とします。憲法・民法・刑法についての知識があるとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然科学のまなざし【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代において生命科学は広く社会に浸透・貢献しているとともに、遺伝子操作や生命操作等、生命倫理に新たな問題を投げかけている。本講では「生命科学と現代社会」をテーマとし、生命科学についての基礎教養を身につけるとともに、研究をとりまく社会や文化背景についての知識を身につけ、将来に向けた研究のあり方・考え方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 私たちの生活と遺伝子【遺伝】、【遺伝子】、【DNA】
 - 2回 生物の基本単位【細胞】、【核】
 - 3回 生命の誕生【ウイルス】、【DNA】、【進化】
 - 4回 遺伝子と染色体【細胞分裂】、【遺伝】、【ゲノム】
 - 5回 遺伝子の発見と研究の歴史(1)【DNA】、【RNA】、【タンパク質】
 - 6回 遺伝子の発見と研究の歴史(2)【転写】、【翻訳】
 - 7回 遺伝子操作の原理【遺伝子操作】
 - 8回 遺伝子と生命操作【ES細胞】、【iPS細胞】
 - 9回 医療分野における貢献(1)【がん】、【免疫】
 - 10回 医療分野における貢献(2)【生活習慣病】、【老化】
 - 11回 遺伝子と個人情報【DNA鑑定】、【遺伝子診断】
 - 12回 産業分野における貢献【遺伝子組換え作物】
 - 13回 生命観と生命科学研究【クローン胚】、【倫理】
 - 14回 娯楽作品にみる生命科学【映画】、【小説】、【クローン人間】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【夜】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシシン.....史上最強の毒物【ダイオキシシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学・心理士の立場から、発達障害リスク児への地域支援について考える。発達障害リスク児の早期スクリーニングとその後の療育的支援・就学移行支援について、行政・医療・教育・福祉・心理などの専門家と子ども本人やその家族が一緒になって地域支援体制を整えてきた具体例を参考に、発達障害リスク児に対する乳児期から小学校への移行支援について“地域で支える”地域連携の視点も踏まえて検討する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大神英裕(2008)『発達障害の早期支援 研究と実践を紡ぐ新しい地域連携』ミネルヴァ書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 早期幼児特別支援教育を巡る施策と研究の動向
- 第3回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(1)
- 第4回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(2)
- 第5回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(1)
- 第6回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(2)
- 第7回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(1)
- 第8回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(2)
- 第9回 : 発達障害リスク児の早期支援(1)
- 第10回 : 発達障害リスク児の早期支援(2)
- 第11回 : 発達障害リスク児の早期支援(3)
- 第12回 : 小学校への移行支援(1)
- 第13回 : 小学校への移行支援(2)
- 第14回 : 移行支援における地域連携の重要性と課題
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
- 第2回~第8回 「正義」の応用問題 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
- 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
- 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名
/Instructor

山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後
期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ | 【ボックス・モンゴリカ】 |
| 2回 中世ヨーロッパの世界観 | 【プレスター・ジョン】 |
| 3回 イベリア諸国の形成 | 【レコンキスタ】 |
| 4回 「中世の危機」とポルトガル | 【アヴィス朝革命】 |
| 5回 大航海時代と「世界分割」 | 【トルデシリャス条約】 |
| 6回 ポルトガルのアジア進出 | 【アルブケルケ】 |
| 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成① | 【点と線の支配】 |
| 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成② | 【南蛮貿易】 |
| 9回 スペインによる植民地帝国の形成① | 【エンコミエンダ制】 |
| 10回 スペインによる植民地帝国の形成② | 【ポトシ】 |
| 11回 オランダ、イギリスの台頭 | 【東インド会社】 |
| 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編 | 【三角貿易】 |
| 13回 環大西洋世界の展開① | 【環大西洋革命】 |
| 14回 環大西洋世界の展開② | 【産業革命】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解読』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Picture Questions Reading
- 2回 Picture Questions Reading
- 3回 Picture Questions Reading
- 4回 Question-Response Reading
- 5回 Question-Response Reading
- 6回 Question-Response Reading
- 7回 Short Conversations Reading
- 8回 Short Conversations Reading
- 9回 Short Conversations Reading
- 10回 Short Conversations Reading
- 11回 Short Talks Reading
- 12回 Short Talks Reading
- 13回 Short Talks Reading
- 14回 Short Talks Reading
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will be handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Under the Blossoms By Kaori Shoji
- "
- 第3回 "Essay - 2 The Edo Spirit By Kaori Shoji
- "
- 第4回 "Essay - 3 Tough to Swallow By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 Caveat Emptor By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第6回 "Essay - 5 I will survive By Anita Lee
- "
- 第7回 "Essay - 6 Going on ten ... By Anita Lee
- "
- 第8回 "Essay - 7 Honing Appreciation By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第9回 "Essay - 8 Leaving it all behind By Samantha Loong
- "
- 第10回 "Essay - 9 The Halloween Exorcise Plan By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 Promoting reading By Joel Assogba
- "
- 第12回 "Essay - 11 Abandoned buildings By Samantha Loong
- "
- 第13回 "Essay - 12 History, is it worth it? By Garry Bassin
- "
- 第14回 "Essay - 13 No ifs, ands, or butts By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Earthquake Weather By Samantha Loong
- "
- 第3回 "Essay - 2 Enjoy Every Sandwich By Steve Ford
- "
- 第4回 "Essay - 3 Summer Preserves By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 The Island Monologues By Garry Bassin
- "
- 第6回 "Essay - 5 It's tough being a man, but it's a whole new ball game By Kaori Shoji
- "
- 第7回 "Essay - 6 Thriller By Kit Pancoast Nagamur
- "
- 第8回 "Essay - 7 Dialect Diversity By Samantha Loong
- "
- 第9回 "Essay - 8 Fear of the Unknown By Garry Bassin
- "
- 第10回 "Essay - 9 Flee! Fly! Flu! By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 The Birds By Garry Bassin
- "
- 第12回 "Essay - 11 Blowing smoke By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第13回 "Essay - 12 Don't Kill the Messenger By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第14回 "Essay - 13 Restore, Not Raze By Karen Severns
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅴ【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本文化とイギリス文化
ねらい：① 英語教材を通して、日本文化と英米文化の異同を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方・Unit 1
第2回 Unit 2
第3回 Unit 3
第4回 Unit 4
第5回 Unit 5
第6回 Unit 6
第7回 Unit 7
第8回 Unit 8
第9回 Unit 9
第10回 Unit 10
第11回 Unit 11
第12回 Unit 12
第13回 Unit 13
第14回 Unit 14
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本文化とアメリカ文化
ねらい：① 英語教材を通して、日本文化とアメリカ文化の異同を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方・Unit 1
第2回 Unit 2
第3回 Unit 3
第4回 Unit 4
第5回 Unit 5
第6回 Unit 6
第7回 Unit 7
第8回 Unit 8
第9回 Unit 9
第10回 Unit 10
第11回 Unit 11
第12回 Unit 12
第13回 Unit 13
第14回 Unit 14
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【夜】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 国夜2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction to the course: Self introduction
- 第2回 My favourite place in Japan
- 第3回 My important friends
- 第4回 The sports I enjoy to watch and play
- 第5回 The places I want to visit
- 第6回 The food I like and what I can make
- 第7回 My favourite movies and actors/actresses
- 第8回 Countries of the world
- 第9回 What I would buy with 10 million yen
- 第10回 My family
- 第11回 The music I like
- 第12回 What I want to have for my dinner
- 第13回 What I do in the morning (routine)
- 第14回 The season I like
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) My summer holiday
- 第2回 The pets I like / the animals I hate
- 第3回 Health and fitness
- 第4回 The crossword puzzle
- 第5回 The person I want to meet
- 第6回 What I want for Christmas this year
- 第7回 My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回 Sporting heroes
- 第9回 The TV programmes I like to watch
- 第10回 My skills
- 第11回 My future dream
- 第12回 How I get the news in my life
- 第13回 My three most important possessions
- 第14回 My biggest worry at the moment
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 基本母音と基本子音(1)
- 2回 第2課 基本母音と基本子音(2)
- 3回 第3課 濃音と合成母音
- 4回 第4課 終声(パッチム)について
- 5回 発音のルール【有声音化】【濃音化】【連音化】
- 6回 発音のルール【激音化】
- 7回 発音のルール【鼻音化】【二つの字母の終声】【その他】
- 8回 第5課「私は～です」指定詞のハムニダ体(1)【肯定文と疑問文とその助詞】
- 9回 指定詞のハムニダ体(2)【否定文とその助詞】
- 10回 動詞と形容詞【基本形】
- 11回 動詞と形容詞のハムニダ体の作り方
- 12回 第6課「時間ありますか？」存在詞のヘヨ体【肯定文と否定文】
- 13回 時間と場所を表す単語とその助詞、位置を表すことば
- 14回 第7課「それは何ですか？」指定詞のヘヨ体の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課「それは何ですか?」【復習】指示代名詞と疑問詞・用言の尊敬形
- 2回 第8課「日曜日に何をしますか?」
- 3回 動詞と形容詞のへヨ体の作り方
- 4回 固有数詞と漢数詞
- 5回 第9課「何が好きですか?」動詞と形容詞のへヨ体【否定形】
- 6回 動詞と形容詞の変則について
- 7回 第10課「週末に何をしましたか?」
- 8回 動詞と形容詞のへヨ体【過去形】確認表現・願望表現
- 9回 第11課「明日は何をするつもりですか?」
- 10回 意思表現・行動の理由や根拠・丁寧な命令表現
- 11回 第12課「スープが冷たくておいしいです」
- 12回 並列と反意の接続語尾
- 13回 第13課「一度遊びに来てください」
- 14回 勧誘表現・約束表現など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検5級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 不定冠詞、定冠詞
- 3回 リエゾン
- 4回 主語人称代名詞、第1群規則動詞
- 5回 第1群規則動詞、疑問文
- 6回 否定文、疑問文への答え方、形容詞(1)
- 7回 所有形容詞、動詞(être)
- 8回 動詞(avoir)、冠詞の変形
- 9回 第2群規則動詞、指示形容詞、形容詞(2)
- 10回 冠詞の宿約、部分冠詞
- 11回 動詞(aller)
- 12回 動詞(venir)、命令法
- 13回 疑問代名詞、直接目的語代名詞
- 14回 間接目的語代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検4級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較級、最上級
- 2回 代名動詞
- 3回 複合過去
- 4回 単純未来
- 5回 関係代名詞(1)、半過去
- 6回 大過去
- 7回 条件法現在
- 8回 条件法過去
- 9回 現在分詞、ジェロンディフ
- 10回 過去分詞の一致、疑問形容詞、人称代名詞強勢形
- 11回 非人称構文、受動態、指示代名詞
- 12回 関係代名詞(2)、中性代名詞
- 13回 接続法現在
- 14回 接続法過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法のクラス(「フランス語I・基礎I」と併せて受講し6月の仏検で5級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検5級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話I (CD付き)』(加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 フランス語と授業のやり方についての説明。
- 2回 1課
- 3回 2課
- 4回 3課
- 5回 4課
- 6回 5課
- 7回 6課
- 8回 7課
- 9回 8課
- 10回 9課
- 11回 10課
- 12回 復習1
- 13回 復習2
- 14回 復習3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※6月の仏検で5級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法クラスの授業と併せて11月の仏検で4級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検4級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II (CD付き)』 (加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 1課
- 2回 2課
- 3回 3課
- 4回 4課
- 5回 5課
- 6回 6課
- 7回 7課
- 8回 8課
- 9回 9課
- 10回 10課
- 11回 復習1
- 12回 復習2
- 13回 復習3
- 14回 復習4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・ 50% 定期試験・・・ 50%

※11月の仏検で4級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。根気とパシオンでがんばること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay...を用いた表現(反復練習)
- 7回 動詞ester, hay...を用いた疑問文・返答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本的表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% 小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中国夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在 不規則動詞、直接目的格、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現集
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
 1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
 授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
 ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名
/Instructor

久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「ネイション」と「エスニシティ」【多文化主義】【同化主義】
- 3回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【スカーマン報告】【オルダム暴動】
- 5回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【サッチャー主義】【ロンドン同時多発テロ】
- 6回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 7回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 8回 東南アジアからみた「ネイション」と「エスニシティ」：学説史の整理【ナショナリズム】
- 9回 インドネシア(1)：「多様性の中の統一」からこぼれ落ちる人々【華人】
- 10回 インドネシア(2)：「統一が分離独立か」の二者択一を超えて【アチェ】【災害】
【イスラム教】
- 11回 ベトナム：ナショナリズムの輝きと黄昏【ベトナム戦争】【難民】【ドイモイ】
- 12回 マレーシア(1)：半島部における「民族の政治」【プミブトラ】【バンサ・マレーシア】
- 13回 マレーシア(2)：サバにおける民族の生成【ボルネオ】【選挙】
- 14回 東南アジアの事例のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords